marantz® AV Surround Receiver

SR6003

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保管してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などがありましたら、お早めにお買い上げ店、または最寄りの株式会社マランツコンシューマー マーケティング各営業所にお問い合わせください。

付属品の確認

下記の付属品がそろっていることを確認してください。

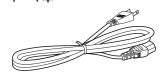
リモコン　1台

単4形乾電池　2本

マイク　1個

AM ループアンテナ　1個

FM アンテナ　1本

電源コード　1本

取扱説明書（本書）　1冊

保証書（外箱に貼り付け）　1部

目　次

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードを使用しないでください。
- この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場や窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 付属の電池はリモコンの動作確認用です。充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。電源周波数は50Hz地域または60Hz地域でご使用できます。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があります。次のような使い方はしないでください。
  この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。
- この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
- エアコンの下に置かないでください。エアコンから水滴が滴下した場合、汚損・故障・火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

警告

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

分解禁止

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注意

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。
- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス＋とマイナス－の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますので、指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜたり、種類の違う電池を混ぜたりして使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ご不要になった電池を廃棄する場合は、テープなどで絶縁し、各地の地方自治団体の指示（条例）に従って火気のない場所に処分してください。
- 電池はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けて下さい。

電源プラグをコンセントから抜く

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動のある所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- この機器または電池が入ったリモコンを次のような異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

  窓を閉めきった自動車の中

  直射日光が当たる場所

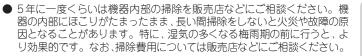
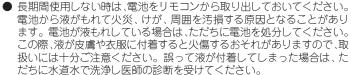
  火や暖房器具など熱を発生する機器の近く

注意

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス＋端子とマイナス－端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

- 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池が液もれしている場合は、ただちに電池を処分してください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って液が付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。

  ケース内に付着した液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

高温注意

- 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外の部分は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面や高温注意マークの周辺は高温になりますので絶対に触れないでください。

指の怪我に注意

- フロントパネルのドアとフロントパネルの間に指を挟まないように注意してください。

AV_080708F1

本機の主な特長

HDオーディオデコーダー搭載
本機には、以下のような最新のデジタル・サラウンド・サウンド・デコーディング・テクノロジーが搭載されています。詳細は、「サラウンドモード」（66ページ）を参照ください。
- Dolby True HD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital､Dolby Digital EX
- DTS-HD（Master Audio, Hi-Resolution Audio）
- DTS､DTS ES､DTS Neo:6､DTS 96/24
- MPEG-2 AAC
- Dolby Pro-Logic Ⅱx
- Circle Surround Ⅱ
- Neural Surround

Audyssey MultEQ® オートセットアップシステム
付属のAudyssey社製高性能マイクを使い、視聴エリア内の6ヶ所の視聴位置でスピーカーの特性とリスニングルームの特性を測定したデータを、高性能DSPにて分析、演算処理を行いリスニングルーム全体を複数のリスナーに対し、最適な視聴環境になるように周波数特性を補正するオートセットアップ機能を搭載しました。

ハイパワー100W×7チャンネル
100W×7チャンネルの同一パフォーマンスのハイパワー、ワイドレンジのディスクリートアンプを採用。大型電源トランスや大容量ブロックコンデンサによる強力電源部に支えられ、映画・音楽を問わず、優れたスピーカードライブ能力を実現しています。

HDMI端子の搭載
最新のVer1.3aに対応したHDMI用ICの搭載により、映像面ではDeep Colorやx.v.Color規格の映像の伝送に対応し、音声面ではBlu-ray DiscやHD DVDで採用されている「Dolby True HD」､「DTS HD」「Dolby Digital Plus」に対応しています。

ビデオコンバーター搭載
フルデジタル処理による映像信号のアップコンバーター（コンポジット → S-ビデオ／コンポーネント／HDMI、S-ビデオ → コンポーネント／HDMI、コンポーネント → HDMI）とダウンコンバーター（コンポーネント → S-ビデオ／コンポジット、S-ビデオ → コンポジット）を設けました。

ビデオスケーラー搭載
高精度10bitスケーラーICを搭載することにより、アナログビデオ端子に入力された480i/480p/720p/1080i信号を1080pまでアップスケーリングしてHDMIへ出力することが可能です。

I/Pコンバーター機能
ビデオ回路に高性能I/P（インターレース／プログレッシブ）コンバーターを搭載しました。
本機に入力される480iのコンポジット、S-ビデオ、コンポーネントビデオ信号を高速で正確なI/P変換を行い、コンポーネントの映像出力端子へ高品質でスムーズな480p映像を出力します。

GUI機能
セットアップメニューにグラフィカルユーザーインターフェースを採用しました。
スピーカーセットアップやアコースティックイコライザーのセットアップメニューでは、美しい3Dグラフィックイメージによるセットアップが可能です。

広帯域コンポーネントビデオセレクター
コンポーネントビデオ信号に対して入力を3系統、出力を2系統設けました。ハイビジョン信号等の広帯域（80MHz（－3dB））な映像信号に対応します。

USBメディアプレーヤー
USBメディアに記録した音楽コンテンツを再生することができます。再生可能なファイルフォーマットはMP3、WMA、AACおよびWAVに対応しており、お手持ちの音楽コンテンツをすぐに再生することが可能です。

M-DAX搭載
MP3やAAC等の非可逆圧縮によって失われた音域成分を補うM-DAX機能を搭載しました。

DCトリガー出力
電動スクリーンや電動カーテンなど、12V（ボルト）DCトリガーで動作する機器の操作が行えます。

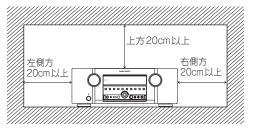
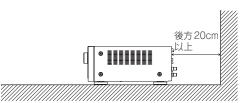
RS-232Cコントロール端子搭載
RC9001／RX9001等の外部機器によるコントロールに対応します。

マルチゾーンシステム
マルチゾーン用の出力として音声出力端子を装備しました。

その他の特徴
- 32bit 最新DSPを搭載
- 192kHz/24bit DAコンバータを全チャンネルに採用
- 192kHz/24bit ADコンバータをアナログ入力用に採用
- 7.1チャンネルダイレクト外部入力端子を有効活用できるAUX2入力
- L/R 2チャンネルスピーカーでもサラウンド効果を楽しめるバーチャルサラウンド機能
- 音楽再生時に映像出力を停止させる、ビデオオフモード
- TV信号入力で電源をON／OFFするTVオートパワー機能
- 液晶表示付きフルバックライトリモコン（ラーニング＆マクロ機能付き）
- 環境に配慮したスタンバイ消費電力低減モード
- フロントパネルにカーソルボタンを搭載
- ヘッドフォンで優れた頭外定位感を実現するドルビーヘッドフォンを搭載
- CDプレーヤーやDVDプレーヤーとのデジタル接続でHDCDソフトが再生できるHDCDデコーダーを搭載

ご使用の前に

次のような場所には置かない
本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には置かないでください。
- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 天地の狭いオーディオラックなど放熱を妨げる所

放熱のため、本機を壁や他の機器等から離して設置してください。

上に物をのせない
本機の上に物をのせないでください。
通気孔をふさぐと事故や故障の原因になります。

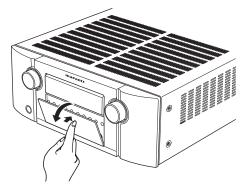
使用中・使用直後に上面や後面などの高温部には触れない
使用中と使用直後は、操作部以外は高温になっているので手を触れないでください。 やけどのおそれがあり危険です。 特に上面や後面などの高温部には触れないでください。

ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は、交流 100V をご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz 地域または60Hz 地域でご使用できます。

電源コードの取扱い

- 濡れた手で触れないでください。
- 電源コードは、かならずプラグを持って抜いてください。
  コードを強くひっぱったり、折曲げたりしますと、コードがいたみ、感電や火災の原因になります。
- お出かけ前には、かならずプラグを抜く習慣をつけましょう。
- 製品に同梱している電源コードは、同梱されている製品のみ使用できます。同梱している製品以外には、この電源コードを使用することができません。

フロントパネルドアの開閉

フロントパネルドアの内部にあるボタンで操作したい場合、パネルの下側を押してパネルドアを開けてください。ボタンを使用しない時は、パネルドアを閉めておいてください。

> ⚠ ご注意
> - パネルドアとパネルの間に指を挟まないように注意してください。

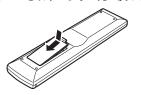
リモコンの使用について

リモコンに乾電池を入れる

付属のリモコンを最初にご使用になる前に、乾電池を入れてください。
付属の乾電池はリモコンの動作確認用です。

1. **リモコン背面の電池カバーを矢印方向に押しながら外します。**

2. **新しい単四乾電池を、極性表示（⊕：プラスと⊖：マイナス）に注意し、表示通りに正しく装着します。**

3. **電池カバーを以下のように元に戻します。**

電池の交換時期について

通常の使用状態では、アルカリ乾電池の場合、約4ヶ月もちます。

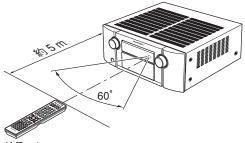
- 付属リモコンには不揮発性メモリーを使用しているので、電池を抜いても学習したコードやマクロプログラムは消滅しません。

乾電池の取扱いについて

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などの原因となることがあります。
以下の注意をよく読んでご使用ください。

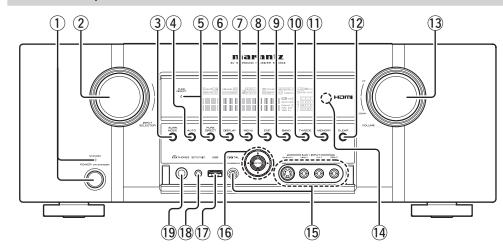
- 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しない時は、電池を取り出しておいてください。
- 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。
- 乾電池のプラス＋とマイナス－の向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- 乾電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 液もれを起こした時は、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、お住まいの地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所や火の近くなど異常に温度が高くなる場所に電池を放置しないでください。
  火災の原因となることがあります。

リモコンの動作範囲

リモコンによる本体の操作可能範囲は下図のとおりです。

使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

各部の名称

フロントパネル

① POWER ON／STANDBYボタン STANDBY（スタンバイ）インジケーター

電源の入／切（待機状態）を切り替えます。ボタンを押すと電源が入ります。
もう一度押すと、待機状態（STANDBYモード）になりSTANDBYインジケーターが点灯します。
（17ページ参照）

② INPUT SELECTOR（入力ファンクション切り替え）つまみ（音声／映像）

入力ソース機器を選択するときに使います。（17ページ参照）

③ SURROUND MODE（サラウンドモード）切り替えボタン

このボタンを押すと、サラウンドモードが切り替わります。（43､66ページ参照）

④ AUTO（オートサラウンド）ボタン

このボタンを押すと、オートサラウンドモードになります。
このモードを選択すると、本機は入力信号に対応するサラウンドモードを自動的に選択します。
（43､66ページ参照）

⑤ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）ボタン・インジケーター

このボタンを押すと、ソースダイレクトになり、表示部に「SOURCE DIRECT」と表示されます。
もう一度押すとピュアダイレクトになり、「PURE DIRECT」と表示されます。
PURE DIRECTインジケーターが点灯し、2秒後、表示部が消えます。
ソースダイレクト／ピュアダイレクトモードでは、トーンコントロール回路とバス・マネージメント機能がバイパスされます。（68ページ参照）
ご注意
- ソースダイレクト／ピュアダイレクトモードにすると、サラウンドモードは自動的にAUTOに切り替わります。
- 各スピーカーのサイズは自動的に以下のように設定されます。
  フロントスピーカー = LARGE
  センタースピーカー = LARGE
  サラウンドスピーカー = LARGE
  サラウンドバックスピーカー = LARGE
  サブウーファー = YES
- この設定はソースダイレクト／ピュアダイレクトが機能しているときの一時的な処理なので、SPEAKER SETUP MENUには反映されません。

⑥ DISPLAY（ディスプレイ）ボタン

このボタンを押すと、表示部のディスプレイモードを切り替えることができます。（42ページ参照）

⑦ MENU（メニュー）ボタン

このボタンを押すと、GUIメニューシステムが起動します。（24ページ参照）

⑧ EXIT（イクジット）ボタン

このボタンを押すと、GUIメニューシステムを終了します。（24ページ参照）

⑨ BAND（バンド）ボタン

このボタンを押すと、チューナーのFMとAMが切り替わります。（17ページ参照）

⑩ T-MODE（チューナー・モード）ボタン

このボタンを押すと、FMバンドを選択中に、オート・ステレオ・モードまたはモノ・モードが選択できます。
オート・ステレオ・モードのときは「AUTO」インジケーターが点灯します。（18ページ参照）

⑪ MEMORY（メモリー）ボタン

このボタンを押すと、チューナーに周波数をプリセットする、または放送局名を入力することができます。（51ページ参照）

⑫ CLEAR（クリア）ボタン

このボタンを押すと、放送局メモリ設定、あるいはプリセット・スキャンをキャンセルすることができます。（51､52ページ参照）

⑬ VOLUME（音量調節）つまみ

全体的な音量を調整します。このつまみを右に回すと音量が大きくなります。（17ページ参照）

⑭ リモコン受光部

リモコンの赤外線信号を受信します。
（5ページ参照）

⑮ AUX1 INPUT端子

ビデオカメラ、ポータブルDVD、ゲーム機等の接続に使用できます。

⑯ カーソルボタン（◀ / ▶ / ▲ / ▼）／ENTER ボタン

このボタンを押すと､GUIメニューシステム､USBおよびAM／FMチューナーの操作できます。
（17､24､47ページ参照）

⑰ USBジャック

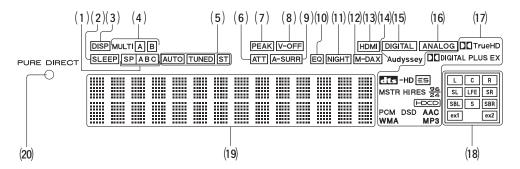
USBメディアを接続します。（20, 47ページ参照）

⑱ MIC（マイク）ジャック

付属のマイクを使用して、スピーカーの特性を自動的に測定および補正することができます。
（30ページ参照）

⑲ PHONES端子（ヘッドフォン端子）

ヘッドフォン用の接続端子です。この端子にヘッドフォンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。（43ページ参照）

表示部

(1) SP（スピーカー）ABCインジケーター

選択しているスピーカーシステムを表示します。スピーカーオフ時は A、B、Cともに消灯します。（21、44ページ参照）

(2) SLEEP（スリープタイマー）インジケーター

メインゾーンでスリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。（42ページ参照）

(3) DISP（ディスプレイオフ）インジケーター

表示部が消灯（ディスプレイオフ）状態のときに点灯します。（42ページ参照）

(4) MULTI（ゾーンシステム）ABインジケーター

マルチゾーン機能またはゾーンスピーカー機能使用しているときに点灯します。（53ページ参照）

(5) TUNER インジケーター

AUTO： チューナーがオートステレオモードのときに点灯します。

TUNED： 放送を受信しているときに点灯します。

ST（ステレオ）： FM放送をステレオで受信しているときに点灯します。

(6) ATT（アッテネーション）インジケーター

アッテネーション機能を使用しているときに点灯します。（44ページ参照）

(7) PEAK（ピーク）インジケーター

アナログ入力を選択時、入力信号が過大レベルになると点灯します。
このとき、アッテネーション機能を使って入力レベルを下げてください。（44ページ参照）

(8) V-OFF（ビデオ オフ）インジケーター

ビデオオフ機能を使用しているときに点灯します。（44ページ参照）

(9) A-SURR（オート・サラウンドモード）インジケーター

AUTO SURROUND（オートサラウンド）モードが選択されているときに点灯します。（43、66ページ参照）

(10) EQインジケーター

HT-EQ（ホームシアター）モード選択しているときに点灯します。（35ページ参照）

(11) NIGHT（ナイトモード）インジケーター

NIGHT モード機能を使用しているときに点灯します。（43ページ参照）

(12) M-DAXインジケーター

M-DAX機能を使用しているときに点灯します。（44ページ参照）

(13) HDMIインジケーター

本機がHDMI 接続されているときに点灯します。（15、27、46ページ参照）

(14) Audysseyインジケーター

EQ（イコライザー）モードが“AUDYSSEY”、“AUDYSSEY FRONT”、“AUDYSSEY FLAT”のときに点灯します。（40ページ参照）

(15) DIGITAL（デジタル入力）インジケーター

デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。（13、27、42ページ参照）

(16) ANALOG（アナログ入力）インジケーター

アナログ入力ソースが選ばれているときに点灯します。（13、27、42ページ参照）

(17) デジタル信号フォーマットインジケーター

入力されているデジタル入力信号のフォーマットを点灯します。

DDTrueHD：
ドルビーTrue HD信号が入力されているときに点灯します。

DDDIGITAL：
ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

DDDIGITAL PLUS：
ドルビーデジタルプラス信号が入力されているときに点灯します。

DDDIGITAL EX：
ドルビーデジタルEX信号が入力されているときに点灯します。

dts：
dts信号が入力されているときに点灯します。

dts-HD：
dts-HD信号が入力されているときに点灯します。

dts ES：
dts-ES信号が入力されているときに点灯します。

dts-HD MSTR：
dts-HDマスターオーディオ信号が入力されているときに点灯します。

dts-HD HIRES：
dts-HDハイレゾリューションオーディオ信号が入力されているときに点灯します。

dts 96/24：
dts-96/24 処理が施されたdts信号が入力されているときに点灯します。

HDCD：
デジタル入力でHDCD（High Definition Compatible Digital）信号が入力されているときに点灯します。

PCM：
PCM（Pulse Code Modulation）信号が入力されているときに点灯します。

DSD：
DSD（Direct Stream Digital）信号が入力されているときに点灯します。

AAC：
USBメディアでAACフォーマットのファイルを再生中またはAAC信号が入力されているときに点灯します。

WMA：
USBメディアでWMAフォーマットのファイルを再生中に点灯します。

MP3：
USBメディアでMP3フォーマットのファイルを再生中に点灯します。

(18) プログラムチャンネルインジケーター

入力されたデジタル入力信号のチャンネルを点灯します。

- 2ch信号が入力された時、 L、Rが点灯します。
- 5.1ch信号が入力された時、 L、C、R、SL、SR、LFEが点灯します。
- ドルビーデジタルEXまたはDTS-ES信号が入力された時、L、C、R、SL、S、SR、LFEが点灯します。
- 7.1ch信号が入力された時、 L、C、R、SL、SR、SBL、SBR、LFEが点灯します。
- 上記以外のチャンネルが含まれている場合、ex1またはex2が点灯します。

詳細は、66ページの「使用するサラウンドモードと入力信号について」をご覧ください。

ご注意

- 本機がDolby True HDをデコードしているとき、使用中のスピーカーのチャンネル数に応じて入力信号のステータスが表示されます。L、C、R、SL、SR、SWの5.1chのスピーカーシステムを使用している場合、7.1chの信号が入力されたときでも、“SBL”、“SBR”および“S”インジケーターは点灯しません。

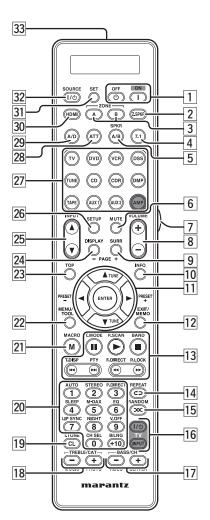
(19) メインインフォメーション表示

入力ファンクション、サラウンドモード、ボリュームや受信周波数等を表示します。（42ページ参照）

(20) PURE DIRECT（ピュアダイレクト）インジケーター

ピュアダイレクトモードを選択したときに点灯します。このとき、ピュアダイレクトインジケーター以外の表示は全て消灯します。（6、68ページ参照）

リモコン

付属のリモコンはユニバーサルリモート・コントローラーです。
POWER（電源）ボタン、数字ボタン、操作ボタンは本機だけではなく、様々なAV 機器に使用できます。

1 POWER ON／OFF（パワーオン／オフ）ボタン

（アンプモード選択時）
本機の電源をオン／オフするときに押します。
（17ページ参照）

2 Z.SPKR（ゾーンスピーカーA）ボタン

ゾーンスピーカーAをオン／オフするときに押します。（22、39、53ページ参照）

3 ZONE（ゾーン）A／B ボタン

ゾーンAまたはBをオン／オフするときに押します。
（22、39、53ページ参照）

4 7.1（7.1 チャンネル入力）ボタン

7.1チャンネル入力の選択および解除するときに押します。（20、44ページ参照）

5 SPKR（スピーカー）A/B ボタン

フロントスピーカーA、Bを切り替えるときに押します。
ボタンを押すたびに次のように切り替わります。
A → B → A+B → OFF → A
（12、44ページ参照）

6 MUTE（ミュート）ボタン

音声をミュート（消音）するときに押します。
（17ページ参照）

7 ライトボタン

リモコンのバックライトを点灯させたいときに押します。（56ページ参照）

8 VOLUME（ボリューム）＋／－ボタン

音量を調節するときに押します。
（17ページ参照）

9 SURR（サラウンド）ボタン

（DMP（USB）モード以外を選択している場合）
サラウンドモードを選択するときに押します。
（43ページ参照）

（DMP（USB）モード選択時）
次のページを選択するときに使います。

10 INFO（インフォメーション）ボタン

（アンプモード選択時）
本機の設定をTVモニターにオンスクリーンディスプレイ表示します。（37ページ参照）

（チューナーモード選択時）
プリセットメモリーされた放送局の一覧を表示します。（47ページ参照）

11 カーソルボタン／ENTER（エンター）ボタン

本機やDVDプレーヤーなどのカーソルを操作します。

（チューナーモード選択時）

PRESET＋／－（プリセット）ボタン
プリセットメモリーされた放送局を選択するときに押します。（47ページ参照）

TUNE ▲ / ▼ ボタン
受信周波数を調整するときに押します。
（17ページ参照）

12 EXIT（イクジット）／MEMO（メモ）ボタン

（アンプモード選択時）
本機のセットアップメニューを終了するときに押します。（24ページ参照）

（チューナーモード選択時）
プリセットチャンネルを登録するときに押します。
（47ページ参照）

13 コントロールボタン

再生、停止、一時停止や各ソース機器を操作するときに押します。

（チューナーモード選択時）（18、51ページ参照）

T.MODE（チューナーモード）ボタン
FM放送受信中にオートステレオまたはモノラルを選択するときに押します。
オートステレオ・モードの場合は「AUTO」表示が点灯します。

P.SCAN（プリセットスキャン）ボタン
プリセット・スキャンを開始するときに押します。

BAND（バンド）ボタン
ラジオの帯域（FM／AM）を選択するときに押します。

F.DIRECT（周波数ダイレクト）ボタン
受信周波数を数字キーを使用して、直接入力するときに押します。

T. DISP、PTY、P. LOCK ボタン
本機では使用しません。

（DMP（USB）モード選択時）（47ページ参照）

II ボタン
一時停止します。

▶ ボタン
再生します。

■ ボタン
停止します。

⏮ / ⏭ ボタン
前または次のファイルを再生します。

◀◀ / ▶▶ ボタン
早戻しまたは早送りします。

14 REPEAT（リピート）ボタン

DVDプレーヤーなどの機器でリピート（繰り返し）を選択するときに押します。（49、54ページ参照）

15 RANDOM（ランダム）ボタン

DVDプレーヤーなどの機器でランダム（任意）を選択するときに押します。（49、54ページ参照）

16 テレビコントロール ボタン

テレビやモニターの操作（電源および入力切替）ができます。（56ページ参照）

17 BASS（バス）／CH（チャンネル）＋／－ボタン

（アンプモード選択時）
低音を調整するときに押します。（17ページ参照）

（TV、DSSモード選択時）
チャンネルを選択するときに押します。
（54、56ページ参照）

18 TREBLE（トレブル）＋／－ボタン

（アンプモード選択時）
高音を調整するときに押します。（17ページ参照）

19 CL（クリアー）／T.TONE（テストトーン）ボタン

チューナーなどのメモリーを消去するときに使用します。

（アンプモード選択時）
テストトーンメニューを選択するときに使用します。（34ページ参照）

20 数字ボタン

ソース機器にトラックなどの番号を設定するときに押します。
リモコンがアンプモードに設定されている場合、これらのボタンを用いて以下の操作ができます。

（アンプモード選択時）

1/AUTOボタン
オートサラウンドを選択するときに押します。
（43ページ参照）

2/STEREOボタン
STEREOモードを選択するときに押します。
（68ページ参照）

3/P.DIRECTボタン
ソースダイレクトまたはピュアダイレクトを選択するときに押します。（68ページ参照）

4/SLEEPボタン
スリープタイマー機能を設定するときに押します。
（42ページ参照）

5/M-DAXボタン
M-DAX機能を選択するときに押します。
（44ページ参照）

6/EQボタン
Audysseyモードを選択するときに押します。
（40ページ参照）

7/LIP SYNCボタン
LIP SYNC（リップシンク）モードを選択するときに押します。（45ページ参照）

8/NIGHTボタン
Dolby Digital信号を再生中にナイトモードを選択するときに押します。（43ページ参照）

9/V.OFF ボタン
ビデオオフモードを選択するときに押します。
（44ページ参照）

0/CH SELボタン
チャンネルレベルまたは7.1CH入力のレベルを調整するときに押します。（27ページ参照）

21 M（マクロ）ボタン

マクロプログラムを使うときに使います。
ノーマルモードとマクロモードを切り替えます。
（59ページ参照）

22 MENU（メニュー）ボタン

（アンプモード選択時）
本機のセットアップメインメニューを呼び出しするときに押します。（24ページ参照）

23 TOP（トップ）ボタン

（アンプモード選択時）
本機のセットアップメニューを表示中にトップメニューに戻ります。（24ページ参照）

24 DISPLAY（ディスプレイ）ボタン

（DMPモード以外を選択している場合）
本機のディスプレイモードを選択するときに押します。（42ページ参照）

（DMPモードを選択している場合）
前のページに戻るときに使います。
（48ページ参照）

25 INPUT（インプット）▲/▼ボタン

本機の入力ソースを選択するときに押します。

26 SETUP（セットアップ）ボタン

DVDプレーヤーなどのセットアップを行なうときに押します。

27 ソースボタン

ソースボタンを1回押すと、このリモコンの操作モードが選択した機器に切り替わります。
ソースボタンを2秒以内に2回続けて押すと、本機の入力セレクターが変わります。

ご注意

- 本機の操作を行うにはAMPボタンを押してください。（アンプモード）

28 ATT（アッテネーション）ボタン

アナログ入力時に入力レベルを減衰させたいときに押します。
PEAKインジケーターが点灯する場合、この機能を使用してください。（44ページ参照）

29 A/Dボタン

HDMI、デジタルおよびアナログ入力を一時的に切り替えるときに押します。（42ページ参照）

30 HDMIボタン

HDMI出力1と2を切り替えます。
（37、46ページ参照）

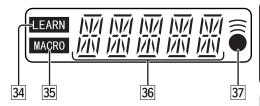
31 SETボタン

このリモコンの学習モードとプリセットモードを操作するときに押します。（53ページ参照）

32 I/⏻ SOURCE（オン／オフ）ボタン

DVDプレーヤー等のソース機器の電源をオン／オフするときに使います。
本機の電源をオン／オフするときにも使います。

33 赤外線送信部と学習用センサー

この部分から赤外線が送信されます。本機または操作したい機器の赤外線受光部に向けて使用してください。
学習機能を使用するときは、この部分に他のリモコンの赤外線送信部分を向けて使用してください。
（5、57ページ参照）

34 LEARN（学習）インジケーター

リモコンが学習モードのときに表示されます。

35 MACRO（マクロ）インジケーター

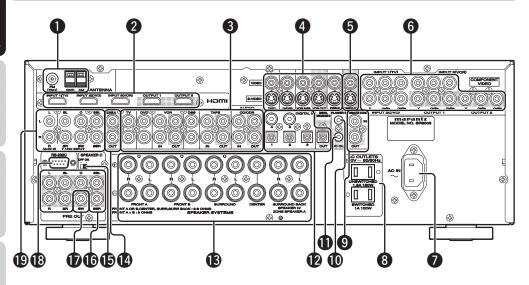
リモコンがマクロ学習モードのときに表示されます。

36 インフォメーションディスプレイ

操作対象のソース機器名やリモコンのモードを表示します。

37 （送信）インジケーター

各ボタンが押されてリモコンが送信しているときに表示されます。

リアパネル

❶ FMアンテナ端子（75 Ω）

付属のFMアンテナを接続します。
電波の弱い地域は市販のFMアンテナをご使用ください。（16ページ参照）

AMアンテナ端子およびアース端子

付属のAMループアンテナを接続します。
受信状態が最良になる位置にループアンテナを置いてください。（16ページ参照）

❷ HDMI入出力端子

HDMI入力端子が3系統とHDMI出力端子が2系統あります。（15ページ参照）

❸ オーディオ信号用端子（TV、DVD、VCR、DSS、TAPE、CD/CDR）

アナログ音声端子には6系統の音声入力端子と3系統の音声出力端子があります。（13、14ページ参照）

❹ 映像信号用端子

映像端子には入力端子が4系統、出力端子が1系統あります。それぞれ、ビデオおよびS-ビデオ用の端子があります。
ビデオデッキ、DVDプレーヤー、その他の映像機器を映像入力（IN）端子に接続します。録画に使用するときは映像出力（OUT）端子へ接続します。
（14ページ参照）

❺ モニター用映像出力端子（ビデオ信号出力、S-Video信号出力）

テレビやプロジェクターのビデオ入力端子やSビデオ入力端子に接続します。
本機は、ビデオ出力端子とSビデオ出力端子を各1系統装備しています。（14ページ参照）

❻ コンポーネントビデオ入出力端子

DVDプレーヤーまたはその他の機器にコンポーネントビデオ端子が装備されている場合は、本機のコンポーネントビデオ端子（Y、C_B/P_B、C_R/P_R）と接続してください。
コンポーネントビデオ入力コネクター3系統と、ディスプレイ機器用にコンポーネントビデオ出力コネクターが2系統あります。（14ページ参照）

❼ AC IN（AC差し込み口）

付属の電源コードを接続し、家庭用交流100V（50/60Hz）のコンセントに電源プラグを差し込みます。

万一の事故防止のため、本機からACケーブルが外せる配置にしてください。

❽ ACアウトレット（SWITCHED／UNSWITCHED）

本機のACアウトレットから他のAV機器に電源を供給できます。
本機はSWITCHEDとUNSWITCHEDのACアウトレットを装備しています。

SWITCHED（スイッチド：連動）

本機の電源オン／スタンバイに連動し、電源供給をオン／オフします。
消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

UNSWITCHED（アンスイッチド：非連動）

本機の電源オン／スタンバイに関係なく、電源供給をします。消費電力が最大150Wまでの機器を接続できます。

警告
絶対許容電力以上の機器を接続しないで下さい。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。

❾ リモートコントロール入出力端子

リモートコントロール（RC-5）端子が装備されたマランツ製AV機器と接続します。（21ページ参照）

❿ FLASHER IN（フラッシャー入力）端子

キーパッドなどを用いて各部屋から機器をコントロールする際に使用します。（23ページ参照）

⓫ DCトリガー出力端子

この端子は他の機器を制御するためのDC トリガー信号を出力する端子です。（スクリーン、電源等）
GUIメニューシステムでこれらの端子を作動させる条件を設定できます。（23、39ページ参照）

ご注意

この出力電圧は制御専用です。駆動用としては使用できません。

⓬ デジタル入力端子1-5、出力端子（光入出力＆同軸入力）

入力端子

デジタル機器（DVD、CD、MD、BSチューナー等）のデジタル信号出力端子に接続します。接続する機器の出力端子の種類に合わせて使用して下さい。
入力端子はINPUT SETUPにて変更することができます。（13、27ページ参照）

出力端子

デジタル録音機器（CDレコーダー、MDレコーダー等）またはゾーンB用のアンプの光デジタル信号入力端子に接続します。（13、22ページ参照）

⓭ スピーカー出力端子（L、R、C、SL、SR、SBL、SBR）

各チャンネル（フロントL/R-A、フロントL/R-B、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）のスピーカーに接続します。（12ページ参照）
サラウンドバックスピーカーをスピーカーCまたはゾーンスピーカーAとして使用することができます。（21、22ページ参照）

⓮ ゾーンA出力端子

マルチゾーンのオーディオ出力端子です。
他のオーディオアンプに接続することにより、マルチゾーンシステムで選択したソースを離れた部屋で聴くことができます。（22ページ参照）

⓯ SPEAKER C（スピーカーC）セレクタースイッチ

サラウンドバックまたはゾーンルームスピーカーとして使用するときは「OFF」に、SPEAKER Cとして使用するときは「ON」にします。（21ページ参照）

⓰ プリアンプ出力端子（L、R、C、SL、SR、SBL、SBR）

音声各チャンネルのプリアンプ出力端子です。外部パワーアンプを追加する場合に使用します。
（21ページ参照）

⓱ サヴウーファー用出力端子

サブウーファー用プリアンプ出力です。サブウーファー用の外部パワーアンプもしくはアンプ内蔵サブウーファーに接続します。（12ページ参照）

⓲ RS-232C

将来に向けてソフトウェアのアップグレードや外部コントロールシステムの接続用に使用します。

⓳ 7.1ch音声入力端子またはAUX2入力端子

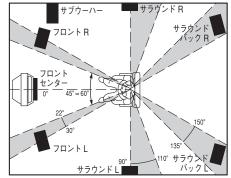
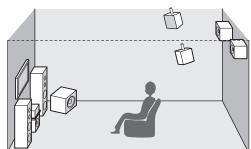
SACDマルチチャンネルプレーヤーやDVDオーディオプレーヤーのマルチチャンネル音声出力端子に接続します。（20ページ参照）

基本接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは　フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R、サブウーファーの合計８チャンネルです。
サラウンド再生に最低限必要なスピーカーシステムはフロントL/R、サラウンドL/Rですが、この場合ドルビーデジタルEXやDTS-ESの再生はできません。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。
（37ページ参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。

フロントL/Rスピーカー

リスニングポジションから見てＬとＲのスピーカーが 45度～60度の角度を持つように設置することを推奨します。

センタースピーカー

フロントL/Rスピーカーと前面を揃えるか、または少しだけ後方にずらして設置します。

サラウンドL/Rスピーカー

サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの真横または少しだけ後方にずらした壁際に設置します。スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サラウンドバックL/Rスピーカー

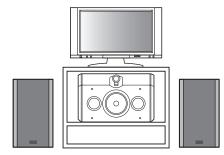
7.1chサラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの後の壁際に設置します。
スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サブウーファー

低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱うため、部屋の中であれば位置はそれほど重要ではありません。

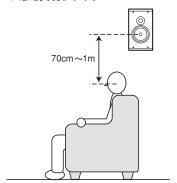
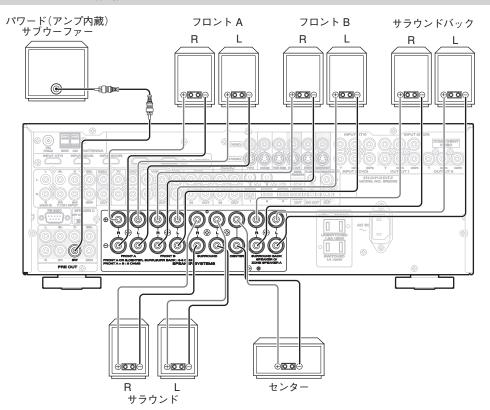
スピーカー配置の高さ

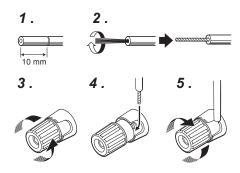
フロントスピーカー（L､R､センター）

3つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さに揃えます。

ご注意

スピーカーをテレビの近くに置く場合、フロントL/Rおよびセンタースピーカーは防磁型のスピーカーをご使用ください。

サラウンドL/R､サラウンドバックスピーカー

場所が許す限り、リスナーより70センチから1メートル程上方に設置します。この位置で設置することにより、音源定位を際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。

スピーカーの接続

スピーカーコードの接続

1. コードの被ふくを約10mm剥がします。
2. ショート防止のため、コードの芯線部分をきつくよじってください。
3. スピーカー端子を左方向に回して緩めます。
4. スピーカー端子の側面にある穴にスピーカーコードの芯線部分を挿入します。
5. スピーカー端子を右方向に回して、締めます。

警告

- 本機のリアパネルに記載されたインピーダンスのスピーカーを必ず使用してください。
- 回路の破損を防止するため、スピーカーコードの芯線どうしが接触したり、本機の金属部分に接触しないようにしてください。

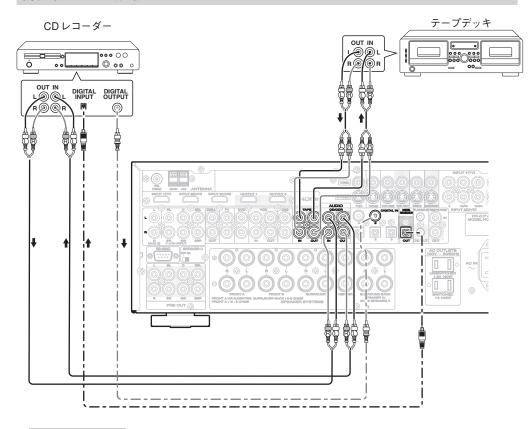
- 電源が入った状態でスピーカー端子に触れないでください。感電するおそれがあります。
- 1つのスピーカー端子に2本以上のスピーカーケーブルを接続しないでください。本機が破損する可能性があります。

ご注意

- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違って接続すると信号位相が反転し、再生される音楽は不自然になります。

サブウーファーの接続

パワード(アンプ内蔵)サブウーファーはPRE OUTのサブウーファー用出力端子に接続してください。

音声機器との接続

アナログ音声

デジタル音声（同軸ケーブル）

デジタル音声（光ケーブル）

TAPE出力端子とCD/CDR出力端子の出力は、現在選択されているアナログ入力ソースの音声です。

警告

- 各機器間のすべての接続が完了するまでは本機および他の機器の電源コードをコンセントに接続しないでください。

ご注意

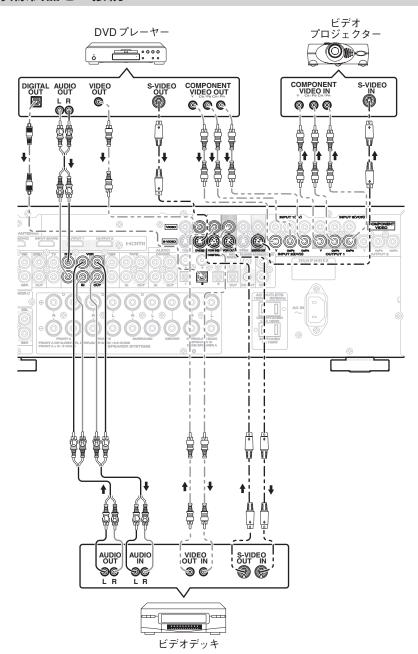
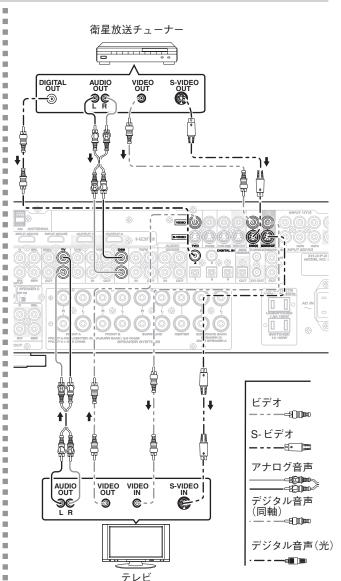
- すべての接続コードのプラグはしっかりと挿入してください。完全に接続されていないと雑音が発生することがあります。
- 左右のチャンネルを正しく接続してください。赤い端子はR（右）チャンネル、白い端子はL（左）チャンネルです。
- 入力と出力を正しく接続してください。
- 本機に接続する各機器の取扱説明書を参照してください。
- 音声／映像接続ケーブルを電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音が発生することがあります。

デジタル音声機器の接続

- リアパネルには光デジタル入力端子が3系統と同軸デジタル入力端子が2系統あります。
  これらの端子に、CD、DVD、その他のデジタルソース機器のPCM、Dolby Digital、DTS ビットストリーム信号を入力することができます。
- リアパネルには光デジタル出力端子が1系統あります。この端子はCD レコーダーやMDレコーダーの光デジタル入力端子に接続することができます。この端子をゾーンB出力として使用する場合は録音用出力として使用することはできません。
- DVDプレーヤーやデジタル入力端子に接続されたその他のデジタルソースの音声形式の設定については、各機器の取扱説明書を参照してください。
- DIG-1、2、3 入力端子には光ファイバーケーブルをご使用ください。DIG-4、5 入力端子では75 Ωの同軸ケーブル（デジタル音声用または映像用）をご使用ください。
- お持ちの機器に応じて、それぞれのデジタル入出力端子への入力を指定することができます。24ページをご覧ください。

ご注意

- 本機のデジタル信号端子はEIA規格に準拠しています。この規格に準拠しないケーブルを使用すると雑音が発生したり音が途切れたりすることがあります。
- デジタルおよびアナログそれぞれの音声端子は独立しています。
  デジタル端子とアナログ端子に入力された信号は、対応するデジタル端子とアナログ端子にそれぞれ出力されます。

映像機器との接続

ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント端子

本機には3つのタイプの映像端子があります。

VIDEO(ビデオ)端子

ビデオ端子の映像信号は従来の複合(コンポジット)映像信号です。

S-VIDEO(S-ビデオ)端子

S-ビデオ端子の映像信号は輝度信号(Y)と色信号(C)に分離して伝送します。
ビデオテープなどを再生する場合にはビデオ端子より高品質の映像再生ができます。
ご使用の映像機器にS-ビデオ出力端子がある場合はS-ビデオ出力の使用をお勧めします。

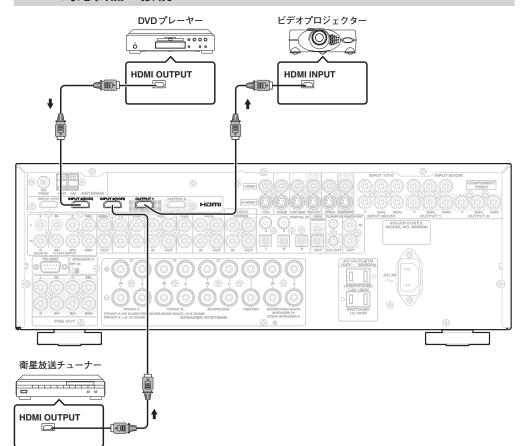
コンポーネント(色差ビデオ)端子

コンポーネントビデオ信号は輝度信号(Y)緑、色差信号(PB)青、色差信号(PR)赤の3本から構成されており、より高品質な映像再生ができます。ご使用の映像機器にコンポーネントビデオ出力端子がある場合はコンポーネントビデオ出力の使用をお勧めします。

ご注意

- 音声チャンネルのL(左)R(右)を正しく接続してください。赤いコネクターはR(右)チャンネル用、白いコネクターはL(左)チャンネル用です。
- 入力と出力を正しく接続してください。
- 本機には「ビデオコンバート機能」があります。映像の入出力については46ページを参照してください。
- お手持ちのDVDプレーヤーなどデジタルソース機器のデジタル音声出力形式を設定しなければならない場合があります。

  接続した各機器の取扱説明書を参照してください。
- コンポーネント出力1および2の端子からは同じ映像信号が出力されます。
- 本機にはTV-AUTO ON/OFF機能があります。この機能はTVのVIDEO端子に入力される映像信号により自動的に本機の電源をオンまたはスタンバイにします。(45ページ参照)

HDMI対応機器の接続

HDMI 端子

本機にはHDMI入力端子が3系統、HDMI 出力端子が2系統あります。この端子はDVDやその他のソースから直接ディスプレイ機器にデジタル映像および音声信号を送ります。そのためアナログ変換による信号の劣化を最小限に抑えることができるので、高品質の映像をお楽しみいただけます。

ご注意

- HDCP* に対応していないモニター機器にHDMI 出力を接続しても信号は出力されません。HDMIの映像を見るには、HDCPに対応したディスプレイ機器に接続してください。
- HDMI端子の詳細については、本機に接続するTVまたはディスプレイ機器の取扱説明書を参照してください。

* HDCP: 高帯域デジタルコンテンツ・プロテクション

HDMI対応機器の接続

市販のHDMIケーブルを使用して本機のHDMI端子とDVD／TV／プロジェクターなどのHDMI端子と接続します。
HDMI端子のマルチチャンネルオーディオ伝送には、対応したプレーヤーが必要です。

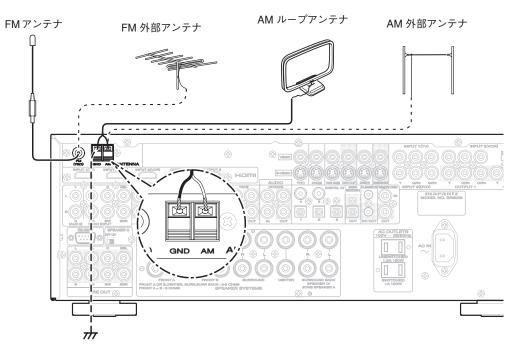
ご注意

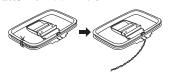
- DVDプレーヤーなどのソース機器の中にはHDMIリピーター動作に対応しない機器があります。このときTVまたはプロジェクターなどのモニター機器には出力されません。
- 複数の機器を接続したときは、お互いの干渉を防ぐため、使わない機器の電源を切ってください。
- 電源が入った状態でケーブルを抜き差しすると、故障の原因になります。電源を切った状態でケーブルの抜き差しを行ってください。
- HDMI 1.1に対応していないDVDプレーヤーを接続した場合、DVDオーディオディスクを再生してもマルチチャンネルPCM再生はできません。
- HDMI 1.2に対応していないスーパーオーディオCDプレーヤーをHDMI接続した場合、スーパーオーディオCDのDSD再生を行うことはできません。
- 本機とHDMI 1.3a未対応の機器を接続した場合、下記の機能は使用できません。
  - ディープカラー
  - x.v.Color
  - オートリップシンク
  - Dolby Digital PLUS、Dolby True HD、DTS-HDなどのビットストリーム音声信号のデコード

  詳細は接続する機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI端子から入力された音声信号でマルチチャンネルPCMおよびサンプリング周波数64kHz以上の信号はDIGITAL OUT端子から出力されません。
- HDMI信号は、使用するケーブルの品質によってノイズの影響を受けることがあります。
- 本機はHDMIコントロールに対応していません。しかし、本機をHDMIコントロールに対応した機器間に接続し、HDMIコントロール信号をスルーして制御を行なうことができます。（HDMIコントロールスルー）

  HDMI OUTPUT 2はHDMIコントロールスルーに対応していません。HDMIコントロールスルーを使用する場合は、HDMI OUTPUT1を使用してください。なお、HDMI入力は全てHDMIコントロールスルーに対応しています。

  HDMIコントロールとは、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を用いた機器間相互制御の機能です。HDMIケーブルでつなぐことにより、機器間で連動した操作を行うことができます。

アンテナの接続

AMループアンテナの組み立て

1. **接続線を取り出します。**

2. **台座部分を反対側に折り曲げます。**

3. **ループの底にあるフックを台座部分の溝に入れます。**

4. **安定した面にアンテナを設置します。**

付属アンテナの接続

付属 FM アンテナの接続

付属 FM アンテナは室内で使用してください。
使用時は、アンテナを伸ばしてクリアに受信できるまで様々な方向に移動させてください。
雑音が最も少ない場所に押しピンなどを使ってアンテナを固定します。
受信状態が悪い場合は、屋外アンテナを設置すると受信状態が良くなることがあります。

付属 AM ループアンテナの接続

付属のAM ループアンテナは室内で使用してください。
クリアに受信できる方向および位置にアンテナを設置します。
本機、TV、スピーカー、電源コードからできるだけ離して置いてください。
受信状態が悪い場合は、屋外アンテナを取り付けると受信状態が良くなることがあります。

1. **AMアンテナ端子のレバーを押します。**

2. **芯線をアンテナ端子に差し込みます。**

3. **レバーを離します。**

ご注意

- シールド線のGND線（黒）をAMアンテナ端子のGND側に接続します。

FM 屋外アンテナの接続

ご注意

- アンテナはノイズ源（ネオンサイン、交通量の多い道路など）から離して設置してください。
- アンテナを送電線や変圧器などから離して設置してください。
- 落雷や感電を防ぐため、必ず接地を行ってください。

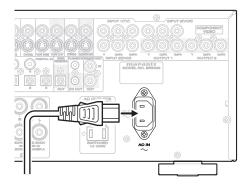
AM 屋外アンテナの接続

ご注意

- AMループアンテナは取り外さないでください。
- 落雷や感電を防ぐため、必ず接地を行ってください。

電源コードの接続

電源コードはすべての接続が終わってから接続してください。

1. **付属の電源コードを本機の背面の電源接続端子に差し込んでください。**

2. **電源コードのプラグを壁面の電源コンセント（AC100V、50/60Hz）へ接続してください。**

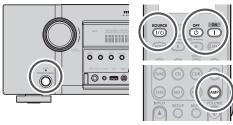
※ コンセントに接続する他の機器との消費電力の合計がコンセントの容量を超えないように注意してください。

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音等の発生の原因になります。
- 他製品のACアウトレットには接続しないでください。ACアウトレットの容量を超えて使用した場合、製品故障の原因になります。

基本操作

アンプ操作

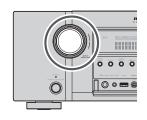
電源を入れる

1. 視聴したいAV機器（DVDプレーヤーなど）の電源を入れます。
2. 本機の*POWER ON/STANDBY*ボタンを押します。ボタンを押すたびにオンとスタンバイに切り替わります。

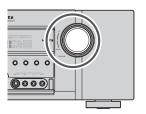
   リモコンで操作するには、*AMP*ボタンを押したあとで*ON*または*OFF*ボタンを押してください。

入力ソースの選択

例：DVD を再生する

（本機で操作する場合）
*INPUT SELECTOR*つまみをまわしてDVDを選択します。

（リモコンで操作する場合）
リモコンの*DVD*ボタンを２回続けて押します。

- 入力ソースが変わるとフロントパネルの表示部およびモニター画面に入力ソース名が表示されます。
- ファンクションリネーム機能を使用している場合は設定した名前が表示されます。（28ページ参照）
- 入力ソースが変わると、ソースに応じてサラウンドモードなどの設定が前回メモリーされた内容に変わります。
- チューナー（FMまたはAM）を選択したときは、直前に選択されていた映像が引き続き出力されます。

音量を調整する

フロントパネルの*VOLUME*つまみ、またはリモコンの*VOLUME ＋/ー*ボタンで、お好みの音量に調節します。
音量を上げるには、*VOLUME*つまみを右に回すか、リモコンの*VOLUME ＋*ボタンを押します。
音量を下げるには、*VOLUME*つまみを左に回すか、リモコンの*VOLUME ー*ボタンを押します。

ご注意

- 音量は－∞と -71 から＋18 dB の範囲で 1 dB 単位で調整できます。
- CHANNEL LEVEL設定でチャンネルのレベルを＋ 1 dB以上に設定した場合、最大音量は+18 dBより小さくなります。（35ページ参照）
- 本機の電源を切っても音量は記憶されていますが、+9dB以上に設定されていた場合、次回の電源オン時には+8dBに設定されます。

トーンを調整する

お好みや部屋の音響に合わせて低音域（BASS）と高音域（TREBLE）を調整することができます。
1dBステップで+/-6dBまで調整できます。

リモコンの*AMP*ボタンを押します。
低音域を調整するには*BASS+*または*BASS-*ボタンを押します。
高音域を調整するには*TREBLE+*または*TREBLE-*ボタンを押します。

ご注意

トーンコントロール機能は、以下のモードではご使用できません。

- ソースダイレクト、ピュアダイレクトモードおよび7.1chインプットモード
- ドルビーバーチャルスピーカーモードおよびドルビーヘッドホン使用時
- ドルビーTrue HD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HDおよび176.4/192kHz PCM再生中
- アコースティックイコライザーまたはM-DAX使用時

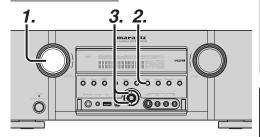
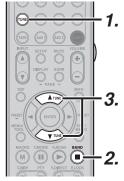
一時的に消音（ミュート）する

電話がかかってきたときなどに、一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。

1. リモコンの*MUTE*ボタンを押すと、本機のディスプレイおよびモニターテレビに“MUTE”と表示され、スピーカーから音がでなくなります。録音出力が途切れることはありません。
2. 再度リモコンの*MUTE*または*VOLUME ＋/ー*ボタンを押すとミュートは解除されます。

チューナー（FM／AM）を聴く

チューナー機能の操作をリモコンで行う場合は、リモコンをチューナーモードにしてから操作を行います。

オートチューニング

（本機で操作する場合）

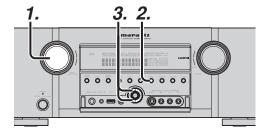
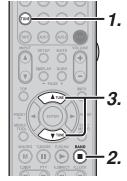
1. *INPUT SELECTOR*つまみを回してチューナー（FMまたはAM）を選択します。
2. *BAND*ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. ▲または▼ボタンを1秒以上押し続けると、オートチューニングモードになりスキャンを開始します。
4. 放送局を受信するとスキャンは停止して放送を聴くことができます。スキャン中に▲または▼ボタンを押すとスキャンは停止します。

（リモコンで操作する場合）

1. *TUNE* ボタンを2回続けて押します。
2. *BAND* ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. ▲*TUNE* または▼*TUNE* ボタンを1秒以上押すと、オートチューニングモードになりスキャンを開始します。
4. 放送局を受信するとスキャンが停止して放送を聴くことができます。スキャン中に▲*TUNE* または▼*TUNE* ボタンを押すとスキャンは停止します。

ご注意

受信状態が良くない場合、スキャンが停止しないことがあります。その場合はマニュアルチューニングまたはダイレクトチューニングを行ってください。

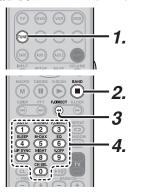
マニュアルチューニング

（本機で操作する場合）

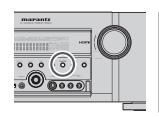
1. *INPUT SELECTOR*つまみを回してチューナー（FMまたはAM）を選択します。
2. *BAND*ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. ▲または▼ボタンを押して聴きたい放送局の周波数に合わせます。

（リモコンで操作する場合）

1. *TUNE* ボタンを2回続けて押します。
2. *BAND* ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. ▲*TUNE* または▼*TUNE* ボタンを押して聴きたい放送局の周波数に合わせます。

ダイレクトチューニング

聴きたい放送局の周波数がわかっている場合には、周波数を直接入力することができます。

1. *TUNE* ボタンを2回続けて押します。
2. *BAND* ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. *F.DIRECT* ボタンを押すと本機のディスプレイに「FREQ---」と表示されます。
4. 数字ボタンで聴きたい放送局の周波数を入力します。
5. 入力した周波数が選局されます。

FM受信モードを切り替える

通常はFMオートステレオモードで使用しますが、受信状態が良くない放送局では雑音が目立つことがあります。
その場合にはFMモノモードに切り替えると雑音が軽減され聴きやすくなります。

（本機で操作する場合）

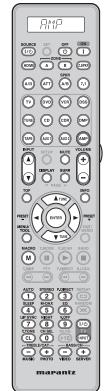
1. *T-MODE* ボタンを押すとディスプレイのAUTOインジケーターが消灯しモノモードになります。
2. もう一度*T-MODE* ボタンを押すとAUTOインジケーターが点灯しオートステレオモードになります。

（リモコンで操作する場合）

1. *T.MODE* ボタンを押すとディスプレイのAUTOインジケーターが消灯しモノモードになります。
2. もう一度*T.MODE* ボタンを押すとAUTOインジケーターが点灯しオートステレオモードになります。

リモコンで本機を操作する

付属リモコンを使って本機を操作するには、***AMP*** ボタン、***TUNE*** ボタンまたは ***DMP*** ボタンを押してください。アンプ、チューナーおよびDMP（USB）モードの詳細については以下を参照してください。

アンプモード

SOURCE ON/OFF	本機の電源オン／スタンバイ
POWER OFF	本機の電源をスタンバイ
POWER ON	本機の電源をオン
HDMI	HDMI出力1／2切り替え
ZONE A/B	ゾーンAまたはBをオン／オフ切り替え
Z.SPKR	ゾーンスピーカーAをオン／オフ切り替え
A/D	HDMI／デジタル／アナログ入力の切り替え
ATT	アナログ入力のレベルを減衰
SPKR A/B	フロントスピーカーシステムのA／B切り替え
7.1	7.1CH INPUTのオン／オフ切り替え
SOURCE	ソース機器を選択
AMP	リモコンをアンプモードに設定
INPUT ▲ / ▼	本機の入力セレクターを切り替え
DISPLAY	フロントパネルのディスプレイモード切り替え
MUTE	一時的にミュート（消音）
SURR	サラウンドモードの切り替え
VOLUME+/–	音量の調整
TOP	セットアップメニュー表示中にトップに戻る
INFO	現在の設定をモニター画面に表示
カーソル	セットアップメニュー表示中にカーソル移動
ENTER	セットアップメニュー表示中に設定の確認
MENU	セットアップメニューを表示
EXIT	セットアップメニューを終了
AUTO（1）	オートサラウンドモードを選択
STEREO（2）	ステレオモードを選択
P.DIRECT（3）	ソースダイレクト／ピュアダイレクトモード切り替え
SLEEP（4）	スリープタイマーの設定／解除
MDAX（4）	M-DAXモードの切り替え
EQ（5）	EQモードの切り替え
LIP.SYNC（7）	リップシンクの時間設定
NIGHT（8）	ナイトモードのオン／オフ
V-OFF（9）	モニター画面の映像をオン／オフ
T.TONE（CL）	テストトーンメニューを開始
CH SEL（0）	スピーカーレベルまたは7.1chレベルの調整
TV POWER	モニターテレビの電源オン／オフ
TV INPUT	モニターテレビの入力切り替え
TREBLE–/+	高音域の調整
BASS–/+	低音域の調整

チューナーモード

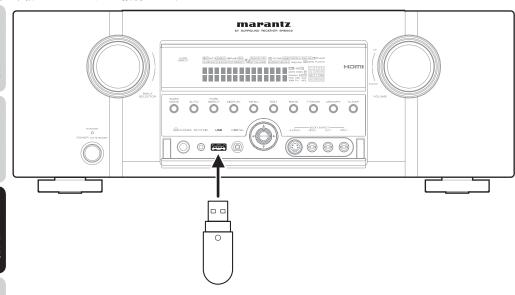
HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲ / ▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
INFO	プリセットメモリーされた情報をリスト表示
TUNE ▲ / ▼	受信周波数を調整
PRESET +▶/–◀	プリセットメモリーされた放送局を選択
EXIT/MEMO	プリセットメモリーの登録
T.MODE	FMオートステレオ／モノを切り替え
P.SCAN	プリセットスキャンを開始
BAND	受信バンド（FM／AM）切り替え
F.DIRECT	受信周波数を数字キーで入力
0-9	周波数やメモリーチャンネルを入力
CL	入力を取り消し
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

DMP（USB）モード

HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPK A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲ / ▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY（PAGE–）	前ページに移動
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR（PAGE+）	次ページに移動
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
TOP	最上位フォルダーに移動
カーソル	カーソルまたはフォルダーの移動
ENTER	フォルダーに移動／ファイルを再生
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮ / ⏭	前または次のファイルを再生
◀◀ / ▶▶	早戻し／早送り
AUTO（1）	アンプモードの機能が有効
STEREO（2）	アンプモードの機能が有効
P.DIRECT（3）	アンプモードの機能が有効
SLEEP（4）	アンプモードの機能が有効
M-DAX（5）	アンプモードの機能が有効
EQ（6）	アンプモードの機能が有効
LIP.SYNC（7）	アンプモードの機能が有効
NIGHT（8）	アンプモードの機能が有効
V-OFF（9）	アンプモードの機能が有効
T.TONE（CL）	アンプモードの機能が有効
CH SEL（0）	アンプモードの機能が有効
REPEAT	リピート再生
RANDOM	ランダム再生
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

応用接続

USB メディアの接続

本機にUSB メディアを接続します。

アドバイス

なるべく本機の電源を切ってからUSB メディアを取り外してください。

電源が入っているときにUSB メディアを外すと、データーが失われたり、USB メディアが損傷することがあります。

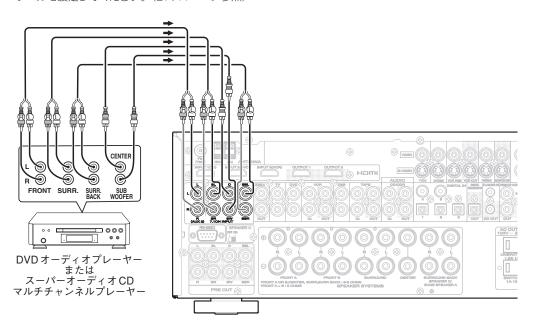
ご注意

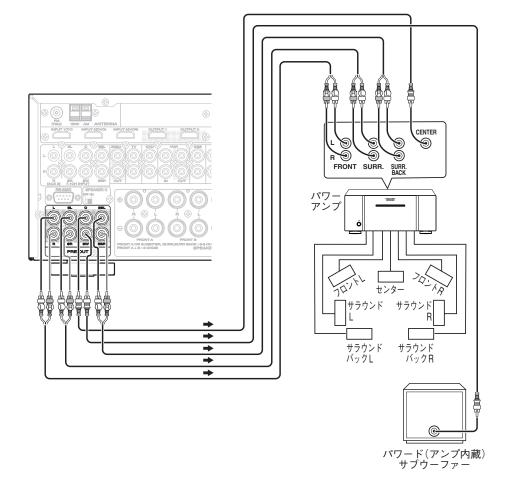
USB 延長用ケーブルはご使用にならないでください。

マルチチャンネルオーディオ機器との接続

7.1CH 音声入力端子は、スーパーオーディオCD マルチチャンネルプレーヤー、DVD オーディオプレーヤーまたは外付けのデコーダーのようなマルチチャンネルオーディオソース用の端子です。

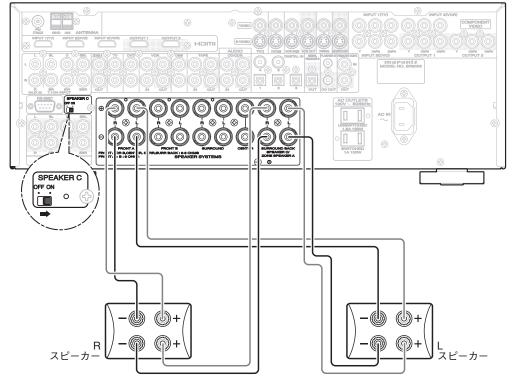
これらの端子を使用する場合には、7.1 CH INPUT に切替え、セットアップメニューを使用して、7.1 CH 入力レベルを設定してください。（27、44 ページ参照）

DVD オーディオプレーヤー
または
スーパーオーディオCD
マルチチャンネルプレーヤー

パワーアンプとの接続

パワーアンプ単体をシステムに追加することで、更にホームシアターの臨場感を高めることができます。
プリアンプ音声出力端子をパワーアンプと接続し、それぞれのスピーカーと、それに対応するパワーアンプを接続してください。

スピーカーCを使用した接続例（バイアンプ接続）

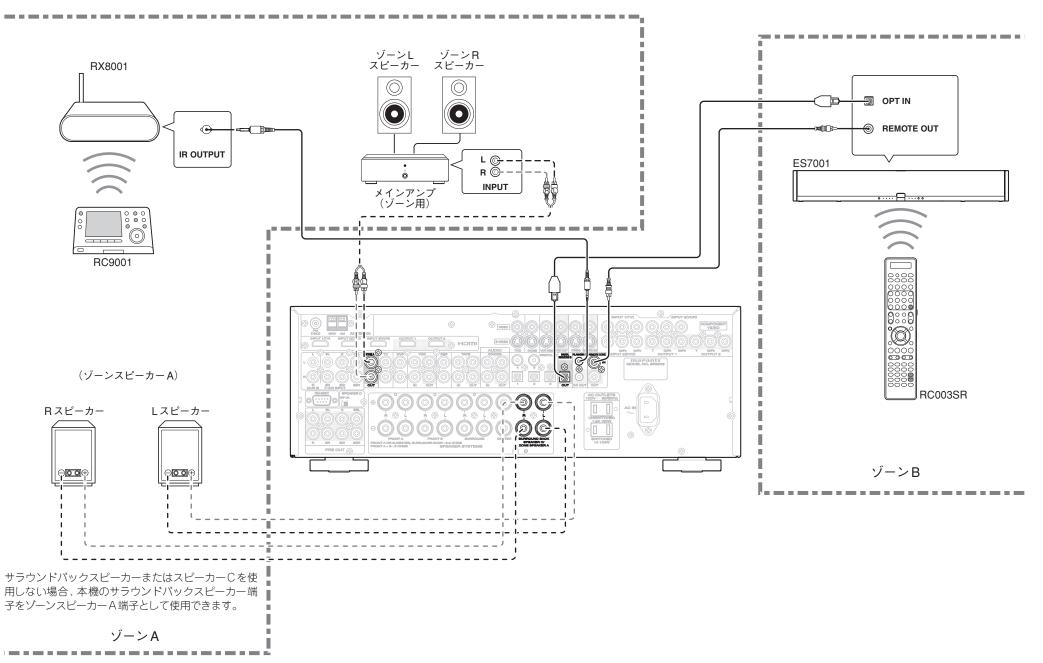
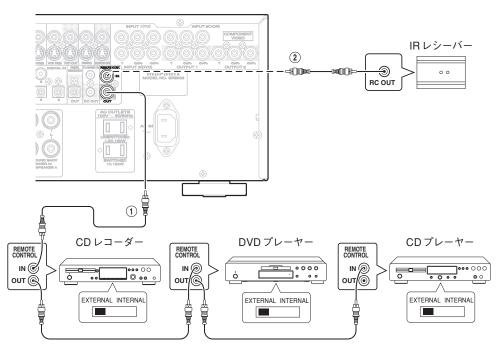
2組の入力（高音用 & 低音用）があるスピーカーに、バイアンプ接続ができます。
これは低音用と高音用のユニットを別々のチャンネルのアンプでドライブできることを意味しています。
従来のAVアンプでは難しかった低能率のスピーカーもバイアンプドライブで、より高音質が楽しめます。
接続は図を参照してください。リアパネルのSPEAKER C切り替えスイッチをONにします。

ご注意

- 接続を間違えると本機の保護回路がはたらきスタンバイ状態になります（スタンバイインジケーターが点滅します）。このような状態になったときはスピーカーと本機の接続を再確認してください。
- SPEAKER Cセレクタースイッチの設定を変える前に本機の電源を切ってください。

ご注意

- サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、本機のサラウンドバックスピーカー端子をゾーンAスピーカー端子またはスピーカーC端子として使用できます。

マルチゾーン接続

図のようにマランツ製などのアンプと組み合せることによって別室にて本機に接続された再生機器を使って音楽や映画鑑賞をすることができます。

リモートコントロールの接続

①
他のマランツAV製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。

- リモコン操作は本機に向けて行なってください。リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
- このリモートコントロール接続を行う場合、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチは、EXTERNAL またはEXT. に設定して下さい。
- マランツ製のパワーアンプ（一部のモデルを除く）をこれらの端子のいずれかに接続すると、パワーアンプの電源スイッチは本機の電源スイッチと同調して作動します。

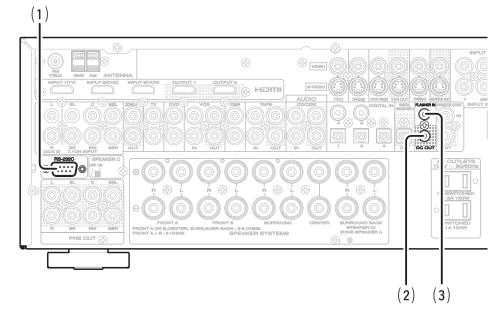
②
本機のリモートコントロール端子に外付け赤外受光部などを接続して操作する場合、必ず以下の手順に従って本機の赤外受光部の動作を無効にしてください。

1. **フロントパネルの*SURROUND MODE*ボタンと*MENU*ボタンを同時に5秒間押し続けます。**
2. **FLディスプレイにIR = ENABLEと表示されます。**
3. **◀ または ▶ カーソルを押してこれをIR = DISABLEに変更します。**
4. ***ENTER*ボタンを押します。この設定を行うと本機の赤外線受光部が無効になります。**

ご注意:

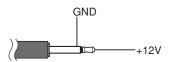
- 外付け赤外受光部などが接続されていない場合は、必ず「IR=ENABLE」に設定してください。「IR=DISABLE」に設定されていると、リモコンでの操作ができません。

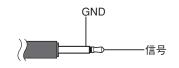
5. **元の設定に戻すには、手順*1*から*4*を繰り返し、IR = ENABLEに設定してください。**

その他の接続

(1) RS232C

外部コントロール機器と接続します。（接続の際はストレートケーブルを用います。また、メンテナンス用にも用います。）

(2) DC OUT（DC トリガー）

DC TRIGGER 出力（12V）を外部機器と接続することによって外部機器をコントロールします。
出力電流は最大44mAです。

(3) FLASHER IN

コントロールBOX等を接続することにより本機をコントロールできます。

システムセットアップ

すべての機器の接続が終了した後、GUIメニューシステムを用いて各種設定を行ってください。

グラフィカル・ユーザー・インターフェース（GUI）メニューシステム

本機にはGUIメニューシステムが搭載されています。このシステムを、リモコンまたはフロントパネルの**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶と***ENTER***ボタンを用いて様々な設定を行います。

ご注意

- 「システムセットアップ」は全てGUIメニューを見ながら設定をします。GUIメニューシステムを見るためには、お手持ちのTVまたはプロジェクターのビデオ入力を本機のリアパネルのMONITOR OUT端子に接続してください。（14、15ページ参照）

1. **リモコンの*AMP*ボタンを押します。（本機でセットアップメニューを操作する場合は、この操作をする必要はありません。）**

2. **リモコンの*MENU*ボタンまたは本機の*MENU*ボタンを押します。**

モニターにGUIメニューシステムの「Main Menu」が表示されます。

Main Menuには6つの設定項目があります。

3. **カーソルボタン▲ / ▼で希望するサブメニューを選択し、*ENTER*ボタンを押します。選択したサブメニューが表示されます。**

アドバイス

- 設定した項目を安易に変更できなくするために、ロック機能があります。
- ロック機能はMain Menuの1～6の各項目ごとに設定することができます。

<ロック機能の設定手順>

（1） Main Menuを表示させてロックを設定したい項目を**カーソル**ボタン▲ / ▼で選択します。

（2） **カーソル**ボタン◀ / ▶を押して、🔒（鍵）アイコンがあらわれるようにします。

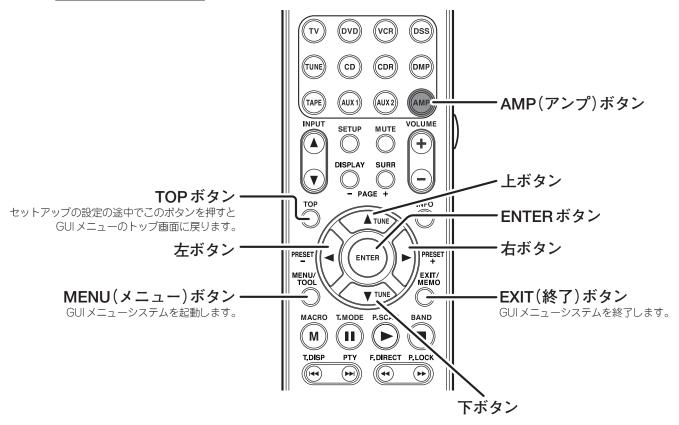
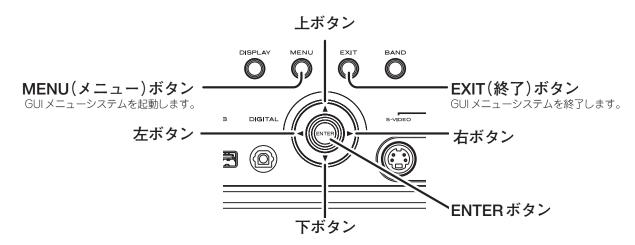
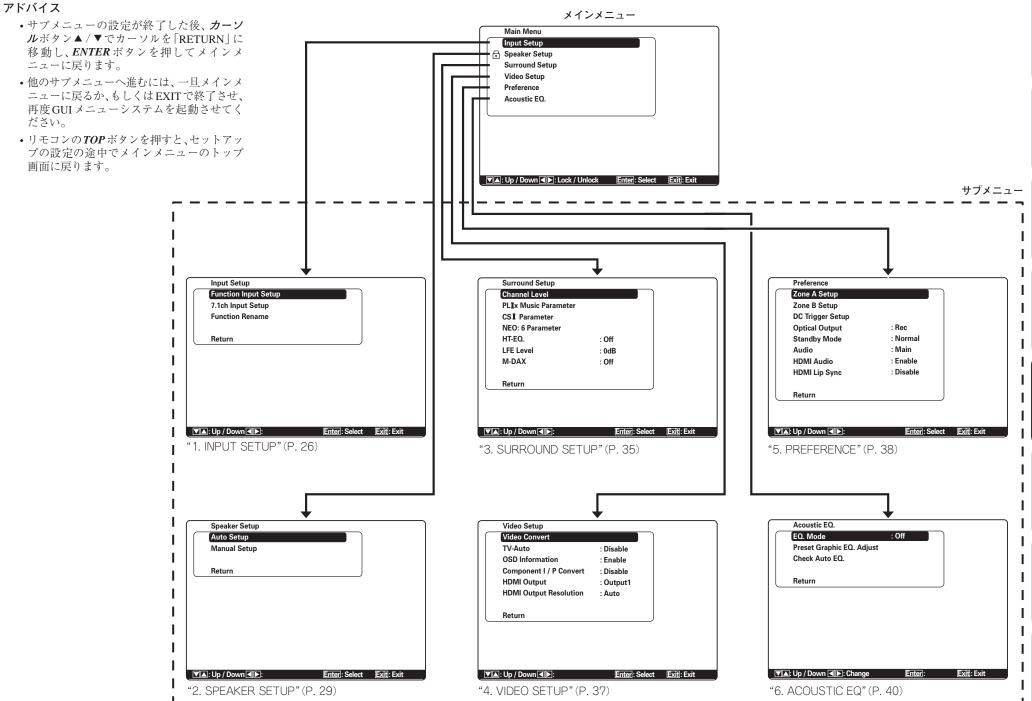
（3） 全ての項目に対して設定が終わったら、**カーソル**ボタン▲ / ▼でカーソルを「EXIT」に移動させます。***ENTER***ボタンを押すと設定が終了します。

RC003SRボタンレイアウト

SR6003ボタンレイアウト

アドバイス

- サブメニューの設定が終了した後、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「RETURN」に移動し、***ENTER***ボタンを押してメインメニューに戻ります。
- 他のサブメニューへ進むには、一旦メインメニューに戻るか、もしくはEXITで終了させ、再度GUIメニューシステムを起動させてください。
- リモコンの***TOP***ボタンを押すと、セットアップの設定の途中でメインメニューのトップ画面に戻ります。

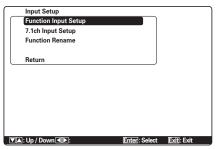
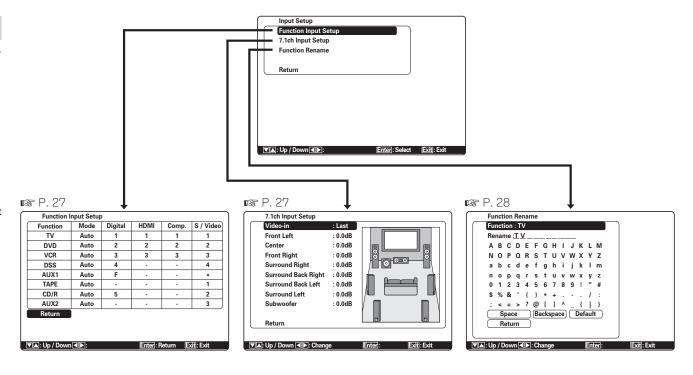
"1. INPUT SETUP"(P. 26)
"3. SURROUND SETUP"(P. 35)
"5. PREFERENCE"(P. 38)
"2. SPEAKER SETUP"(P. 29)
"4. VIDEO SETUP"(P. 37)
"6. ACOUSTIC EQ"(P. 40)

1 INPUT SETUP

接続するオーディオ／ビデオ機器の出力と本機の各入力端子の関係を設定します。

• **Function Input Setup：**
「1-1 FUNC INPUT SETUP」(27 ページ参照)

• **7.1 ch Input Setup：**
「1-2 7.1 CH INPUT SETUP」(27 ページ参照)

• **Function Rename：**
「1-3 FUNCTION RENAME」(28 ページ参照)

1. Main Menuからカーソルボタン▲/▼で「Input Setup」を選択し、 *ENTER* ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲/▼で設定するサブメニューを選択し、*ENTER* ボタンを押します。

1-1 FUNCTION INPUT SETUP

FUNCTION INPUT SETUPの設定では、本機のリアパネル上のデジタル入力（Digital）、HDMI入力（HDMI）、コンポーネントビデオ入力（Comp.）、ビデオ／S-ビデオ入力（S/Video）の各入力端子、フロントパネル上のデジタル入力（Digital）を本機の各Functionに自由に割り当てることができます。
またFunctionのMode設定では、各入力に対して優先順位を設定することができます。

1. Function Input Setupメニューから*カーソルボタン*▲/▼で「FUNC INPUT SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

Function Input Setup

Function	Mode	Digital	HDMI	Comp.	S / Video
TV	Auto	1	1	1	1
DVD	Auto	2	2	2	2
VCR	Auto	3	3	3	3
DSS	Auto	4	-	-	4
AUX1	Auto	F	-	-	*
TAPE	Auto	-	-	-	1
CD/R	Auto	5	-	-	2
AUX2	Auto	-	-	-	3

Return

▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: Return Exit: Exit

2. *カーソルボタン*▲/▼/◀/▶で変更したい設定項目を選択します。

Mode（モード）

Auto:
入力信号を自動的に検出する場合は「**Auto**」を選択します。
HDMI入力→デジタル入力→アナログ入力の順番に入力信号の検出が行われます。
初期設定はAutoに設定されています。

HDMI:
HDMI信号のみを使用する場合は「**HDMI**」を選択します。

Digital:
デジタル信号のみを使用する場合は「**Digital**」を選択します。

Analog:
アナログ信号のみを使用する場合は「**Analog**」を選択します。

Digital
希望するファンクションに1〜5までと F（フロント）デジタル入力を割り当てることができます。
デジタル入力端子の番号を割り当てます。

HDMI
HDMI入力端子1〜3の番号を割り当てます。

ご注意
- HDMI AudioがThrough（スルー）に設定されていると、本機から音声を出力することはできません。（38ページ参照）

Comp
COMPONENT VIDEO入力端子の番号1〜3を割り当てます。

S/Video
コンポジットビデオおよびS-ビデオの入力端子1〜4を割り当てます。

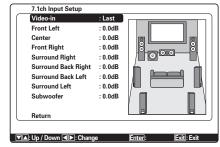
ご注意
- ビデオとSビデオを別々の番号に割り当てることはできません。
- AUX1のビデオ／S-ビデオ入力はフロントパネル上の入力端子が固定になっているため、他の入力端子を割り当てることはできません。

3. *ENTER*ボタンを押します。
4. *カーソルボタン*◀/▶でそれぞれのモード設定と入力端子を選択します。
5. *ENTER*ボタンを押します。
6. 手順**2.**から**5.**までを繰り返して、各項目を設定します。

ご注意
- 割当の番号はリアパネルの入力端子番号です。番号をよく確認してください。
- 音声や映像が出力されない場合、入力端子番号を再確認してください。

1-2 7.1 CH INPUT SETUP

ここでは、7.1ch 入力ソース（7.1 CH IN端子）のスピーカーレベルなどを設定します。
リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。

1. Input Setupメニューから *カーソルボタン*▲/▼で「7.1 ch Input Setup」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. *カーソルボタン*▲/▼で「Video-in」を選択します。
3. *カーソルボタン*◀/▶で、MONITOR OUT端子から再生する映像入力ソースを選択します。
   入力ソースは*カーソルボタン*◀/▶で次の順で切り替えることができます。
   Last ↔ TV ↔ DVD ↔ VCR ↔ DSS ↔ AUX1 ↔ TAPE ↔ CD/R ↔ AUX2 ↔ V-OFF ↔ Last ↔ ...

ご注意
- 「Last」を選択すると、7.1 ch入力モードが設定される前に選択されていたビデオソースが出力されます。
- 「Video-off」を選択すると、MONITOR OUT端子から映像は出力されません。（GUIメニューは出力されます）。

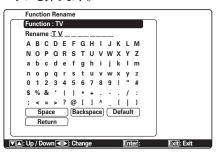
4. *カーソルボタン*▲/▼で音量を調整したいチャンネルを選択します。
5. *カーソルボタン*◀/▶で各チャンネルの音量を調整します。（各スピーカーからの音量を同一にします。）
6. *カーソルボタン*▲/▼/◀/▶でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER*ボタンを押してInput Setupメニューに戻ります。

ご注意
- 各スピーカーのレベルは－12〜＋12dBの1dBステップで、サブウーファーは－18〜＋12dBの1dBステップで設定できます。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

1-3 FUNCTION RENAME

入力ファンクション名を任意の名前に変えることができます。
登録可能な最大文字数はスペースも含め10文字までです。（文字はこのGUIメニューシステムに表示される文字から選びます）登録したファンクション名は本機表示部とOSDインフォメーションに表示されます。
ただし、GUIメニューシステム内の項目には反映されません。

1. Input Setupメニューから、カーソルボタン▲ / ▼で「Function Rename」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲ / ▼で「Function」部を選択します。

3. カーソルボタン◀ / ▶で入力ソースを選択します。

4. カーソルボタン▲ / ▼で「Rename」部を選択します。

5. カーソルボタン◀ / ▶で変更する位置へ移動します。（1文字目から10文字目の間）

6. カーソルボタン▼でキャラクタ部「A」に移動します。（必ず最初は「A」に移動します。）

7. カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でキャラクタを選択します。

8. *ENTER*ボタンを押して確定します。

9. 手順*5.*から*8.*までを繰り返して、名前を入力します。

Backspace:
Rename部の現在の位置を左に移動して1文字を消します。

Default:
Rename部の名前をFunction部の名前と同じにもどします。

Space:
Rename部の現在の位置を空白にします。

10. カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶で「Return」に移動し、*ENTER*ボタンを押してInput Setupメニューに戻ります。

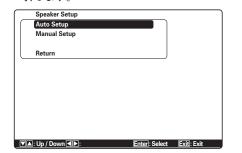
ご注意

- 全てのリネーム文字をスペース（空白）にすることはできません。

2 SPEAKER SETUP

本機を設置し、機器をすべて接続し、スピーカーの配置を決定したら、次にSpeaker Setupメニューで室内環境とスピーカー配置に最適な値を設定します。

- **Auto Setup:**
  「2-1 AUTO SETUP（Audyssey MultEQ®）」
  （30ページ参照）
- **Manual Setup:**
  「2-2 MANUAL SETUP」（33ページ参照）

1. Main Menuからカーソルボタン▲/▼で「Speaker Setup」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲/▼で設定したいメニューを選択して*ENTER*ボタンを押します。

3. 各設定が終了した後、カーソルボタン▲/▼/◀/▶で「Return」を選択し、*ENTER*ボタンを押してサブメニュー（Speaker Setup）に戻ります。

Speaker Setup
Auto Setup
Manual Setup
Return
▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: Select Exit: Exit

☞ P. 30

Audyssey MultEQ Setup
Start
Main Zone Surround Back : 2ch
Return
▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: OK Exit: Exit

Audyssey MultEQ Setup
Speaker Check : – –
1st Mic Position
Now Analyzing!!
Cancel
▼▲: ◀▶: Enter: OK Exit: Exit

Audyssey MultEQ Setup
Speaker Check : OK
2nd Mic Position
Start
Check
Calculate
▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: OK Exit: Exit

Audyssey MultEQ Setup
Now Analyzing!!
Cancel
▼▲: ◀▶: Enter: OK Exit: Exit

Audyssey MultEQ Setup
▮▮▮▮--------------
Now Calculating!
▼▲: ◀▶: Enter: Exit:

Check Result
Speakers Config
Speakers Size
Speakers Distance
Channel Level
Crossover Frequency
Store
▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: Select Exit: Exit

☞ P. 33

Manual Setup
Speakers Size
Speakers Distance
Speakers Level
Return
▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: Select Exit: Exit

Speakers Size

Subwoofer	: Yes
Front	: Small
Center	: Small
Surround	: Small
Surround Back	: 2ch
Surround Back Size	: Small
LPF / HPF	: 80Hz
Bass Mix	: * * *

Return
▼▲: Up / Down ◀▶: Change Enter: Exit: Exit

Speakers Distance

Unit	: Meters
Front Left	: 3.05 m
Center	: 3.05 m
Front Right	: 3.05 m
Surround Right	: 3.05 m
Surround Back Right	: 3.05 m
Surround Back Left	: 3.05 m
Surround Left	: 3.05 m
Subwoofer	: 3.05 m

Return
▼▲: Up / Down ◀▶: Change Enter: Exit: Exit

Speakers Level

Test Mode	: Manual
Front Left	: 0.0dB
Center	: 0.0dB
Front Right	: 0.0dB
Surround Right	: 0.0dB
Surround Back Right	: 0.0dB
Surround Back Left	: 0.0dB
Surround Left	: 0.0dB
Subwoofer	: 0.0dB

Return
▼▲: Up / Down ◀▶: Change Enter: Exit: Exit

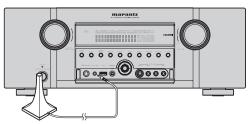
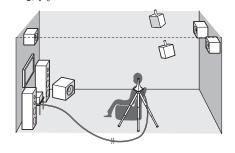
2-1 AUTO SETUP（Audyssey MultEQ®）

Audyssey MultEQによるオートセットアップでは、リスニング環境の音響上の問題が自動測定され、最良の音響体験を生み出す設定に最適化されます。

Audyssey MultEQは、スピーカーから出力される音の影響によって発生する室内における周波数特性の不調和を除去します。これにより、カラレーションが発生することなく、特定の位置だけでなく広いリスニングエリア全体で、意図したとおりの音質が再生されます。
Audyssey MultEQでは、室内の最大6ヶ所のリスニングポイントを測定し、スピーカーの有無を検出して、スピーカーサイズ、チャンネルレベル、距離、および最適なクロスオーバー周波数設定を自動計算します。

オートセットアップの操作のしかた

測定中はGUIメニュー画面に現在の状態が表示されるのでモニター機器の電源を入れてください。

1. **付属のマイクを本機のMICジャックに接続します。**

2. **マイクをメインリスニングポイントに設置します。**

ご注意

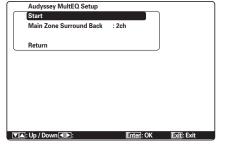
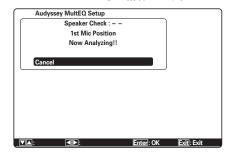
- 測定はメインリスニングポイントの近くで、最大6ヶ所で行うことができます。
  最初の測定はメインリスニングポイントにマイクを設置して測定を行ってください。
- 測定するすべてのリスニングポイントに対して、マイクを天井にまっすぐ向けた状態で、スタンドや三脚を使用してマイクをリスニング時の耳の高さに合わせて設置してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物を置かないようにしてください。
- アンプ内蔵のサブウーファーを使用する場合はボリュームを中央に設定し、クロスオーバー周波数をオフまたは一番高い周波数に設定してください。
- 測定中は、マイクとスピーカーの間に立たないでください。室内はできるだけ静かにしてください。暗騒音が室内測定に影響を与える場合があります。窓を閉め、各種装置（携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、電化製品、調光器など）の電源を切ってください。

  測定時は、携帯電話をすべてのオーディオ電子機器から離れた場所に置いてください。携帯電話は、不使用時でも無線周波妨害（RFI）により測定に影響を与える場合があります。

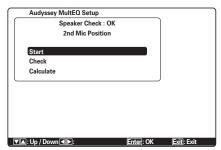
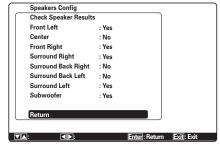
  オートセットアップは、フロントパネルではなくリモコンで操作することをお勧めします。
- 各チャンネルから再生されるテストトーンの音量は、リスニング環境の周辺雑音を上回り、最適なS/N比が得られるまで大きくなります。

3. **Main Menuで「Speaker Setup」を選択し、*カーソル*ボタン▲ / ▼で「Auto Setup」を選択し、*ENTER*ボタン押してスタート画面を表示させます。**

4. **使用しているサラウンドバックスピーカーのチャンネル数を選択します。ご使用になられるスピーカーシステムの構成が5.1チャンネルの場合は「No」（サラウンドバックスピーカー無し）を選択します。**
スピーカーCまたは、ゾーンスピーカーAをご使用の場合は「No」に設定します。（21、39ページ参照）

***カーソル*ボタン▲ / ▼で「Start」を選択し、*ENTER*ボタンを押して測定を開始させます。**

5. **メインリスニングポイントとは、リスニング環境内でリスナーが主に座る、最も重要なポイントです。MultEQでは、このポイントからの測定値を使用して、スピーカーの距離、チャンネルレベル、極性、およびサブウーファーの最適なクロスオーバー値を計算します。**

ご注意

- Speaker Checkは接続されているスピーカーを検出します。
  スピーカーが接続されていなければそれを検出して次のチャンネルへ進みます。

6. **1ポイント目のチェックが終わると次のようなGUI画面が表示がされます。**

ここでチェックの結果を見る場合は*カーソル*ボタン▲ / ▼で「Check」を選択し、*ENTER*ボタンを押してチェック結果を表示させます。

エラーメッセージが表示された場合はその項目について適切な処理を行ってから再測定をしてください。
（エラーメッセージは、「エラーメッセージについて」32ページを参照してください。）
チェック結果の確認が終わったら、*カーソル*ボタン▲ / ▼を押して「Return」を選択し、*ENTER*ボタンを押して下記のGUI画面に戻してください。
この時、「EXIT」を選択してオートセットアップを終了させ、「Speaker Setup」に戻ることもできます。

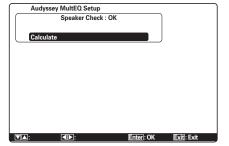
ご注意

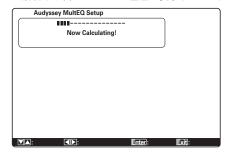
- オートセットアップは、ピュアダイレクト、ソースダイレクトまたは7.1チャンネル入力モードでは無効になります。

7. **2ポイント目のリスニングポジションにマイクを移動させてから*カーソル*ボタン▲ / ▼を押して「Start」を選択し*ENTER*ボタン押して2ポイント目の測定を行います。**

この時に「Calculate」を選択して*ENTER*ボタンを押すと、2ポイント目の測定をキャンセルして測定結果の解析を行うことができます。

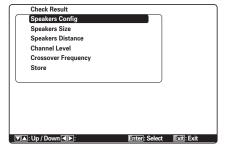
8. 6.と7.の操作を繰り返してメインポジションとその周囲をあわせて6ヶ所の測定を行います。

全ての測定が終わると次のGUI画面が出力されます。

*カーソル*ボタン▲ / ▼を押して「Calculate」を選択して*ENTER*ボタン押し測定結果の解析を行います。

解析中は次のようなGUI画面が表示されます。

ご注意

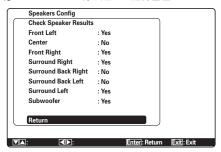
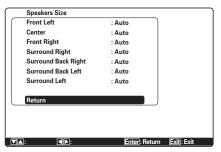
- 解析時間は接続されているスピーカーの数と測定ポイントに依存して、スピーカー数、ポイント数ともに、多くなると解析に要する時間も長くなります。
- 測定ポイント数が6ヶ所以下でも測定を終了することはできます。

9. 測定結果の確認

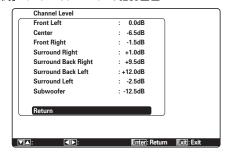
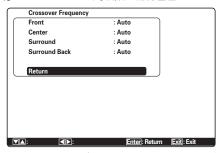
測定結果の解析が終了すると、解析結果の確認画面が表示されます

*カーソル*ボタン▲ / ▼を押して確認したい項目を選択して、*ENTER*ボタン押して決定します。

ご注意

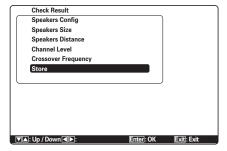
- イコライザー（MultEQ）のパラメーターの確認については41ページをご覧ください。

［例］　スピーカーの有り無しの確認画面

［例］　スピーカーサイズの確認画面

［例］　スピーカーからリスニングポジションまでの距離の確認画面

- Unitの「m」にカーソルをあわせて*カーソル*ボタンの◀ / ▶を押す毎に距離の単位［m］メートルと［ft］フィートを切り替えることができます。
- スピーカーとマイクの距離が9.15mを超えた場合、>9.15mと表示されます。

［例］　チャンネルレベルの確認画面

［例］　クロスオーバー周波数の確認画面

- スピーカーサイズとクロスオーバー周波数は自動測定の結果であることを表すために、Autoと表示されます。

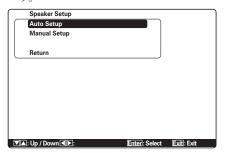
10. 測定結果のメモリー

解析結果の確認終了したら、*カーソル*ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶を押してカーソルを「Return」に合わせて*ENTER*ボタン押し、「Check Result」の画面を表示させます。

カーソルを「Store」に合わせて*ENTER*ボタン押すとイコライザーを含む全てのパラメーターがメモリーされます。

解析結果をメモリーさせたくない時は「Exit」にカーソルを合わせて*ENTER*ボタン押します。

ご注意

- 「Store」を押す（メモリーする）前に「Exit」を押すと測定結果および解析結果の全てを消去してしまうので操作に注意してください。

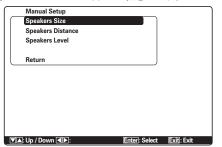
  メモリーが完了すると次のGUI画面が表示されます。

ご注意

- メモリー中は本機の電源を切らないでください。
  本機にメモリーされている全てのデータが消去されてしまう場合があり、また故障の原因にもなります。

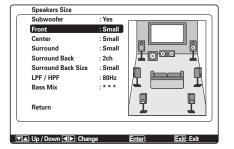
エラーメッセージについて

エラー表示	原因	対処方法
Mic Setup Error Audyssey MultEQ Setup Start Main Zone Surround Back : 2ch Return Mic Setup Error Check Microphone ▼▲: ◀▶: Enter: Exit: Exit	• マイクが正しく接続されていない	• 付属のマイクを接続する • マイクの接続を確認する
Noise Error!! Audyssey MultEQ Setup Speaker Check : * * Noise Error!! ▼▲: ◀▶: Enter: Exit: Exit	• リスニングルームの騒音が大きすぎて正確な測定ができない • スピーカーから出力される音量が小さい	• 測定中はエアコン等の騒音を発生する機器の電源を切る • 周囲が静かな時間帯に測定をおこなう
Analyze Error!! Audyssey MultEQ Setup Speaker Check : * * Analyze Error!! Result Return ▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: Return Exit: Exit • Analyze Errorは**カーソルボタン▲ / ▼**を押してカーソルを「Result」に合わせて***ENTER*** **ボタン**を押すと次のような詳細画面を表示できます Speakers Config Check Speaker Results Front Left : Yes Rev Center : No Front Right : Yes Rev Surround Right : No Err Surround Back Right : Yes Err Surround Back Left : Yes Err Surround Left : No Err Rev Subwoofer : Yes Return ▼▲: ◀▶: Enter: Return Exit: Exit	• 適切な再生をおこなうための必要なスピーカーが検出できない • スピーカーの極性が逆に接続されている 左図の例では次のような不具合が検出されています。 • フロントスピーカーのL-ChおよびR-Chの極性が逆になっている([Rev] Reverse表示がされている) • サラウンドスピーカーが接続されていない(No表示)のにサラウンドバックスピーカーが接続されている。 (このような不具合の場合はサラウンドおよびサラウンドバックの全てのスピーカーに[Err] Errorが表示されます) 上記以外にもスピーカーの接続が次のように接続されているとErrorになります • サラウンドバックスピーカーを1本だけ使用している場合にサラウンドバックR端子に接続している (サラウンドバックスピーカーを 1本だけ御使用の場合は L端子に接続してください)	• 電源を切り、極性が逆と表示されたスピーカーの接続を確認する (ご使用のスピーカーによっては正しく接続されていてもこの表示[Rev]がされる場合があります。この場合はエラー表示を無視してください) • スピーカーの向きや配置を確認する

2-2 MANUAL SETUP

1. Main Menuから「Speaker Setup」を選択します。
2. カーソルボタン▲ / ▼で「Manual Setup」を選択します。
3. *ENTER* ボタンを押して確定します。

4. カーソルボタン▲ / ▼でサブメニューを選択して *ENTER* ボタンを押します。

＜ SPEAKER SIZE ＞

5. カーソルボタン▲ / ▼で Manual Setup メニューから Speakers Size を選択し、*ENTER* ボタンを押します。

Speaker Size メニューでスピーカーのサイズを設定する際は以下の指針を参照してください。

Large:
十分な低音再生能力をもった全帯域対応の大型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の全帯域をそのままスピーカーへ出力します。

Small:
低音再生能力の低い小型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の低音域は、サブウーファー出力端子へ振り分けて出力されます。（Subwoofer：Noに設定した場合はフロントL/Rチャンネルへ振り分けて出力されます）

6. カーソルボタン▲ / ▼で各チャンネルのスピーカーを選択します。
7. カーソルボタン◀ / ▶でスピーカーのサイズを設定します。

Subwoofer

Yes:
サブウーファーを使用する場合に選択します。

No:
サブウーファーを使用しない場合に選択します。フロントスピーカーで「Small」を選択した場合、この項目は「Yes」に設定されます。

Front

Large:
フロントスピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
フロントスピーカーが小型の場合に選択します。

- サブウーファーで「No」を選択した場合はこの項目は「Large」に設定されます。

Center

None:
センタースピーカーを使用しない場合に選択します。

Large:
センタースピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
センタースピーカーが小型の場合に選択します。

Surround

None:
サラウンドL/Rスピーカーを使用しない場合に選択します。

Large:
サラウンドL/Rスピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
サラウンドL/Rスピーカーが小型の場合に選択します。

Surround Back

None:
サラウンドバックL/Rスピーカーを使用しない場合に選択します。

1ch:
サラウンドバックスピーカーが1本の場合に選択します。
音声信号はサラウンドバックL端子から出力されます。接続を確認してください。

2ch:
サラウンドバックL/Rスピーカーを使用する場合に選択します。

Zone SPKR:
サラウンドバックスピーカー端子をゾーンスピーカーAとして使用する場合に設定します。

ご注意

- 「Surround」の設定で「None」を選択した場合、この項目は「None」に固定されます。

Surround Back Size

Large:
サラウンドバックスピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
サラウンドバックスピーカーが小型の場合に選択します。

ご注意

- 「Surround」の設定で「None」を選択した場合は、ここでの設定はできません。

LPF/HPF

サブウーファーを用いる場合は、Small に設定したスピーカーのカットオフ周波数を選択することができます。
Small に設定したスピーカーのサイズに応じてクロスオーバー周波数レベルを選択します。
60Hz ↔ 80Hz ↔ 100Hz ↔ 120Hz ↔ 140Hz ↔ 160Hz ↔ 180Hz ↔ 60Hz ↔ ...

アドバイス

- フロントスピーカーに小型のものを使った場合は高めに、大型のものを使った場合は低めに設定します。

Bass Mix

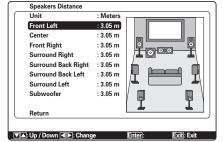
- バス・ミックスの設定は、ステレオ再生で、フロントスピーカーを「**Large**」に、サブウーファーを「**Yes**」に設定した場合にのみ有効となります。この設定は PCM またはアナログ・ステレオソースの再生時にのみ有効です。
- 「**Both**」を選択した場合、低音域帯はメインのL/Rスピーカーとサブウーファーの両方で再生されます。
この再生モードでは、低音域帯が室内全体に均一に広がります。ただし、部屋の大きさや形状によっては干渉が起こって実際の低音域帯の音量が小さくなる場合があります。
- 「**Mix**」を選択すると、低音域帯はメインのL/Rスピーカーでのみ再生されます。

アドバイス

- Dolby Digital または DTS の再生中の LFE 信号はサブウーファーで再生されます。

8. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER* ボタンを押すと、Manual Setup 画面が表示されます。

＜ SPEAKER DISTANCE ＞

9. カーソルボタン▲ / ▼で Manual Setup メニューから Speaker Distance を選択し、*ENTER* ボタンを押します。

ここではリスニング位置から各スピーカーまでの距離を指定します。この距離に基づいて自動的にディレイタイムが計算されます。
まず、部屋の中で通常座る理想的な位置を決めます。適切な音場を作る音響タイミングを設定するために、この作業は重要です。

ご注意

- Speaker Size のメニュー設定で「None」に設定したスピーカーは Speaker Distance のメニューに表示されません。

10. カーソルボタン◀ / ▶で「Unit」（表示単位）を「Meters」（メートル）または「Feet」（フィート）に設定します。
11. カーソルボタン▲ / ▼で設定したチャンネルを選択します。
12. カーソルボタン◀ / ▶で、スピーカーまでの距離を設定します。

Front Left:
通常のリスニング位置からフロントLスピーカーまでの距離を設定します。

Center:
通常のリスニング位置からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

Front Right:
通常のリスニング位置からフロントRスピーカーまでの距離を設定します。

Surround Left:
通常のリスニング位置からサラウンドLスピーカーまでの距離を設定します。

Surround Right:
通常のリスニング位置からサラウンドRスピーカーまでの距離を設定します。

Subwoofer:
通常のリスニング位置からサブウーファーまでの距離を設定します。

Surround Back Left:
通常のリスニング位置からサラウンドバックLスピーカーまでの距離を設定します。

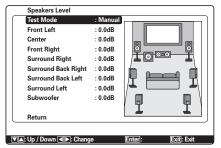
Surround Back Right:
通常のリスニング位置からサラウンドバックRスピーカーまでの距離を設定します。

ご注意

- 各スピーカーまでの距離は以下のようにメートル（m）またはフィート（ft）で設定します。
  m: 0.03から9.15 mの範囲で0.03 m単位で設定できます。
  ft: 0.1から30.0 ftの範囲で0.1 ft単位で設定できます。
  （モニタには近似値で表示されます。）
- 「None」に設定したスピーカーにはSpeaker Distanceメニューは表示されません。
- Speaker Sizeメニューでサラウンドバックスピーカーを2chに設定した場合は、「Surround Back Left」と「Surround Back Right」の設定が表示されます。
- Speaker Sizeメニューでサラウンドバックスピーカーを1chに設定した場合は、「Surround Back」の設定が表示されます。

13. **各設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。**

<SPEAKER LEVEL>

14. **カーソルボタン▲/▼でManual Setupメニューから Speakers Level を選択し、*ENTER*ボタンを押します。**

ここでは、リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。

SPL（音圧レベル）メータをお持ちの場合は、リスニングポジションで計測されるSPLを一定にすることを推奨します。SPLメータの読み値が75dB（C weighting, Slow responseにて）になるように各々のスピーカーレベルを調整します。

ご注意

- このメニューで設定された値は、7.1ch入力モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモードの時は反映されません。

Test Mode
カーソルボタン◀/▶で テストトーンの出力を「Manual」または「Auto」に設定します。

「Auto」を選択すると、テストトーンは各チャンネルで2秒ずつ、以下の順で循環して出力されます。

Front Left → Center → Front Right → Surround Right → Surround Back Right → Surround Back Left → Surround Left → Subwoofer → Front Left

カーソルボタン◀/▶で、すべてのスピーカーのレベルが同じになるようにスピーカーから出るテストトーンの音量を調整します。

「Manual」を選択した場合は以下のように各スピーカーの出力レベルを調整します。

15. **カーソルボタン▼を押してカーソルを「Front Left」に移動します。本機のフロントLスピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。**
このノイズのレベルを調整します。
（レベルの調整は －12 から ＋12 dB の範囲で 0.5 dB 単位で行えます。）
カーソルボタン▼を押すと、センタースピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。

16. **カーソルボタン◀/▶で、フロントLスピーカーと同じレベルになるようにセンタースピーカーのノイズ音量を調整します。**

17. **カーソルボタン▼を押すと、フロントRスピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。**

18. **フロントRスピーカーおよびその他のスピーカーも同様にステップ *12.* と *13.* を繰り返し、すべてのスピーカーの音量が同じになるようにします。**

各設定が終了したとき、*ENTER*ボタンでカーソルを「Return」に移動し、*ENTER*ボタンを押して「Manual Setup」メニューにもどります。

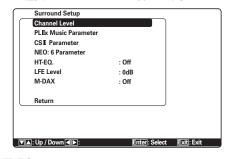
ご注意

- Speaker Sizeメニューで「None」に設定したスピーカーは表示されません。
- Speaker Sizeメニューでのサラウンドバックスピーカーを2chに設定した場合は、「Surround Back Left」と「Surround Back Right」が表示されます。
- Speaker Sizeメニューでサラウンドバックスピーカーを1chに設定した場合は「Surround Back」と表示されます。
- 7.1ch入力ソース（7.1 CH IN端子）のスピーカー・レベルの調整は、7.1ch入力サブメニューで行います。（27ページ参照）
- Subwooferは－18dBから＋12dBまで設定可能です。

3 SURROUND SETUP

各種サラウンド入力信号に対して、ご使用のスピーカーシステムまたはヘッドホンから高い臨場感の効果を引き出すために、サラウンド効果のパラメーターを設定します。

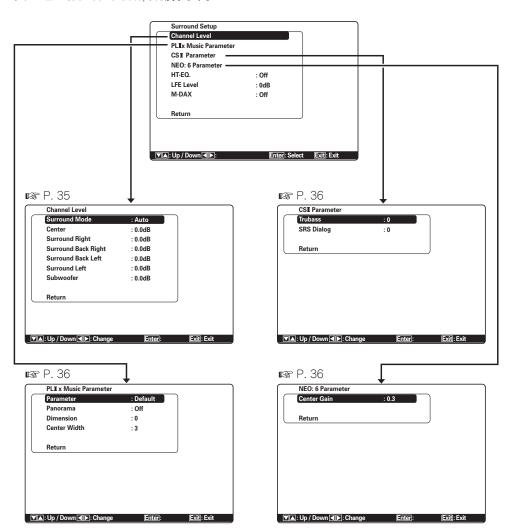
- **Channel level:**
  「3-1 CHANNEL LEVEL」(35ページ参照)
- **PLⅡx Music Parameter:**
  「3-2 PLⅡx MUSIC PARAMETER」(36ページ参照)
- **CSⅡ Parameter:**
  「3-3 CSⅡ PARAMETER」(36ページ参照)
- **NEO:6 Parameter:**
  「3-4 NEO:6 PARAMETER」(36ページ参照)

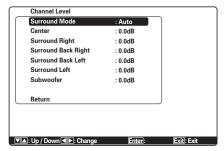
1. カーソルボタン▲/▼でMain Menuから「Surround Setup」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
2. カーソルボタン▲/▼で設定したいメニューを選択し、*ENTER*ボタンを押します。

HT-EQ:
カーソルボタン◀ / ▶でHT-EQを選択してOn/Offを設定します。
家庭のオーディオ装置で再生すると、映画のサウンドトラックは高音域が強調され耳ざわりな場合があります。これは映画のサウンドトラックが、巨大な劇場環境で再生されるように設計されているためです。映画館用の映画をご視聴時にHT-EQ機能を有効にすると、補正を行って適切な音調バランスにします。
次のモードではHT-EQ機能を使用することができません。

- 7.1ch入力モード
- ピュアダイレクトモード
- ソースダイレクトモード
- サラウンドモードにVIRTUAL(ドルビーバーチャル)スピーカーが設定されているとき

LFE Level:
Dolby Digital 信号または DTS 信号に含まれるLFE信号の出力レベルを選択します。
カーソルボタン◀ / ▶で「**0 dB**」、「**−10 dB**」または「**OFF**」を選択します。

M-DAX:
M-DAXのモードを設定します。カーソルボタン◀ / ▶で「**High**」、「**Low**」または「**Off**」を選択します。
詳細は44ページのM-DAXの項目を参照してください。

各設定が終了したとき、カーソルボタン▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER*ボタンを押してサブメニュー(Surround Setup)に戻ります。

3-1 CHANNEL LEVEL

1. Main Menuからカーソルボタン▲/▼で「Surround Setup」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
2. カーソルボタン▲/▼で「Channel Level」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
3. 設定するSurround Modeにカーソルボタン◀/▶で設定します。

4. カーソルボタン▲/▼で設定するメニュー項目を選択し、カーソルボタン◀/▶でレベルを設定します。*ENTER*ボタンを押して確定します。

Surround Mode:
チャンネルレベルは以下の3つのサラウンドモード毎に独立してメモリーされます。

1. Multi Ch. STEREOのモード
2. CSⅡのモード
3. その他のモード

CHANNEL LEVEL
Center:
センタースピーカーの補正量は−12dBから＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- Speaker Sizeメニューでセンタースピーカーを「None」に設定した場合はこの設定は表示されません。

Surround Left or Right:
サラウンドスピーカーの補正量は−12dBから＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- Speaker Sizeメニューでサラウンドスピーカーを「None」に設定した場合は、この設定は表示されません。

Surround Back Left or Right:
サラウンドバックスピーカーの補正量は−12dBから＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- Speaker Sizeメニューでサラウンドバックスピーカーを「None」に設定した場合は、この設定は表示されません。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

Subwoofer:
サブウーファーの補正量はー 18dB から ＋ 12dB で 0.5dB ステップで設定します。

- Speaker Size メニューでサブウーファーを「No」に設定した場合は、この設定は表示されません。

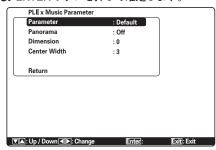
ご注意

- Multi Ch. STEREO、CSII 以外のモードでの設定値は Manual Setup の内の Speakers Level と連動します。

各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、***ENTER*** ボタンを押して、Surround Setup メニューに戻ります。

3-2 PLⅡx（プロロジック Ⅱx）MUSIC PARAMETER

Pro Logic Ⅱx-Music モードは CD などのステレオソースで、豊かで包み込むようなサラウンド環境を実現します。

1. **Main Menu から*カーソルボタン*▲ / ▼で「Surround Setup」を選択し、*ENTER* ボタンを押します。**
2. ***カーソルボタン*▲ / ▼で「PL Ⅱx Music Parameter」を選択します。**
3. ***ENTER* ボタンを押して確定します。**

Parameter:
*カーソル*ボタン◀ / ▶で「**Default**」または「**Custom**」を選択します。
「**Custom**」を選択した場合、以下の３つのパラメータを設定することができます。

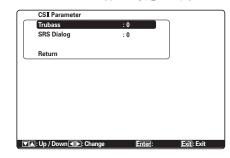
Panorama:
*カーソル*ボタン◀ / ▶で Panorama モードを 「**On**」または「**Off**」に設定します。
Panorama モードでは、フロント左右スピーカーから出る音がリスナーを包み込み、３次元空間の表現力が得られます。

Dimension: -3 ⇒. . . ⇒ 3
フロントとリアのレベル差を調整する機能です。入力ソースによってはフロントが強くでるもの、リアが強くでるもの、と多様異なりますので、この機能で好みのバランスを得ることができます。-3 から３までの７段階の調整が可能です。

Center Width: 0 ⇒. . . ⇒ 7
センターチャンネル成分を、徐々にフロント L/R のスピーカーに振り分ける機能です。
センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることが可能になります。0 から７までの８段階の調整が可能です。
センタースピーカーの設定が「**None**」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

4. **各設定が終了したとき、*カーソルボタン*▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER* ボタンを押します。**

3-3 CSⅡ/TS XT PARAMETER

1. **Main Menu から*カーソルボタン*▲ / ▼で「Surround Setup」を選択し、*ENTER* ボタンを押します。**
2. ***カーソルボタン*▲ / ▼で「CSⅡ Parameter」を選択します。**
3. ***ENTER* ボタンを押して確定します。**

Trubass: 0 ⇒. . . ⇒ 6

- Trubass は、パイプオルガンの低音再生技法を電気的に応用したもので、使用するスピーカーの f0（最低再生可能周波数）以下の低音を再生できます。
- 0 から６まで７段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- サブウーファーを使用している場合、本機能はサブウーファー出力に働きます。
- サブウーファーを使用していない場合、本機能はフロント L/R 出力に働きます。

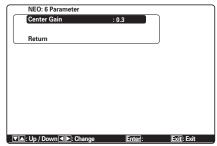
SRS Dialog: 0 ⇒. . . ⇒ 6

- SRS Dialog はダイアログ（台詞）を明瞭にすると共に、床置きのセンタースピーカーから出る音の音像定位を画面の高さから聴こえるように、上方向に移動（仮想配置）します。
- 0 から６まで７段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- Speaker Size（スピーカーのサイズ）セットアップでセンタースピーカーを「None」と選択している場合、この設定を行うことはできません。

4. **各設定が終了したとき、*カーソルボタン*▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER* ボタンを押します。**

3-4 NEO:6 PARAMETER

DTS NEO:6 は２チャンネル入力時、最大 6.1 チャンネル出力を可能にしたモードです。（5.1 チャンネル入力も対応。）
このモードでは、センタースピーカーの音声イメージが拡大されます。

1. **Main Menu から*カーソルボタン*▲ / ▼で「Surround Setup」を選択し、*ENTER* ボタンを押します。**
2. ***カーソルボタン*▲ / ▼で「NEO:6 Parameter」を選択します。**
3. ***ENTER* ボタンを押して確定します。**

4. ***カーソルボタン*◀ / ▶で Center Gain レベルを 0.0 から 1.0 の範囲で 0.1 単位で選択できます。**

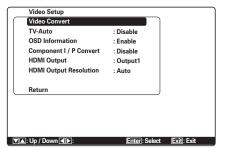
ご注意

- この設定は NEO:6 Music モードのときのみ有効です。
- センタースピーカーの設定が「None」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

5. **各設定が終了したとき、*カーソルボタン*▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER* ボタンを押します。**

4 VIDEO SETUP

ビデオに関する各種設定をします。

1. **Main Menuから*カーソル*ボタン▲/▼で「Video Setup」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。**

2. ***カーソル*ボタン▲/▼で設定したいメニューを選択し、*ENTER*ボタンを押します。**

- **Video Convert**

本機のモニター出力には映像信号のコンバート機能を装備しています。
Video Convertメニューでは、各映像入力ファンクションごとに、コンバートの設定がおこなえます。

1. **Main Menuから*カーソル*ボタン▲/▼で「Video Setup」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。**

2. ***カーソル*ボタン▲/▼で「Video Convert」を選択し*ENTER*ボタンを押します。**

Video Convert

TV	: Analog & HDMI
DVD	: Analog & HDMI
VCR	: Analog & HDMI
DSS	: Analog & HDMI
AUX1	: Analog & HDMI
TAPE	: Analog & HDMI
CD/R	: Analog & HDMI
AUX2	: Analog & HDMI

Return

▼▲: Up / Down ◀▶: Change　Enter:　Exit: Exit

3. ***カーソル*ボタン▲/▼でファンクションを選択して*カーソル*ボタン◀/▶でビデオコンバートの設定をおこないます。**

Analog&HDMI:
アナログ映像信号（ビデオ，Sビデオ，コンポーネントビデオ）の相互のアップコンバート、ダウンコンバートをおこないます。
さらに、アナログ映像信号から、HDMIへのアップコンバートもおこないます。

ご注意

- HDMIのデジタル映像信号からアナログ映像信号のダウンコンバートはできません。

Analog Only:
アナログ映像信号（ビデオ，Sビデオ，コンポーネントビデオ）の相互のアップコンバート、ダウンコンバートをおこないます
アナログ映像信号から、HDMIへのアップコンバートはおこないません。

Off:
全てのコンバート機能を停止します。

ビデオコンバート機能の詳細については46ページを参照してください。

- **TV-Auto**

本機をテレビと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにする機能です。

*カーソル*ボタン◀ / ▶でこの機能を有効にしたいときは「Enable」、無効にしたいときは「Disable」に設定します。

詳細は45ページのテレビオート機能の項を参照してください。

- **OSD Information（OSDインフォメーション）**

音量のアップ／ダウン操作や入力ファンクションの切り替え操作をしたときに、モニターに操作の状態を表示する機能です。

*カーソル*ボタン◀/▶で「OSD Information」機能を有効にしたいときは「Enable」、無効にしたいときは「Disable」に設定します。

この機能が不要の場合は「Disable」を選択してください。

ご注意

- HDMIおよびコンポーネントビデオ入力端子から映像信号を入力しているときは、スーパーインポーズ表示をすることはできません。

- **Component I/P Convert**

480iで入力されたアナログビデオ信号を480pに変換してコンポーネント端子から出力する機能です。
*カーソル*ボタン◀ / ▶でこの機能を有効にしたいときは「Enable」、無効にしたいときは「Disable」に設定します。
詳細は46ページのコンポーネントIP機能の項を参照してください。

- **HDMI Output**

HDMIの出力を設定します。*カーソル*ボタン◀ / ▶でOutput1とOutput2を切り替えます。
リモコンの***HDMI***ボタンを押しても切り替えることができます。

- **HDMI Output Resolution**

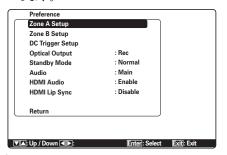
本機HDMI端子から出力される映像信号の解像度（画素数）を設定します。
*カーソル*ボタン◀/▶を使って下記の中から選択します。
Auto ↔ Through ↔ 480/576p ↔ 720p ↔ 1080i ↔1080p ↔ Auto

Auto:
HDMI接続されているテレビに適切な解像度を自動で設定します。
Through:
入力されたままの解像度で出力されます。
480p/576p:
480pで出力されます。
720p:
720pで出力されます。
1080i:
1080iで出力されます。
1080p:
1080pで出力されます。

5 PREFERENCE (便利機能の動作設定)

• **Zone A Setup :**
• **Zone B Setup :**
「5-1 ZONE SETUP」(39 ページ参照)

• **DC Trigger Setup :**
「5-2 DC TRIGGER SETUP」(39 ページ参照)

1. カーソルボタン▲ / ▼で Main Menu から「Preference」を選択して、*ENTER* ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲ / ▼で設定するメニューを選択して、*ENTER* ボタンを押します。

Optical Output:
光デジタル出力の機能を選択します。

Rec: CDレコーダーやMDデッキへ録音するときに設定します。(13ページ参照)

Zone B Out: ゾーンB出力として使用するときに設定します。(22、39、53ページ参照)

Standby:
「**Economy**」に設定すると、スタンバイ時の消費電力を低減できますが、スタンバイ中、テレビオートON/OFF、RS-232Cの機能を使用できません。これらの機能を使用する場合は「**Normal**」に設定してください。また、リモコンで電源を入れる場合、少し長めにボタンを押してください。

Audio:
AAC、二ヵ国語モードのとき、Main(主音声)Sub(副音声)のどちらの音声を出すかを決めます。▲ / ▼で選択し◀ / ▶でMain ↔ Sub ↔ Main＋Subを選択します。

HDMI Audio:
HDMI端子から入力された音声信号を、本機に接続されたスピーカーで再生するか、もしくは本機のHDMI出力端子に接続したテレビやプロジェクターで再生するかを設定します。

Enable: HDMI端子からの音声入力信号を本機で再生します。この場合、TVやプロジェクターからは音声信号は出力されません。

Through: HDMIに入力された音声は本機のスピーカー端子からは出力されません。音声データはTVやプロジェクターにそのまま出力されます。マルチチャンネル対応TVなどで音声を聞きたいときに使用します。

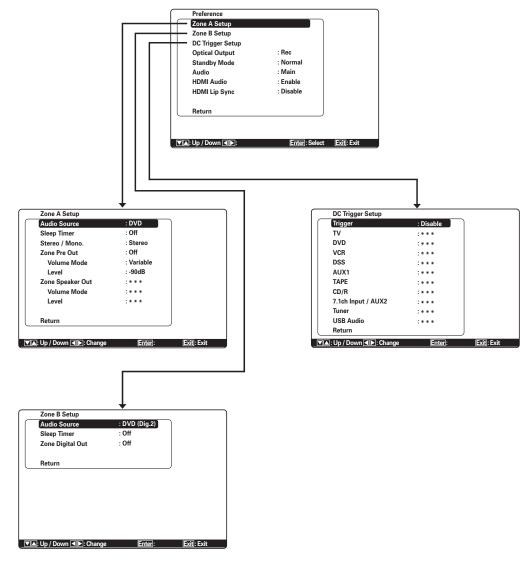
HDMI Lipsync (オートリップシンクコレクション):
接続する映像機器によっては映像信号の処理時間が音声信号に対して長いものがあります。HDMI 1.3aのオートリップシンクコレクション機能に対応したTVやプロジェクターを本機に接続した場合、この機能で自動的に映像と音声の同期をとることができます。

*カーソル*ボタン◀ / ▶でEnable/Disableを切り替えます。

Enable: オートリップシンクコレクション機能を使用して映像と音声の同期を取ります。

Disable: オートリップシンクコレクション機能をオフにします。

ご注意
- HDMI 1.3aに対応していない機器、またはオートリップシンクコレクション機能に対応していない機器を本機に接続した場合、この機能は使用できません。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご確認ください。
- この機能がご使用になれない場合は、Lipsync(リップシンク)機能で映像と音声の同期を手動でとることができます。(45ページ参照)

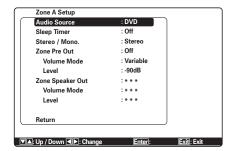
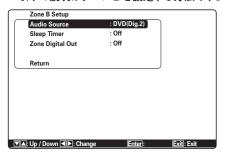
各設定が終了したときは、*カーソル*ボタン▲ / ▼で「Return」を選択し、*ENTER* ボタンを押してサブメニュー(Preference)に戻ります。

5-1 ZONE SETUP

ゾーンシステムを使用する時の各設定をこのメニューで行います。
ゾーンシステムについての詳細は22、53ページを参照して下さい。

1. カーソルボタン▲ / ▼でMain Menuから「Preference」を選択して、*ENTER*ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲ / ▼で「Zone A Setup」または「Zone B Setup」を選択します。

3. *ENTER*ボタンを押します。

以下の説明はゾーンAを設定する方法です。

以下の説明はゾーンBを設定する方法です。

4. カーソルボタン▲ / ▼で設定したい項目を選択します。

Audio Source:

ゾーン出力の音声ソースはカーソルボタン◀ / ▶で選択します。

Sleep Timer:

スリープタイマーはゾーン出力が「On」のときに利用できます。時間はカーソルボタン◀ / ▶で設定でき、10分単位で最長120分まで設定できます。

Stereo / Mono(ステレオ/モノ):

ゾーン音声出力をモノ出力にするときは「Mono」を、ステレオ出力にするときは「Stereo」をカーソルボタン◀ / ▶で選択します。

Zone Pre Out(ゾーンプリアウト):

カーソルボタン◀ / ▶でゾーン機能の「On」「Off」を設定します。

Volume Mode(音量設定):

ゾーンの音量を可変するときは「Variable」に、固定するときは「Fixed」にします。

Level(音量レベル):

ゾーン出力レベルをカーソルボタン◀ / ▶で調整します。－90dBから0dBまで1dB単位で設定できます。

Zone Speaker Out(ゾーンスピーカーアウト):

カーソルボタン◀ / ▶でゾーンスピーカー機能の「On」「Off」を設定します。

Volume Mode:

ゾーンスピーカーの音量を可変するときは「Variable」に、固定するときは「Fixed」にします。

Level:

ゾーンスピーカーの出力レベルをカーソルボタン◀ / ▶で調整します。－90dBから0dBまで1dB単位で設定できます。

Zone Digital Out(ゾーンデジタルアウト):

ゾーンデジタル出力をカーソルボタン◀ / ▶でOnまたはOffに設定します。:

ご注意

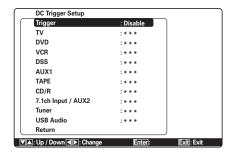
- ゾーンスピーカー機能の設定は、Speaker Sizeメニューで「Surround Back」が「None」または「Zone SPKR」に設定され、かつリアパネルでSPEAKER CがOFF位置にあるときに変更できます。この設定が利用できないときは、「＊＊＊」と表示されます。
- 「Volume Mode」が「Fixed」に設定されている場合、ゾーンAからリモコンを使用してゾーンAの音量を調整することはできません。
- ゾーンBでは、デジタル入力1から5またはF(フロント)に設定されていない入力ソースを使用することはできません。(27ページ参照)
- ゾーンBには、「Stereo / Mono」「Volume Mode」「Level」および「Zone Speaker Out」の機能はありません。
- 「Optical」が「Rec」に設定されている場合はゾーンB機能を使用できません。(38ページ参照)

5-2 DC TRIGGER SETUP

本機は、メインゾーンまたはゾーンの入力ファンクションと連動してDCトリガー出力をコントロールすることができます。

1. カーソルボタン▲ / ▼でMain Menuから「Preference」を選択して、*ENTER*ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲ / ▼で、DC Trigger Setupを選択します。

3. *ENTER*ボタンを押して確定します。

4. カーソルボタン◀ / ▶で、「Main Zone」、「Zone A」、「Zone B」、「Remote」、「Disable」のいずれかを選択します。

- **Main Zone**
  メインゾーンのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
- **Zone A**
  ゾーンAのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
- **Zone B**
  ゾーンBのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
- **Remote**
  リモコンでDCトリガー出力をコントロールします。付属リモコンRC003SRではこの機能は使用できません。
- **Disable**
  DCトリガー機能を停止します。

5. 設定したい入力ファンクションをカーソルボタン▲ / ▼で選択します。

6. カーソルボタン◀ / ▶で「On」か「Off」に設定します。

7. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER*ボタンを押します。

ご注意

- 設定したゾーンでOnに設定したファンクションが選択されたときにDC OUTに電圧が出力されます。

6 ACOUSTIC EQ

ACOUSTIC EQ（アコースティック イコライザー）の設定で使用するイコライザーの選択とイコライザーカーブを設定することが出来ます。

- **Preset Graphic EQ Adjust :**
  「6-1 PRESET G.EQ ADJ」（41ページ参照）
- **Check Auto EQ :**
  「CHECK AUTO」（41ページ参照）

EQ Mode:
本機にはユーザーが好みによって手動でグラフィックイコライザーを設定する「Preset」および、AUTO SETUPの自動測定の演算処理で決められる「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」の3種類のMultEQ（マルチイーキュー）が用意されています。

Audyssey Front:
フロントスピーカーは、特性の補正を行いません。その他のスピーカーは最適な特性になるように補正します。

Audyssey Flat:
全てのスピーカーの周波数特性をフラットになるように補正します。

Audyssey:
リスニングルームの音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を補正します。

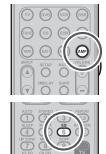
Preset:
プリセットモードはユーザーがPRESET G.EQ機能を使用してお好みに合わせて調整することができるモードです。
（PRESET G. EQ機能については41ページを参照してください）

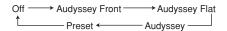
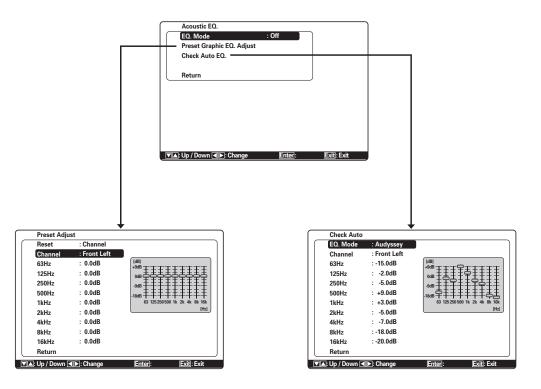
Off:
アコースティック イコライザーを使用しないときはOffを選択します。

ご注意

- 「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」のMultEQの設定値は自動測定の演算処理で決められるため、その値を変更（調整）することはできません。

1. **カーソルボタン▲ / ▼でMain Menuから「Acoustic EQ」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。**
2. **カーソルボタン▲ / ▼で「EQ. Mode」を選択します。**
3. **カーソルボタン◀ / ▶で「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」、「Preset」、「Off」のいずれかを選択します。**

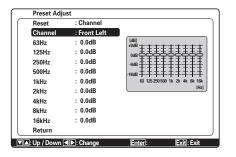
設定が終わったら、***カーソル***ボタン▲ / ▼でカーソルを「Exit」に移動して***ENTER***ボタンを押して設定を終了します。
リモコンを使ってEQ Modeを切り替えるには、***AMP***ボタンを押した後に***EQ***ボタンを押します。

このボタンを押す度にEQ Modeは以下のように切り替わります。

ご注意

- 「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」の各モードは、一度Auto Setup（オートセットアップ）を実行した後に選択ができるようになります。
- Auto Setup（オートセットアップ）の測定を行ったときに「No」に設定されたスピーカーをManual Setupで使用できるように設定し直した場合は、「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」の各モードの選択はできなくなります。
- EQ Modeで選択した各イコライザーは、ピュアダイレクト、ソースダイレクト、7.1ch INPUTおよびドルビーヘッドホンおよびドルビーバーチャルスピーカーモードをご使用の際は無効になります。
- EQ Modeで選択した各イコライザーは、Dolby True HD、Dolby Digital PLUS、DTS-HD信号を再生中は無効になります。
  この場合でもスピーカーオートセットアップで設定された内容（スピーカーの有無／距離／サイズ／チャンネルレベル／クロスオーバー）は有効です。
- EQ Modeが働いているときはトーンコントロールは無効になります。

6-1 PRESET G. EQ ADJ

7チャンネル（フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）毎に9バンド（63Hz～16kHzの9ポイント）のグラフィックイコライザーを設定できます。

1. **カーソルボタン▲ / ▼でMain Menuから「Acoustic EQ」を選択して、*ENTER*ボタンを押します。**

2. **「Preset Graphic EQ Adjust」を*カーソル*ボタン▲ / ▼で選択します。**

3. ***ENTER*ボタンを押して確定します。**

Reset:

イコライザー設定をフラットに戻したいときに使用します。***カーソル***ボタンでリセットしたいチャンネルを選択し、次に***ENTER***ボタンを押して確定します。

「All-Channel」： すべてのチャンネル
「Channel」： 現在表示されているチャンネルのみ

Channel:

調整するサラウンドチャンネル（Front Left、Center、Front Right、Surround Right、Surround Back Right、Surround Back Left、Surround Left）を***カーソル***ボタン◀ / ▶で選択します。次に▼ボタンで補正モードに移行します。

Frequency:

補正したい周波数（グラフの上の）を***カーソル***ボタン◀ / ▶で選択します。***ENTER***ボタンを押して確定します。***カーソル***ボタン▲ / ▼でレベルを調整します。（レベルは、－20dB から＋9 dBの範囲で0.5 dB単位で調整できます。）***ENTER***ボタンを押して確定します。
◀ / ▶で次の周波数へ進み、レベル調整を再び行います。

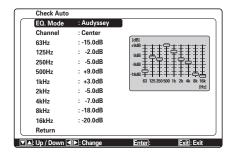
4. **各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲ / ▼でカーソルを「Return」に移動し、*ENTER*ボタンを押します。**

6-2 CHECK AUTO

オートセットアップの測定結果で設定されたMultEQを確認できます。

1. **カーソルボタン▲ / ▼でMain Menuから「Acoustic EQ」を選択して、*ENTER*ボタンを押します。**

2. **「Check Auto EQ」を*カーソル*ボタン▲ / ▼で選択します。**

3. ***ENTER*ボタンを押して確定します。**

EQ. Mode:

EQ.Modeにカーソルを移動して***カーソル***ボタン◀ / ▶で確認したいMultEQカーブ（Audyssey、Audyssey Front、Audyssey Flat）を選択します。

図は左から、グラフ、補正した周波数（Hz）、補正量（dB）です。

Channel:

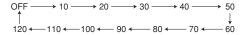
確認したいチャンネルを**カーソル**ボタン◀ / ▶で選択します。

4. **カーソルボタン▲ / ▼で「Return」を選択し、*ENTER*ボタンを押して「Acoustic EQ」に戻ります。**

応用操作

アンプ操作

スリープタイマーを使う

設定した時間になると自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。リモコンの**AMP**ボタンを押してから**SLEEP**ボタンを押します。
ボタンを押すたびに、スタンバイ状態になるまでの時間が次のように変化します。

フロントパネルの表示部にスリープ時間が数秒間表示され、カウントが表示されます。この表示はスリープ時間が終わるまで表示されます。
設定したスリープ時間が経過すると本機は自動的にスタンバイ状態になります。
スリープ・タイマーが設定されると、表示部に「SLEEP」表示が点灯します。
スリープモードをキャンセルするにはリモコンの**SLEEP**ボタンをもう一度押します。「SLEEP OFF」が表示され、表示部の「SLEEP」表示が消えます。

ディスプレイモード

本機表示部の 表示動作モードを選択できます。
本機またはリモコンの**DISPLAY**ボタンを押します。
これらのボタンを押すごとに、表示動作状態が順番に切り替わります。
ノーマル→ボリューム→オートディスプレイオフ→ディスプレイオフ→ノーマル

ノーマルモード：
以下の3つのモードを表示します。
- 入力ソース:選択されているソースを上段左側に表示します。ファンクションリネーム機能が使用されているときは、設定されたソース名を表示します。(28ページ参照)
- 入力モード:オートHDMI(AH)、オートデジタル(AD)、HDMI(HD)、デジタル(DG)、アナログ(ANA)を上段右側に表示します。(27ページ参照)
- サラウンドモード:サラウンドモードを下段に表示します。

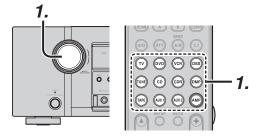
ボリュームモード：
下段に音量が常に表示されるようになります。サラウンドモードが変更されたときは一時的にサラウンドモードがここに表示されます。

オートディスプレイオフ：
基本的にディスプレイが消灯した状態となりますが、本機の操作をしたときに、一時的に表示状態になります。

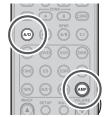
ディスプレイオフモード：
常に消灯した状態になります。

ご注意
- ディスプレイ・オフ状態では、本機表示部のDISP表示だけはこの機能が動作状態であることを表すために点灯します。

録音・録画をする

本機を操作して、記録用機器へ録音／録画することができます。このため本機はTAPE OUT、CD/CDR OUT、VCR OUT端子を装備しています。

1. **本機のINPUT SELECTORつまみを回すかリモコンのソースボタンを2回続けて押して視聴したい入力ソースを選びます。**
2. **TAPE OUT、CD/CDR OUT、およびVCR OUT端子から選択した入力信号が録音／録画用として出力されます。**
3. **接続した記録用機器を録音／録画モードにし、録音／録画を開始します。**

ご注意
- デジタル信号入力だけの接続の場合、TAPE OUT、CD/CDR OUTおよびVCR OUT端子への出力は得られません。録音機能を利用する場合は、アナログ信号入力の接続も行ってください。
- ビデオ信号入力からS-ビデオ信号出力への変換、およびS-ビデオ信号入力からビデオ信号出力への変換は行いません。必ず同一の入出力にてご利用ください。
- HDMI入力端子に入力される信号は録画／録音することはできません。

入力モード切り替え

アナログ以外の入力を設定したソースを選んでいる場合、以下の入力モードを一時的に切り替えることが可能です。
リモコンの**A/D**ボタンを押します。
ボタンを押すごとに、入力モードが順番に切り替わります。
オート → HDMI → デジタル → アナログ → オート

オートモード： 選択した入力機器に対してHDMIまたはデジタル入力端子に入力されているデジタル信号の有無を自動的に検出します。
(HDMI入力とデジタル入力が検出された時は、HDMI入力が優先されます)
デジタル信号が入力されていない場合はアナログ入力が自動的に選択されます。

HDMIモード： HDMI入力に固定されます。

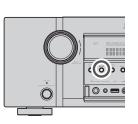
デジタルモード： デジタル入力に固定されます。

アナログモード： アナログ入力に固定されます。

入力ソースを切り替えたり、スタンバイにした後は、セットアップメニューで設定した入力設定に戻ります。ここで選択した入力モードは一時的な設定です。入力モード切り替えの設定を保存するには、メインメニューのFUNCTION INPUT SETUP(27ページ)を参照して下さい。

サラウンドモードの選択

お好みのサラウンドモードを選ぶことができます。

例：オートサラウンドを選択

（本機で操作する場合）

AUTO ボタンを押します。

（リモコンで操作する場合）

AMP ボタンを押してから *AUTO* ボタンを押します。

例：その他のサラウンドモードを選択

サラウンドモードについては66ページを参照してください。

（本機で操作する場合）

お好みのサラウンドモードになるまで *SURROUND MODE* ボタンを何回か押します。

（リモコンで操作する場合）

AMP ボタンを押したあとで、お好みのサラウンドモードになるまで *SURR* ボタンを何回か押します。

ダイアログ・ノーマライゼーション・メッセージについて

ダイアログ・ノーマライゼーション（Dial Norm）はドルビーデジタルの機能です。ドルビーデジタルでエンコードされたソフトウェアを再生する時、フロントパネルに「D-NORM X dB」（Xは数値）という短いメッセージが表示されることがあります。ダイアログ・ノーマライゼーション機能は、再生中のソフトウェアが特定の出力基準レベルより高いレベルで録音されているか、低いレベルで録音されているかを表示し、基準レベルに自動的に合わせてどのソフトウェアでも同一に感じる音量レベルで再生する機能です。

ナイトモード

夜間などに再生音のダイナミックレンジを抑えて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。
ナイトモードはドルビーデジタル音声に対してのみ効果があります。

1. リモコンの *AMP* ボタンを押します。
2. *NIGHT* ボタンを押すたびにナイトモードが変わります。

AUTO：

`N I G H T   A U T O`

Dolby TrueHDソフトに含まれている信号を検出して、自動的にナイトモードをONにするかOFFにするか選択します。Dolby TrueHD以外のドルビーデジタル音声ではナイトモードはオフになります。

ON：

`N I G H T   O N`

ナイトモード機能をオンにします。

OFF：

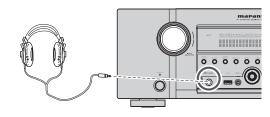
`N I G H T   O F F`

ナイトモード機能をオフにします。

- ナイトモード機能が働いているときは本機表示部内のNIGHTが点灯します。
- ピュアダイレクト、ソースダイレクト、7.1CH INPUT機能を選択しているときはナイトモードはオフになります。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホン（PHONES）端子は、本機をヘッドホンで聴く場合に使用します。標準ステレオプラグヘッドホンをご使用ください。
ヘッドホン端子を使用しているときは、スピーカーが自動的にオフになります。

ご注意

ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。

⚠警 告

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくなりすぎないように注意してください。

ドルビーヘッドホン・モード

ドルビーヘッドホンモードは、スピーカーで再生したときの波形を再現することにより、通常のヘッドホンでマルチチャンネルサラウンド音声を楽しむことができます。2chステレオ音声を再生時には前方のスピーカーから聴こえるような効果があります。
ヘッドホンを使用すると、*MENU* ボタンは自動的にドルビーヘッドホン・モードに切り替わります。
MENU ボタンを押したときに表示されるOSDメニューは次のとおりです。

DOLBY HP（ヘッドホン）モードは左右のカーソルボタンで選択できます。

BYPASS → DH → BYPASS

BYPASS: ドルビーヘッドホン・モードにはならず、通常の2chステレオ音声を出力します。
DH: ドルビーヘッドホン・モード。

ピュアダイレクトおよびソースダイレクトモードを選択したときはドルビーサラウンド処理が省略され、モード・表示には「***」が表示されます。

ドルビーヘッドホン・モードがオンのときは、サラウンドモードを選択できます。
「L/R LEVEL」は± 12 dBの範囲で設定できます。

ご注意：

- ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。
- ドルビーヘッドホン・モードがオンのときは、トーンコントロールおよびACOUSTIC EQは設定することはできません。

M-DAX
（Marantz Dynamic Audio eXpander）

再生中のMP3やAACファイルなどの非可逆圧縮によって失われた音域成分を補う機能です。
お好みに合わせて効果のレベルを下記のように切り替えることができます。
“HIGH”： 強めの効果
“LOW”： 弱めの効果
“OFF”： 機能しない

リモコンの***AMP***ボタンを押します。***M-DAX***ボタンを押すたびにM-DAXの効果がかわります。

M-DAXモードがLOWまたはHIGHのときは、M-DAXインジケーターが点灯します。

ご注意

- M-DAXは48kHz以下のPCMおよび2チャンネルアナログソースに対応しています。
- M-DAXを使用中はトーンコントロールの設定は無効になります。
- M-DAXは以下のモードでは使用できません。
  - ドルビーバーチャルスピーカー
  - ソースダイレクト
  - ピュアダイレクト
  - 7.1チャンネルインプット

アッテネート機能

アナログ信号入力を本機にて再生しているとき、前面表示部のPEAK表示が点灯する場合があります。これは、本機の内部処理に対して入力信号レベルが大きすぎることを意味します。
この場合はリモコンの***ATT***ボタンを押してください。

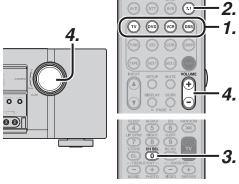
- この機能の動作中は、「***ATT***」表示が点灯します。
- 入力信号レベルはおよそ半分になります。
- TAPE OUT、CD/CDR OUT、VCR OUTからの出力信号ではアッテネート機能は動作しません。
- この機能は個々の入力ソースごとに記憶されます。
- このボタンは、HDMIまたはデジタル（光または同軸）入力が選択されているときは機能しません。

スピーカーA/B

フロントL/Rスピーカーに対してスピーカーシステムAとスピーカーシステムBを切り替えて使うことができます。
リモコンの***SPKR-A/B***ボタンを押すたびにスピーカーシステムが変わります。

A → B → A+B → OFF

7.1 CH INPUT

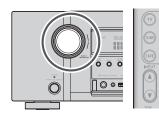
マルチチャンネルSACDプレーヤーやDVD-Audioプレーヤーなどのマルチチャンネル信号に対応するための7.1chの外部入力端子が搭載されています。これらの入力信号は内部サラウンド処理をバイパスしてボリュームコントロールを通過した後、プリアウト端子へ出力および内部アンプに入力されます。（SubW入力はプリアウトのみ）
この機能が働いているときは、入力ソースを切り替えることができません（AUX2として使用できません）。この機能に合わせて楽しみたいビデオ系の入力ファンクションを選択してからリモコンの***7.1***ボタンを押してください。

1. **本機またはリモコンでご希望のビデオソースを選択します。**
2. **リモコンの*7.1*を押して7.1チャンネルインプット入力に切り替えます。**
3. **各チャンネルの出力レベルを調整する必要がある場合は、リモコンの*CH.SEL*ボタンを押します。**
   視聴位置でそれぞれのスピーカーから聞こえる音量が同じになるように◀または▶ボタンでスピーカー出力レベルを調整します。
   - フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックのスピーカー出力レベルは、－12から＋12 dBの範囲で調整することができます。
   - サブウーファーについては、－18から＋12 dBの範囲で調整できます。
   - 調整結果は7.1 CH. INPUTメモリに保存されます。
4. **本機の*VOLUME*つまみか、リモコンの*VOLUME*＋/－ボタンで音量を調整します。**

7.1チャンネルインプット設定を解除するには、リモコンの***7.1***を押します。

ご注意

- 7.1チャンネルインプットモードの動作中は内部サラウンド処理をバイパスするので、サラウンドモードは選択できません。
- 7.1チャンネルインプットモード使用中は、信号は録音用出力には送られません。
- 7.1チャンネルインプット使用中は以下の機能は使用できません。
  - テストトーン
  - ナイトモード
  - ソースダイレクト
  - ピュアダイレクト
  - HT-EQ
  - M-DAX
  - トーンコントロール
  - アコースティックイコライザー

AUX2入力

7.1CH IN端子を接続する必要がない場合は、L（フロント左）とR（フロント右）入力端子はAUX2入力用に使用できます。
この場合、AUX2に追加の音声ソースを接続することができます。

ビデオオフ機能

各映像出力端子（ビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI）の出力を停止します。

1. **リモコンの*AMP*ボタンを押してから*V-OFF*ボタンを押します。V-OFFインジケーターが点灯します。**
2. **再び*V-OFF*ボタンを押すと、V-OFFインジケーターが消灯しビデオオフ機能は解除されます。**

ご注意

ビデオオフモードでもセットアップメニューは表示されます。

テレビオート機能（TV-AUTO）

本機をテレビチューナーと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにすることができます。

1. **テレビチューナーのビデオ信号出力端子と本機のテレビ用ビデオ信号入力端子を接続します。**
2. **GUI メニューシステムから以下の設定を行ってください。**
   - 5.PREFERNCE にて Standby Mode：Normal （38ページ参照）
   - 4. VIDEO SETUP にて TV-Auto：Enable （37ページ参照）
3. **本機の入力ソースが TV のとき、テレビチューナーの電源を切ってから約5分経過すると、本機の電源がスタンバイになります。**
4. **テレビチューナーの電源を入れると自動的に本機の電源がオンになります。**

ご注意

- 本機の入力ソースを TV に設定したときのみ有効です。
- スタンバイ状態に入った後10 秒後より有効となります。
- この機能はS-VIDEO、COMPONENT VIDEO、HDMIの各入力端子には対応しておりません。

LIP.SYNC（リップ・シンク）機能

接続する映像機器によっては、映像信号の処理がオーディオ信号に対して時間差があるものがあります。
この差は、ほんのわずかですが映画や音楽を楽しむ上ではとても重要です。
LIP.SYNC 機能は、オーディオ信号を遅らせて映像との時間差を調整します。初期値は OFF（0ms）で、最大200ms まで 10ms ステップで調整できます。
ディスプレィやプロジェクター等の映像機器で映像を確認しながら調整してください。

ご注意

- この機能はソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードまたは7.1 チャンネルインプットでは OFF（0ms）になります。ソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードまたは7.1 チャンネルインプットが解除されると設定した値に戻ります。
- HDMI 1.3a のオートリップシンク機能に対応した TV やプロジェクターを本機に接続した場合、自動的に映像と音声を同期させることができます。この機能の操作については38 ページを参照してください。

デュアルバックアップメモリー機能

本機は電源を切った状態でも設定した各種内容を内部の不揮発メモリーに記憶しています。
デュアルバックアップメモリー機能は記憶した内容をさらに別のメモリーエリアに書き込み、ユーザーが残したい設定をバックアップし、いつでもその設定を呼び出すことができます。

●バックアップ

1. **本機を記憶させたい状態にし設定し、*MEMORY* と *ENTER* ボタンを同時に3秒以上押し続けます。**

```
MEMORY SAVING
```

と表示され、本機の設定が記憶されます。この記憶された内容は、再度デュアルバックアップメモリー機能を使って設定の上書きがされるまで残すことができます。

- 以下の設定値はバックアップされません。
  - メインゾーンのボリューム
  - ゾーンのボリューム
  - ゾーンスピーカーのボリューム

●メモリー呼出機能

バックアップした設定は次の操作で呼び出せます。

1. ***MEMORY* と *MENU* ボタンを同時に3秒以上押し続けます。**

```
MEMORY LOAD
```

と表示されて記憶した設定状態に本機を再設定します。
この時本機は一度スタンバイ状態になります。
また、バックアップデータが存在しない場合は、

```
NO BACKUP
```

と表示されてバックアップのリカバリーは行われません。

- 以下の設定値はバックアップされないため、各ボリュームの値は初期値の状態になります。
  - メインゾーンのボリューム
  - ゾーンのボリューム
  - ゾーンスピーカーのボリューム

ビデオコンバート機能

●アナログビデオコンバートについて

本機のモニター出力には映像信号のコンバート機能を装備しています。
このため再生機器と本機の映像入力端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント）との接続方法に関わらず、本機モニター出力端子とモニター間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本繋ぐだけで視聴できます。
（設定のしかたについては37ページを参照）

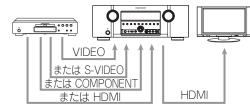
●アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバート

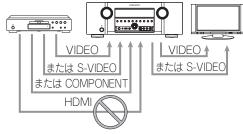
本機のアップコンバート機能は入力されたアナログビデオ信号（コンポーネントビデオ信号の解像度が480i､480p､720p､1080iのとき、またはSビデオおよびビデオのビデオ信号のとき）をHDMI出力端子に出力することができます。
（設定のしかたについては37ページを参照）

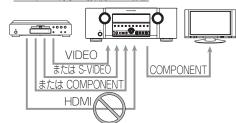
ご注意
- この機能は､録画用ビデオ出力端子には働きません。
- この機能は、スチル、早送り、逆再生等では、正常に再生されないことがあります。
- ビデオコンバート機能は、ご使用になるテレビ、プロジェクター等によっては同期ずれ等の不具合が発生する場合があります。

  このような場合はビデオコンバートの機能をOFFにしてご使用ください。
- この機能は常にビデオ入力信号を監視しており、入力されている信号に合わせてコンバートをするかしないかを決めています。しかし、入力されるビデオ信号によっては正確な検知ができないこともあります。

接続例

- モニターを本機のHDMIモニター端子に接続した場合

ご注意
- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号の解像度が480i、480p、720p、1080i以外のときは本機のHDMIモニター端子から映像出力されません。

- モニターを本機のVIDEOまたはS-VIDEOモニター端子に接続した場合

ご注意
- 再生機器から入力されるHDMIビデオ信号は本機のVIDEO, S-VIDEOモニター端子から出力されません。
- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号が480i以外のときは本機のVIDEO, S-VIDEOモニター端子から出力されません。

- モニターを本機のCOMPONENT VIDEOモニター端子に接続した場合

ご注意
- 再生機器から入力されるHDMIビデオ信号は本機のCOMPONENT VIDEOモニター端子から出力されません。

GUIメニューシステムについて

- GUIメニューシステムは全ての映像端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント、HDMI）に出力されます。
- OSDインフォメーションはVIDEOまたはS-VIDEOのモニター出力端子にのみ出力されます。

  本機のVIDEOまたはS-VIDEOの入力端子に入力された映像信号をビデオコンバートし､COMPONENT VIDEOまたはHDMIの出力端子から出力した場合は、OSDインフォメーションが出力されます。

ご注意
- HDMI OUT端子にモニターが接続されている場合、モニターの機種によってはVIDEOおよびS-VIDEOモニター端子から出力されないことがあります。

コンポーネントI/P機能

本機のVIDEO回路にはI/Pコンバート機能が装備されています。
この機能をオンすることで、再生機器から入力されるアナログビデオ信号（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネントビデオ）の480iを480pにコンバートして本機のCOMPONENT VIDEO出力端子にプログレッシブ出力することができます。
（設定のしかたについては37ページを参照してください）

ご注意

HDMI OUT端子にモニターが接続されている場合､HDMI解像度が720p､1080i､1080pまたはAUTOに設定されているとこの機能は無効になります。

HDMI OUT切換え

本機では、HDMI OUTPUT 1または2を選択して使用することができます。
リモコンの***HDMI***ボタンを押すたびに、OUTPUT1と2が交互にかわります。
HDMI OUT 1とHDMI OUT 2は同時に出力することはできません。

```
HDMI-O = OUT1
```

HDMI解像度

ビデオコンバート機能によってアナログビデオ信号をHDMI端子へ出力するときの解像度を設定します。
- 480i信号は480p,720p,1080iまたは1080p信号に変換できます。
- 720p信号は1080iまたは1080p信号に変換できます。
- 1080i信号は1080p信号に変換できます。

ご注意
- 1080i､720pまたは1080p信号に対応していないモニターと接続する場合は、1080i、720pまたは1080pに設定しないでください。SETUPMENUが表示されません。SETUP MENUが表示されない場合は、本体表示部を見ながら設定を変更してください。
- コンポーネントビデオ出力の解像度は変更できません。

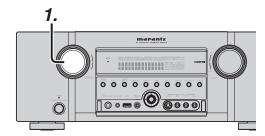
USB操作

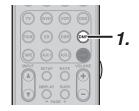
本機ではUSB Mass Storage Class 規格に対応しているUSBメディアを使用することができます。
USBメディアのファイルシステムは、FAT16、FAT32に対応しています。
本機で再生できる音楽ファイルは、MP3、WMA、AAC、WAVファイルです。（50ページ参照）

USB操作の準備をする

ご注意

操作を行う前に、本機とモニターテレビが正しく接続されていることを確認してください。

（本機で操作する場合）

1. *INPUT SELECTOR* つまみを回してUSBを選択します。

（リモコンで操作する場合）

1. *DMP* ボタンを2回続けて押します。

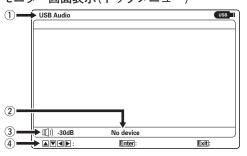
2. トップメニュー画面が表示されます。

メインインフォメーション表示

①→ U S B :
②→ N O D E V I C E

①ファンクション表示：
ファンクション名を表示します。

②ステータス表示：
USB機能の状態を表示します。また、エラーメッセージも表示します。（50ページ参照）

モニター画面表示（トップメニュー）

①ファンクション表示：
ファンクション名を表示します。

②ステータス表示：
USB機能の状態を表示します。（50ページ参照）

③ボリューム表示：
ボリュームレベルを表示します。

④ガイダンス表示：
操作キーの説明を表示します。

3. 本機のフロントパネルのUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBメディアを接続します。

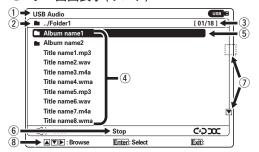
4. USBメディア内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されます。

メインインフォメーション表示

①→ U S B : F o l d e r 1
②→ ■ A l b u m n a m e

①ファンクション表示／親フォルダ名：
ファンクション名と親フォルダ名を表示します。

②カーソル情報：
現在選択されているファイルやフォルダ名を表示します。

モニター画面表示（リスト）

①ファンクション表示：
ファンクション名を表示します。

②親フォルダ名：
現在リスト表示している親フォルダ名を表示します。

③リスト番号／総数：
［カーソル位置のリスト番号／ファイルと子フォルダを合わせた総数］を表示します。

④子フォルダ、ファイルリスト：
子フォルダと、ファイルをUSB ストレージに保存した順序で表示します。ファイルとフォルダが混在する場合は、フォルダを先頭に表示します。

⑤選択カーソル：
ファイルやフォルダを選択します。

⑥再生ステータス：
再生中ファイルの再生ステータスを表示します。

⑦ページインジケーター：
リストのページアップ／ダウンが可能な時に表示がでます。

⑧ガイダンス表示：
操作ボタンの説明を表示します。

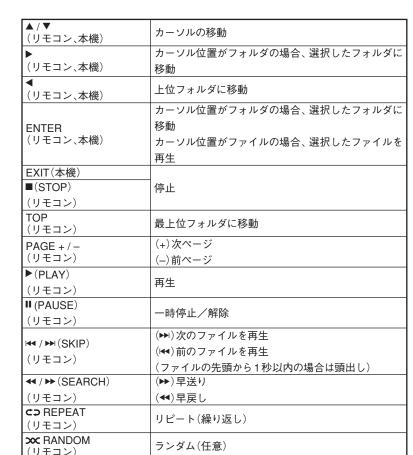
アイコン表示

■：フォルダ（親フォルダ、子フォルダ）
♫：再生しているファイル

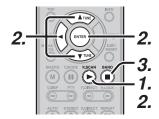
ご注意

- 本機のモニター画面、FL DISPLAYに表示出来る文字はASCII文字のみです。それ以外の文字は“＊”に変換して表示します。
- 10分間操作が無い場合、モニター画面はスクリーンセーバー表示に変わります。
- トップメニューを表示しているとき、本機の *ENTER* ボタンを3秒以上押し続けると、スクリーンセーバーを有効または無効に切り換えることができます。

リモコン

▲ / ▼ （リモコン、本機）	カーソルの移動
▶ （リモコン、本機）	カーソル位置がフォルダの場合、選択したフォルダに移動
◀ （リモコン、本機）	上位フォルダに移動
ENTER （リモコン、本機）	カーソル位置がフォルダの場合、選択したフォルダに移動 カーソル位置がファイルの場合、選択したファイルを再生
EXIT（本機） ■（STOP） （リモコン）	停止
TOP （リモコン）	最上位フォルダに移動
PAGE + / – （リモコン）	（+）次ページ （–）前ページ
▶（PLAY） （リモコン）	再生
II（PAUSE） （リモコン）	一時停止／解除
⏮ / ⏭（SKIP） （リモコン）	（⏭）次のファイルを再生 （⏮）前のファイルを再生 （ファイルの先頭から1秒以内の場合は頭出し）
◀◀ / ▶▶（SEARCH） （リモコン）	（▶▶）早送り （◀◀）早戻し
⊂⊃ REPEAT （リモコン）	リピート（繰り返し）
⤨ RANDOM （リモコン）	ランダム（任意）

- リモコンで操作を行うときは、*DMP* ボタンを1回押して、リモコンをDMP（USB）モードに切り換えてください。

本機

USBメディアのファイルを再生する

1. 再生したい曲を選び、*ENTER*または▶ボタンを押します。

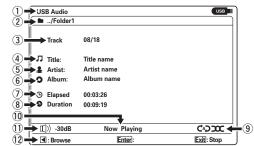
ステータス表示画面が表示され、ファイルリストの順に曲の再生を開始します。

メインインフォメーション表示

①→ U S B : A r t i s t   n a m
②→ ▶ T i t l e   n a m e

①ファンクション表示／アーティスト名：
ファンクション名とアーティスト名を表示します。アーティスト名がない場合は、“Unknown”と表示します。

②再生ステータス／タイトル名：
再生ステータスと、タイトル名を表示します。
タイトル名がunknownの場合は拡張子を除くファイル名を表示します。

モニター画面表示（ステータス）

①ファンクション表示：
ファンクション名を表示します。

②親フォルダ名：
現在再生している親フォルダ名を表示します。

③現在のファイル番号／総数：
［現在再生しているファイルのファイル番号／親フォルダに含まれるファイル総数］を表示します。

④タイトル名表示：
再生ファイルのタイトル名を表示します。タグ情報がない場合は、ファイル名を表示します。

⑤アーティスト名表示：
再生ファイルのアーティスト名を表示します。
アーティスト名がない場合は、“UNKONWN”と表示します。

⑥アルバム名表示：
再生ファイルのアルバム名を表示します。アルバム名がない場合は、“UNKONWN”と表示します。

⑦経過時間：
再生ファイルの経過時間表示。

⑧コンテンツ時間：
再生ファイルの総時間表示。

⑨リピート／ランダムステータス：
リピート、ランダムの状態表示。OFFのときは表示しません。

⑩再生ステータス：
現在選択されているファイルの再生ステータスを表示します。

⑪ボリューム表示：
ボリュームレベルを表示します。

⑫ガイダンス表示：
操作ボタンの説明を表示します。

アイコン表示

画面に表示されるアイコンは次の通りです。

- ：フォルダ（親フォルダ）
- ：ファイル
- ：アーティスト
- ：アルバム
- ：経過時間
- ：コンテンツ時間

2. 再生中に別のファイルを再生したい場合は、◀ボタンを押し、ファイルリストを表示します。
▲/▼ボタンで任意の曲まで移動し、*ENTER*または▶（PLAY）ボタンを押します。

3. 再生を停止したい場合は、■ボタンを押します。

繰り返し聴く（リピート再生）

USB メディアに入っている曲を 1 曲リピート、フォルダ内リピート、または全曲リピートで再生することができます。

リモコンの***REPEAT***ボタンを押すごとに、下記の順で切り替わります。

：全ファイルリピート

：フォルダ内リピート

：1 ファイルリピート

ご注意

フォルダ内リピートで再生するときは、選択された親フォルダ内のファイルをリピート再生します。（子フォルダ内のファイルを除きます。）

順不同で曲を再生する（ランダム再生）

USB メディアに入っている曲をランダムに再生することができます。

リモコンの***RANDOM***ボタンをおすごとにON→OFF の順に切り替えます。
ランダム再生は、リピート再生の設定によってランダム再生範囲が変わります。

リピートなし： USB デバイス内の全てのオーディオファイルをランダム再生します。

リピートあり： リピート設定の再生範囲で、ランダムリピート再生します。

ON を選択したときに▶ボタンを押すと、ランダム再生を開始します。

聴きたい部分を再生する（サーチ）

再生中にリモコンの◀◀、▶▶ボタンを押すと、サーチを開始します。
その後、リモコンの◀◀、▶▶ボタンを押すとサーチスピードを変更することができます。

- Search +／Search -

▶▶(Search +)／◀◀(Search -)ボタンを押すごとに、下記の順に切換わります。
SEARCH 1 + → SEARCH 2 + → SEARCH 3 + → PLAY → SEARCH 1 + →SEARCH 1 – → SEARCH 2 – → SEARCH 3 – → PLAY → SEARCH 1 + →

サーチモード	モニター画面表示	FL DISPLAY 表示	動作
SEARCH 1 +/–	(+)1 Search +	(+)1 ▶▶	2 倍速で早送り
	(–)1 Search –	(–)1 ◀◀	2 倍速で早戻し
SEARCH 2 +/–	(+)2 Search +	(+)2 ▶▶	4 倍速で早送り
	(–)2 Search –	(–)2 ◀◀	4 倍速で早戻し
SEARCH 3 +/–	(+)3 Search +	(+)3 ▶▶	10 倍速で早送り
	(–)3 Search –	(–)3 ◀◀	10 倍速で早戻し

その他

ステータス表示

FL ディスプレイに下表のような表示をした場合は本機は以下の様な状況になっています。

FLディスプレイ表示	モニター画面表示	状況
NO DEVICE	No device	本機に、USBストレージが接続されていません。
UNKNOWN DEVICE	Unknown device	認識できないデバイスが接続されています。
UNKNOWN FS	Unknown FS	対応していないファイルシステムのUSBメディアが接続されました。
OVER CURRENT	Over current	本機のUSB端子の過電流保護が働きました。
NO AUDIO FILE	No audio file	再生できるファイルが記録されていないUSBメディアが接続されました。
CAN'T PLAY	Can't play	本機が、再生できないファイルを再生しようとしました。

対応メディア

- 本機のUSB 端子とパソコンを接続しないでください。本機のUSB 端子にパソコンから音楽を入力できません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、ご使用できない場合があります。
- ご使用になるUSB メディアによっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- ご使用になるUSB メディアによっては、正しく内容を読み込めない場合や、電源が正しく供給されない場合があります。
- USB メディアの使用に際して、データの損失や変更、メディアの故障などが発生した場合、弊社は一切責任を負うことが出来ませんので、あらかじめご了承ください。USB メディアに保存されているデータは、本機でご使用になる前にバックアップを取っておくことをおすすめします。

規格	USB 2.0 Full - Speed準拠
接続対象	USBマス・ストレージ・クラス対応機器 ー USB Flash メモリ（256MB以上に対応） ー USB 接続 HDD ー 携帯Audio Player をUSBメモリとして使用した場合
サブクラス	SCSI

対応ファイルシステム

- USB メディアがパーティションで区切られている場合、本機では最初のパーティションだけを読み込むことができます。また、パーティションの構成によっては、正しく読み込めない場合があります。

フォーマット	FAT16 / FAT32
階層	再生できるフォルダ階層は、ルートを除く8階層まで
パーティション	先頭のみ
最大フォルダ数	700
最大ファイル数	65535
最大フォルダ文字数	64 Byte（VFAT ロング・ネーム対応）
最大ファイル文字数	640Byte（VFAT ロング・ネーム対応）拡張子（.xxx）含む

再生可能なファイルフォーマット

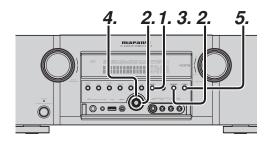
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- プレイリストには対応していません。
- 選択した音楽ファイルが、本機に対応しているフォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズを出力する場合があります。

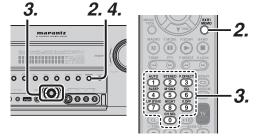
対応規格	拡張子	文字情報対応	規格	対応範囲	
MP3	mp3	ID3V1/ID3V2	MPEG-1 Layer-Ⅲ	サンプリング周波数	32kHz – 48kHz
				ビットレート	32kbps – 320kbps (CBR/VBR)
	mp3	ID3V1/ID3V2	MPEG-2 LSF Layer-Ⅲ	サンプリング周波数	16kHz – 24kHz
				ビットレート	8kbps – 160kbps (CBR/VBR)
WMA	wma	WMA Tag	Microsoft Windows Media Audio 9.2 準拠	サンプリング周波数	32kHz – 48kHz
				ビットレート	8kbps – 160kbps (CBR) Peak 384kbps (VBR)
AAC	m4a	AAC ヘッダ（iTunes コンテンツ情報）	MPEG-2/4 AAC LC	サンプリング周波数	8kHz – 48kHz
				ビットレート	8kbps – 320kbps (CBR/VBR)
WAV	wav	None	RIFF Waveform Audio Format	サンプリング周波数	32kHz – 48kHz
				ビット数	16bit

チューナー操作（プリセットメモリ）

本機ではFM／AMの放送局をお好きな順序で60局までプリセットできます。
それぞれの放送局について、必要に応じて周波数と受信モードを記憶させることができます。

オートプリセットメモリ

この機能によって、FMバンドとAMバンドを自動的にスキャンして、適切な電波強度のあるすべての放送局をメモリに記録します。

1. FMを選択する場合は、本機の*BAND*ボタンを押します。
2. *MEMO*ボタンを押しながらカーソルボタン▶を押します。
   表示部に「*AUTO PRESET*」と表示され、最も低い周波数からスキャンが開始されます。
3. チューナーが放送局を受信するたびに、スキャンが停止しその放送局を5秒間受信します。
   この間に以下の操作ができます。
   *BAND*ボタンを押すと、バンドを変更できます。
4. この間にボタンが押されない場合は、現在の放送局がPreset 01に記憶されます。
   現在の放送局をスキップしたい場合は、この間にカーソルボタン▲を押します。この放送局はスキップされ、オートプリセットが継続されます。
5. 60個すべてのプリセットメモリが設定されたとき、またはオートスキャンがバンドの上限に達したときは、スキャンは自動的に停止されます。オートプリセットメモリを停止したい場合は、*CLEAR*ボタンを押してください。

マニュアルプリセットメモリ

（本機で操作する場合）

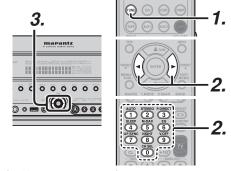
1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。（「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」の項参照）。
2. 本機の*MEMO*ボタンを押します。インジケーター部で「– –」（プリセット番号）が点滅を始めます。
3. 点滅している間（約5秒間）にカーソルボタン◀ / ▶を押して、プリセット番号を選択します。
4. もう1度*MEMO*ボタンを押して確定します。インジケーター部の点滅が止まり、放送局がご指定のプリセットメモリに保存されます。

（リモコンで操作する場合）

1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。（「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」の項参照）。
2. リモコンの*MEMO*ボタンを押します。インジケーター部で「– –」（プリセット番号）が点滅を始めます。
3. *数字*ボタンを押して、設定したいプリセット番号を入力します。

ご注意：

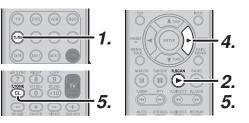
一桁の数値（例えば、2）を入力するときは「02」と入力するか「2」と入力して数秒間待ちます。

プリセット局の呼出

（本機で操作する場合）

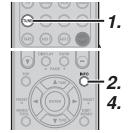
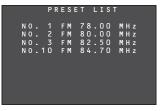
1. 本機のカーソルボタン◀ / ▶を押して、呼び出したいプリセット局を選択します。

（リモコンで操作する場合）

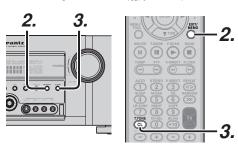
1. リモコンの*TUNE*ボタンを2回続けて押します。
2. ◀/▶ボタンを何回か押して聴きたいプリセット局を選びます。または数字ボタンを押してプリセット局を呼び出します。

プリセット局のスキャン

1. リモコンの*TUNE*ボタンを2回続けて押します。
2. リモコンの*P.SCAN*ボタンを押します。
   表示部に「PRESET SCAN」と表示され、小さい番号のプリセット局が最初に呼び出されます。
3. プリセット局は順番に呼び出され（No. 1 → No. 2 → No. 3......）、1局ごとに5秒間表示されます。
   保存したプリセット番号がスキップされることはありません。
4. ▶ボタンを押し続けると、プリセット局を早送りできます。
5. 聴きたいプリセット局が受信できたら、リモコンの*CL*ボタンまたは*P.SCAN*ボタンを押してプリセット・スキャン操作をキャンセルします。

プリセット局のリスト表示

本機にプリセットメモリーした放送局の一覧をモニターテレビに表示させることができます。

1. リモコンの*TUNE*ボタンを2回続けて押します。
2. リモコンの*INFO*ボタンを押すとプリセットされた放送局の一覧がモニターテレビに表示されます。

3. プリセットされた放送局が10局を超える場合はもう一度*INFO*ボタンを押すと次のページが表示されます。
   - 表示は操作の5秒後に自動的に消えます。

プリセット局の削除

プリセット局をメモリから削除します。

1. 削除したいプリセット番号を呼び出します。(「プリセット局の呼出」参照)
2. 本機の *MEMORY* ボタンまたはリモコンの *MEMO* ボタンを押します。
3. 保存されているプリセット番号が表示部に 5 秒間点滅します。点滅している間に、本機の *CLEAR* ボタンまたはリモコンの *CL* ボタンを押します。
4. 表示部に「xx CLEAR」と表示され、指定したプリセット番号が削除されたことが示されます。

アドバイス

• 保存されているプリセット局すべてを削除するには、*T-MODE* ボタンと *ENTER* ボタンを同時に 2 秒間押します。

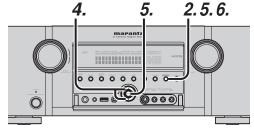
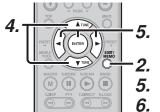
プリセット局の番号の並びかえ

記憶させた放送局番号が連続していない（例えば以下のように放送局が保存されている）場合

1） 78.0 MHz
2） 80.0 MHz
3） 82.5 MHz
10） 84.7 MHz

（4から9にはプリセットされた放送局がないので、プリセット10を4としてプリセットすることができます。）
番号をソートするには、*MEMORY* ボタンと▼ボタンを同時に押します。
表示部に「PRESET SORT」と表示され、ソートが完了します。

プリセット局名の入力

各プリセット局の名前を、英数字を使用して入力できます。
名前を入力する前に、プリセットメモリ操作によってプリセット局を保存してください。

1. 名前を付けたいプリセット番号を呼び出します。(「プリセット局の呼出」参照)
2. 本機の *MEMORY* ボタンまたは、リモコンの *MEMO* ボタンを3秒以上押します。
3. 放送局名インジケーターの左端が点滅して、文字入力が可能なことを示します。
4. 本機またはリモコンのカーソルボタン▲ / ▼を押すと、アルファベットと数字が以下の順序で表示されます。

   A ⇔ B ⇔ C ... Z ⇔ 1 ⇔ 2 ⇔ 3 ..... 0 ⇔ – ⇔ ＋ ⇔ / ⇔（空白）⇔ A

   UP →

   ← DOWN

   文字を消去するには、本機の *CLEAR* ボタンを押すか、リモコンの *CL* ボタンを押します。

アドバイス

• リモコンの数字ボタンを使用して文字入力を行うこともできます。
この場合は次の表を参照してください。

数字キー	画面表示
1	A → B → C → 1 → A
2	D → E → F → 2 → D
3	G → H → I → 3 → G
4	J → K → L → 4 → J
5	M → N → O → 5 → M
6	P → Q → R → 6 → P
7	S → T → U → 7 → S
8	V → W → X → 8 → V
9	Y → Z → space → 9 → Y
0	– → ＋ → / → 0 → –

5. 入力する最初の文字を選択したら、本機の *MEMORY*、*ENTER* ボタン、またはリモコンの *MEMO* ボタンを押します。
入力が確定したら、次のカラムが点滅を開始します。次のカラムも同じ方法で入力します。
設定する文字を変更するには、本機またはリモコンの◀または▶を押してください。

アドバイス

• 空白部分にはスペースを入力してください。

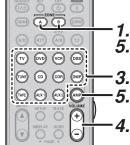
6. 名前を保存するときは、本機の *MEMORY* ボタン、またはリモコンの *MEMO* ボタンを2秒以上押します。

ゾーンシステム

ゾーンシステム機能は、本機の設置場所（メインゾーン）以外の部屋でメインゾーンと同じ、もしくは異なるソースを聴くことができます。

メインゾーンでサラウンドバックスピーカーまたは、SPEAKER C（詳細は22ページを参照）をご使用になられない場合は、サラウンドバック用のアンプを使用した、ゾーンスピーカーシステムを使用することができます。

本機はソース・セレクター、スリープ・タイマー、リモートコントロールなどのゾーンシステム機能に対応しています。

ゾーン出力端子を使用したゾーン再生

1. **リモコンのZONE AまたはBボタンを押します。**
2. **本機はゾーン設定モードに入り、以下のような表示が10秒間表示されます。**

   ゾーンAを選択したときの表示

   `ZA DVD -18dB`

   ゾーンBを選択したときの表示

   `ZB DVD(D2)`

3. **本機の*INPUT SELECTOR*つまみまたはリモコンのソースボタンで入力ソースを選択します。**
4. **本機の*VOLUME*つまみまたはリモコンの*VOLUME ＋/－*ボタンで音量を調整します。**

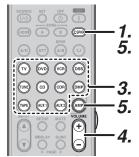
ご注意

- スリープタイマーやモノラル出力などの機能はメインメニューで設定してください。（39ページ参照）
- ゾーンBの音量は本機で調整することはできません。ゾーンBに接続したアンプで調整してください。

5. **ゾーン機能を解除するには、リモコンの*ZONE A*または*B*ボタンを押します。**

   MULTIインジケーターが消灯します。

ゾーンスピーカーA端子を使用したゾーン再生

サラウンドバックスピーカーおよびスピーカーCを使用しない場合、ゾーンスピーカーA端子に別室のスピーカーを接続して音楽を聴くことができます。

1. **リモコンのゾーンスピーカー（*Z.SPKR*）ボタンを押します。**
2. **ゾーンスピーカーA設定モードに入り下記のような表示が10秒間あらわれます。**

   ゾーンスピーカーAを選択したときの表示

   `ZSA DVD -18dB`

3. **本機の*INPUT SELECTOR*つまみまたはリモコンのソースボタンで聴きたいソースを選択します。**
4. **本機の*VOLUME*つまみまたはリモコンの*VOLUME＋/－*ボタンを押して音量を調整します。**
5. **ゾーンスピーカーA機能を解除するにはもう一度*Z.SPKR*ボタンを押します。**

   MULTIインジケーターが消灯します。

ご注意

- スリープタイマーやモノラル出力などの機能はメインメニューで設定してください。（39ページ参照）

ゾーンスピーカーAについて

- ゾーンスピーカーAとゾーンAを別々のソースで同時に使用することはできません。
- ゾーンスピーカーAを使用するには、スピーカーセットアップメニューで「SURR. B」（サラウンドバックスピーカー）を「NONE」または「ZSP A」に設定してください。（33ページ参照）
- ゾーンスピーカーAは、スピーカーCと同時には使用できません。リアパネルのSPEAKER CスイッチをOFFにしてください。（21ページ参照）
- ゾーンスピーカーAが使用できない場合に***Z.SPKR***ボタンを押すと「The Surr. Back Speakers are in use」（サラウンドバックスピーカーを使用中です）と表示されます。

リモコンでマランツ製AV機器を操作する

付属リモコンを使って、マランツ製品の基本操作を行うことができます。

1. **ソースボタンを押してリモコンを操作したいソース機器のモードに切り替えます。**

2. **以下の表を参照し、各操作ボタンを押してソース機器を操作します。**

- 各ソース機器の詳細な操作については各ソース機器の取扱説明書を参照して下さい。
- 一部のソース機器は本リモコンから操作できないことがあります。

TV（テレビ）モード

SOURCE ON/OFF	テレビの電源オン／スタンバイ切り替え
POWER OFF	テレビの電源をスタンバイ(*)
POWER ON	テレビの電源オン(*)
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
HDMI	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPK A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
INFO	テレビの情報表示(*)
カーソル	カーソルを移動(*)
ENTER	選択した項目を決定(*)
MENU	テレビの設定メニューを呼び出し(*)
EXIT	テレビの設定メニューを終了(*)
0-9,+10	数字を入力(*)
T.TONE（CL）	入力を取り消し(*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
BASS/CH	テレビのチャンネルアップ／ダウン

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

DVDモード

SOURCE ON/OFF	DVDの電源オン／スタンバイ
POWER OFF	DVDの電源スタンバイ(*)
POWER ON	DVDの電源オン(*)
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
HDMI	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPK A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
SETUP	DVDの設定メニューを呼び出し(*)
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
TOP	DVDのトップメニューを呼び出し(*)
INFO	DVDのディスク情報を表示(*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	DVDのディスクメニューを呼び出し
EXIT	DVDの設定メニューを終了(*)
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮/⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
0-9,+10	数字を入力(*)
T.TONE（CL）	入力を取り消し(*)
REPEAT	リピート再生(*)
RANDOM	ランダム再生(*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

DSS（衛星放送チューナー）モード

SOURCE ON/OFF	衛星チューナーの電源オン／スタンバイ
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
HDMI	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPK A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
INFO	衛星放送チューナーの情報を表示(*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	メニューを呼び出し
EXIT	メニューを終了(*)
0-9	数字を入力
T.TONE（CL）	入力を取り消し(*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
BASS/CH	衛星放送チューナーチャンネルアップ／ダウン

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

CDモード

SOURCE ON/OFF	CDの電源オン／スタンバイ
POWER OFF	CDの電源スタンバイ (*)
POWER ON	CDの電源オン (*)
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
HDMI	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPK A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲ / ▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/-	アンプモードの機能が有効
INFO	アンプモードの機能が有効
ENTER	選択した項目を決定 (*)
MENU	メニューを呼び出し (*)
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮/⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
0-9,+10	数字を入力 (*)
T.TONE(CL)	入力を取り消し (*)
REPEAT	リピート再生 (*)
RANDOM	ランダム再生 (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

TAPE（テープ）モード

SOURCE ON/OFF	テープデッキの電源オン／スタンバイ
POWER OFF	テープデッキの電源スタンバイ
POWER ON	テープデッキの電源オン
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
HDMI	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPK A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲ / ▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/-	アンプモードの機能が有効
TOP	アンプモードの機能が有効
INFO	アンプモードの機能が有効
カーソル	アンプモードの機能が有効
ENTER	アンプモードの機能が有効
MENU	アンプモードの機能が有効
EXIT	アンプモードの機能が有効
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮/⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
0-9	数字を入力
T.TONE(CL)	入力を取り消し
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

TAPE モードでは、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

AUXモード

SOURCE ON/OFF	ユニバーサルドッグの電源オン／スタンバイ
POWER OFF	ユニバーサルドッグの電源スタンバイ
POWER ON	ユニバーサルドッグの電源オン
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
HDMI	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPK A/B	アンプモードの機能が有効
7.1 IN	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲ / ▼	アンプモードの機能が有効
SETUP	ユーザーインターフェースの変更
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/-	アンプモードの機能が有効
INFO	アンプモードの機能が有効
カーソル▲	上のコンテンツを選択
ENTER	選択した項目を決定
カーソル▼	下のコンテンツを選択
MENU	メニューを呼び出し
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮/⏭	チャプターまたはトラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
REPEAT	リピート再生
RANDOM	ランダム再生
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

AUX モードでは、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

リモコンの基本操作

通常モード

（マランツ製のAV機器を操作するとき）
このリモコンには、マランツ製のTV（テレビ）、DVD、VCR（ビデオデッキ）、DSS（衛星放送チューナー）、TUNER、CD、CD-R、DMP（USB）、TAPE（テープデッキ）、AUX1、AUX2、AMP（アンプ）の計12種類のリモートコードがプリセットされています。
マランツ製品をご使用の場合、学習は不要です。そのままご使用いただけます。

1. **ソースボタンを押します。**
ここでは例として***DVD***を押します。
ソースボタンを1回押すことでリモコンが押されたソース用の設定（DVDモード）に変わります。
アンプの入力ソースを変えるときは、***ソース***ボタンを2回押し（ダブルクリック）します。コードが送信されてアンプのソースがDVDに変わります。
（19､54､55ページ参照）

バックライト設定

リモコンの側面にあるライトボタンを押すと、リモコンのバックライトが点灯します。点灯中に再度ボタンを押すと、バックライトがさらに2秒間点灯します。
バックライトを点灯させないようにするには、***SET***ボタンと***OFF***ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。
バックライトを点灯させるようにするには、***SET***ボタンと***ON***ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。初期設定ではバックライトは点灯します。

プリセットモード

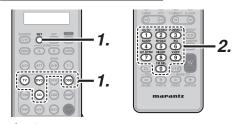
（マランツ製以外のAV機器を操作するとき）
このリモコンにはマランツ製以外のAV機器のリモコンコードがプリセットされています。
プリセットされているコードは、TV、CD、DVD、DSSです。設定は2つの方法で行うことができます。
プリセットコードは、リモコンの各***ソース***ボタンに次のように設定されます。

プリセットされているメーカー、機器、セットアップコードなどの設定については、巻末のセットアップコードリストをご覧ください。

リモコンのソース名	プリセットコード	機器名
TV	TV	テレビ
DVD	DVD	DVDプレーヤー
CD	CD	CDプレーヤー
DSS	衛星放送チューナー	衛星放送チューナー機器

重要

- 一部の機器では付属リモコンのセットアップコードでは対応できない場合があります。その場合は学習モードを使用してリモートコードを学習させてください。
- プリセットコードはすべての機能を網羅しているわけではありません。機能の追加が必要な場合は、学習モードを使用して追加機能を記憶させてください。
- 電池の残量が少ない状態ではプリセットコードの設定ができない場合があります。

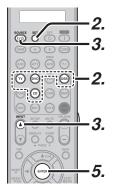
4桁のコードの入力による設定

1. **プリセットコードを設定したいソースボタンと*SET*ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。バックライトが点滅し続けます。**

2. **巻末に記載されているコード表を参照し、ご使用の機器に対応した4桁のコードを数字ボタンで入力します。**
表示部に4桁のコードが表示されます。

設定が完了すると、表示部に“OK”と表示されます。

ご注意

表示部に“NG”と表示された場合は、手順1と2を繰り返し、同じコードをもう1度入力してください。

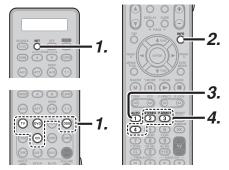
コード表をスキャンして設定する

1. **プリセットコードを設定したい機器の電源をオンにします。**

2. **設定したい機器と対応したソースボタンと*SET*ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し続けます。

3. **リモコンを設定したい機器のリモコン受光部へ向け、*INPUT*▲ボタンと*SOURCE ON/OFF*ボタンを交互にゆっくりと押します。**
表示部にプリセットコードが表示されます。

4. **操作したい機器の電源がオフになったらボタンを押すのをやめます。**

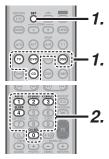
5. ***ENTER*ボタンを押すとコードの設定が完了します。**

設定したプリセットコードを確認する

1. 操作したい機器のソースボタンとSETボタンを●表示が2回点滅するまで同時に長押しします。バックライトが点滅し続けます。

2. INFOボタンを押します。

●表示が2回点滅します。

3. 設定したコードの全桁が表示部に3秒間表示されます。

設定したコードをリセットする

1. 操作したい機器のソースボタンとSETボタンを●表示が2回点滅するまで同時に長押しします。

バックライトが点滅し続けます。

2. 以下の4桁のコードを押してリセットします。

TV　: 1000

DVD : 2000

CD　: 3000

DSS : 4000

ご注意

リセットが完了すると、選択したソースボタンは初期設定に戻ります。

学習モード

このリモコンには他のリモコンのリモートコードを学習・記憶させることができます。

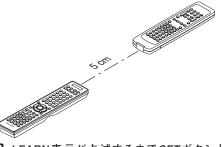
リモートコードを学習・記憶していない場合、リモコンは初期設定のマランツ・プリセットコード、またはお客様が設定された別メーカーのAV機器のリモートコードのいずれかを送信します。

リモコン信号の受光部はリモコンの上部にあります。

ご注意

- このリモコンは約120のリモートコードを学習することができます。
- 電池の残量が少ない状態では学習手順を正しく操作できないことがあります。

学習手順

1. 約5 cm離して他のリモコンの赤外線送信部が付属リモコンの受光部に向くようにリモコンを置きます。

2. LEARN表示が点滅するまでSETボタンとSETUPボタンを同時に長押しします。

3. ソースボタンを押して入力ソースを選択します。ソース名が表示部に表示されます。

4. 付属リモコンに学習させたいボタンを押します。

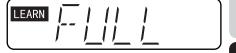
- LEARN表示が点滅しなくなります。

ご注意

- ソースボタンとHDMIボタンにはリモートコードを学習させることはできません。
- チューナーモードおよびアンプモード時にはリモートコードを学習させることはできません。

5. 表示部に"OK"と表示されるまで送信側リモコンのボタンを押し続けて学習させます。

- 表示部に"NG"と表示された場合はこの手順をもう1度実行してください。

- リモコンのメモリーがいっぱいの場合は、表示部に"FULL"と表示されます。さらにコードを学習させたい場合は既に学習済みの他のボタンを削除してください。

6. 手順4と5を繰り返して同じ入力ソースの他のボタンを学習させます。

7. 手順3から6を繰り返して他の入力ソースを学習させます。

8. リモコンのプログラムが終わったらSETボタンを押します。LEARN表示が消え、学習モードが終了します。

ご注意

- 表示部に再度"NG"と表示された場合は、付属リモコンでは利用できない転送コードであるか、転送信号がノイズで妨げられています。
- 学習モードで約1分間どのボタンも押さないと、自動的に学習モードが終了します。

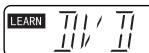
プログラムされたコードの削除（初期設定に戻す）

リモートコードは、「ボタンごと」、「ソースごと」、「すべての記憶内容」の３つの方法で削除することができます。

ボタンごとのコードを削除する

1. LEARN表示が点滅するまで*SET*ボタンと*SETUP*ボタンを同時に長押しします。

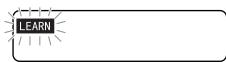
2. ソースボタンを押し、削除するソースを選択します。

- ソース名が表示部に表示されます。

3. *HDMI*ボタンを押したままの状態で、削除する学習済みのボタンを2回押します。

- 表示部に“ERASE”と表示され、学習モードに戻ります。

4. 通常モードに戻るには*SET*ボタンを押します。

ソースごとのコードを削除する

1. LEARN表示が点滅するまで*SET*ボタンと*SETUP*ボタンを同時に長押しします。

2. *HDMI*ボタンを押したままの状態で、削除する学習済みのソースボタンを2回押します。

- 表示部に“ERASE”と表示されます。

3. 削除を続けるには*ENTER*ボタンを押します。

- 表示が2回点滅して学習モードに戻ります。
- 削除操作をキャンセルする場合は、*ENTER*ボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. 通常モードに戻るには*SET*ボタンを押します。

すべてのソースを削除する

1. LEARN表示が点滅するまで*SET*ボタンと*SETUP*ボタンを同時に長押しします。

2. *HDMI*ボタンを押したままの状態で、*POWER ON*ボタンと*POWER OFF*ボタンを押します。

- 学習表示が点灯します。

3. 削除を続けるには*ENTER*ボタンを押します。

- 表示部に“ERASE”と表示され、学習モードに戻ります。

- 削除操作をキャンセルする場合は、*ENTER*ボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. 通常モードに戻るには*SET*ボタンを押します。

ご注意

リモートコードを削除すると、初期設定に戻ります。

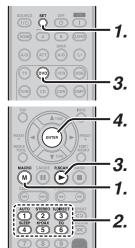
マクロモード

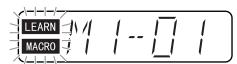
マクロのプログラム

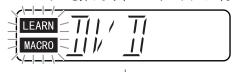
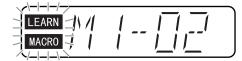
マクロを使用すると、通常は複数回のボタン操作を必要とする複雑な一連の操作を1つのファンクションボタンで行うことができます。
1つのマクロには最大10ステップの操作をプログラムできます。
例えば次のように連続動作させることができます。

- 本機の電源をオンにする
  ↓
- 入力ソースをDVDに切り替える
  ↓
- TVの電源をオンにする
  ↓
- DVDプレイヤーを再生する

- マクロのプログラム中は信号は送信されません。
- マクロを構成する各ステップは、初期設定では、1秒間隔に順次送信されるよう設定されています。この間隔は、セットアップモードを使用して0.5秒から5秒に設定できます。
- マクロモードでは、マクロのリスト番号とステップ番号が表示されます。
- マクロは6リスト分プログラムできます。
  ***MACRO* ボタン ＋ 数字ボタン**
  （例：マクロリスト番号1の場合
  → *MACRO*ボタン ＋ *1*）

マクロのプログラム方法

1. **LEARN・MACRO表示と“MACRO”が表示部に点滅表示されるまで、*SET* ボタンと *MACRO* ボタンを同時に長押しします。**

2. **一連の操作をプログラムしたい番号の数字ボタンを押します。**
***1* ボタンを押します。**
- 表示部に“M1-01”と表示されます。

- 選択したマクロ番号が既にプログラムされている場合は、表示部が点滅します。

3. **マクロとして連続してプログラムしたい操作のファンクションボタンとコマンドボタンを押します。**
たとえば、*DVD* ボタンと *PLAY* ボタンを押します。
***DVD*ボタンを押します（DVDファンクション）。**

↓
***PLAY*ボタンを押します（最初のステップを調整）。**

- 表示部にマクロのステップ番号が表示されます。この番号はボタンを押すたびに1つずつ大きくなります。
- 1つのマクロあたり、順番に最大10ステップまでプログラムできます。

ご注意

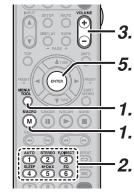
マクロプログラムでアンプの入力ソースをプログラムする場合は、最初に***AMP***ボタンを押してからソースボタンを押してください。
（DVD入力の場合：AMP → DVD）

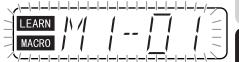
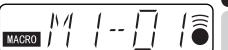
4. **マクロのプログラムが終了したら、表示が通常モードに戻るまで（LEARN表示とMACRO表示が消えるまで）、*ENTER* ボタンを長押しします。**
- マクロモードでは、メモリーをプログラムして最大10ステップまでのマクロを実行することができます。
- MEMOボタン、カーソル、***ENTER***ボタン、***VOLUME+/–***ボタン、***CL***ボタンにはマクロをプログラムできません。

ご注意

プログラム中約1分間どのボタンも押さないと、リモコンは自動的に通常モードに戻ります。この場合、メモリーにマクロはプログラムされません。

マクロを確認する

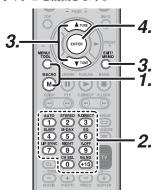
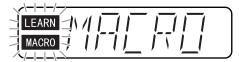
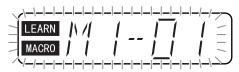
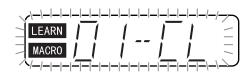
次の手順でマクロを確認します。

1. **LEARN表示・MACRO表示と“MACRO”が表示部に点滅表示されるまで、*MACRO* ボタンと *MENU* ボタンを同時に長押しします。**

2. **確認する番号の数字ボタンを押します。**
例として、*1* ボタンを押してマクロ番号1を確認します。
- LEARN表示・MACRO表示と“M1-01”が点滅表示されます。

3. ***VOLUME* ボタンを押します。**
- “M1-01”が表示され、LEARN表示が消えます。

- プログラムされた操作が送信されます。

4. マクロの最後の番号が表示されるまで手順 **3** を繰り返します。
- 手順 **1** の表示に戻ります。
- マクロの番号を表示すると、対応するプログラム済みの操作が送信されます。

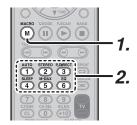
5. 通常モードに戻るには、表示部のMACRO表示が消えるまで *ENTER* ボタンを長押しします。

マクロを編集する

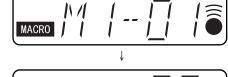
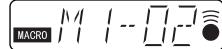
次の手順でマクロを編集します。

1. LEARN表示・MACRO表示と"MACRO"が表示部に点滅表示されるまで、*MACRO* ボタンと *MENU* ボタンを同時に長押しします。

2. 変更する番号の数字ボタンを押します。
例として、*1* ボタンを押してマクロ番号1を変更します。
- LEARN表示・MACRO表示と"M1-01"が点滅表示されます。

3. カーソルボタン(▲または▼)を押して編集するマクロの番号を選択します。
- マクロの番号が表示されてから、プログラム済みの操作が表示されます。
- マクロの番号は**カーソル**ボタンで変更できます。
- マクロの設定済みのステップを更新するには、***ソース***ボタンを押してから新しいステップのボタンを押します。元のステップは削除され、新しいステップで更新されます。
- マクロ内の設定済みのステップの間に新しいステップを挿入するには、手順 **3** のあとに、*MEMO* ボタンを押してから、新しいステップのボタンを押します。新しいステップを挿入するために、その他のステップの番号は適宜調整されます。1つのマクロには10ステップまでしか記憶できないため、ステップの合計数が既に10である場合は、新しいステップを挿入すると10番目のステップが削除されます。
- マクロ内のステップを削除するには、手順 **3** のあとに、削除するステップの番号を呼び出して *CL* ボタンを押します。

4. 手順 **1** に戻るには *ENTER* ボタンを押します。

5. 通常モードに戻るには、表示部のMACRO表示が消えるまで *ENTER* ボタンを長押しします。

マクロを使用する

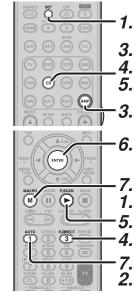
プログラムしたマクロを使うときは、次の手順で行います。

1. *MACRO* ボタンを押します。
- MACRO表示と"MACRO"が表示部に表示されます。

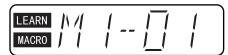
2. プログラム済みの番号の数字ボタンを押します。プログラムしたコードが1つずつ送信されます。

↓

- マクロがプログラムされていない場合は、コードは送信されません。
マクロステップが順次実行されます。
表示部に表示されるステップ番号は、そのステップが実行されるときに消えます。

3. すべてのマクロコマンドが送信されると、リモコンは通常のアンプモードに戻ります。

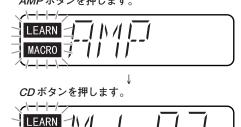
マクロプログラムの例

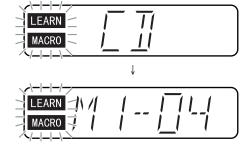
例1
本機の入力ソースをCDに変更し、CDプレイヤー内のCDの3番目のトラックを再生します。

1. LEARN表示・MACRO表示と"MACRO"が表示部に点滅表示されるまで、*MACRO* ボタンと *SET* ボタンを同時に長押しします。

2. "1"ボタンを押します。表示部に"M1-01"と表示されます。

3. *AMP* ボタンと *CD* ボタンを押します。表示部に“M1-02”と表示されます。
AMP ボタンを押します。

↓

CD ボタンを押します。

LEARN MACRO M1-02

4. *CD* ボタンと *3* ボタンを押します。表示部に“M1-03”と表示されます。
CD ボタンを押します。

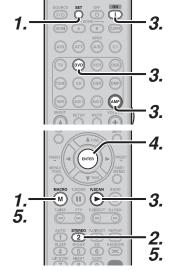
5. *CD* ボタンと▶ボタンを押します。

6. マクロのプログラムが終了したら、MACRO表示が消えて通常モードに戻るまで *ENTER* ボタンを長押しします。
ここで、プログラムしたマクロを実行してみます。

7. *MACRO* ボタンと *1* ボタンを押します。
- マクロコマンドが順次機器に送信されます。また、操作の各ステップが表示部に順次表示されます。

ご注意

マクロプログラムでアンプの入力ソースをプログラムする場合は、最初に ***AMP*** ボタンを押してからソースボタンを押してください。
（DVD入力の場合：AMP → DVD）

例2

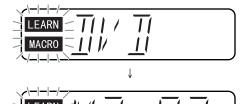
本機の電源をオンにする
↓
DVDプレイヤーの電源をオンにする
↓
本機の入力ソースをDVDに変更する
↓
DVDプレイヤーを再生する

1. LEARN表示・MACRO表示と“MACRO”が表示部に点滅表示されるまで、*MACRO* ボタンと *SET* ボタンを同時に長押しします。

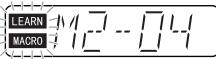
2. *2* ボタンを押します。表示部に“M2-01”と表示されます。

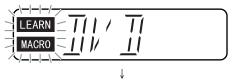
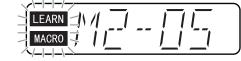
3. 次のボタンを順番に押して、マクロの各ステップを設定します。
（1）AMP → POWER ON.

（2）DVD → POWER ON.

↓

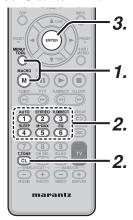
LEARN MACRO M2-03

（3）AMP → DVD.

↓

（4）DVD → PLAY.

↓

4. マクロのプログラムが終了したら、表示部のMACRO表示が消えて通常モードに戻るまで *ENTER* ボタンを押します。
ここで、プログラムしたマクロを実行してみます。

5. *MACRO* ボタンと *2* ボタンを押します。
- マクロコマンドが順次機器に送信されます。また、操作の各ステップが表示部に順次表示されます。

マクロプログラムを消去する

リモコンのメモリーにプログラムしたマクロを削除するときは、次の手順で行います。

1. LEARN表示・MACRO表示と“MACRO”が表示部に点滅表示されるまで、*MACRO* ボタンと *MENU* ボタンを同時に長押しします。

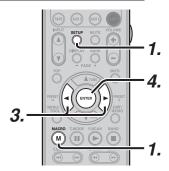
2. *CL* ボタンを長押しし、消去する番号の数字ボタン（この例では *2*）を3秒間押します。

- 表示部に“M2-CL”が点滅表示されます。

3. *ENTER* ボタンを押して消去し、手順 *1* に戻ります。

- メモリー消去操作をキャンセルする場合は、*ENTER* ボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. 通常モードに戻るには、表示部のMACRO表示が消えるまで *ENTER* ボタンを長押しします。

マクロ操作の送信間隔を調節する

1. 表示部に“SETUP”と表示されるまで、*MACRO* ボタンと *SETUP* ボタンを同時に長押しします。

- “SETUP”は3秒間表示されます。

2. 表示が“SETUP”から“MCRxx”に変わることを確認します（“xx”はマクロ操作の送信間隔を表します）。

3. カーソルボタン（◀または▶）を押して送信間隔を変更します。

- 送信間隔は、0.5秒から5秒まで、0.5秒間隔にて設定できます。

4. 通常モードに戻るには、表示部のMACRO表示が消えるまで *ENTER* ボタンを長押しします。

困ったときは

問題が発生した場合には、修理を依頼する前に以下を確認してください。

1. 接続は正しく行われていますか
2. 取扱説明書（本書）にしたがって本機を正しく操作していますか
3. 本機に接続した機器は正しく動作していますか

本機が正しく動作していない場合は、以下の表に示す項目を確認します。
以下の表に示す対処方法で問題を修復できない場合は、内部回路の動作不良が考えられます。直ちに電源コードのプラグを抜き、お買い上げになった販売店もしくはお近くの株式会社マランツコンシューマーマーケティング各営業所、お客様相談センター、または当社サービスセンターにご相談ください。

症　状	原　因	対処法
本機の電源が入らない。	電源プラグが接続されていない。	電源プラグをコンセントに挿し込んでください。
電源は入っているが、音声と画像が出力されない。	ミュートがONになっている。	リモコンを使用してミュートをキャンセルしてください。
	入力またはパワーアンプと正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブル類を正しく接続してください。
	マスターボリュームが完全に絞られている。	マスターボリュームを調節してください。
	INPUT SELECTORのポジションが間違っている。	正しいポジションを選択してください。
スピーカーから音が出ない。	ヘッドホンがヘッドホン端子に接続されている。	ヘッドホンを外してください。（ヘッドホンが接続されていると、スピーカーから音声が出力されません。）
音声もしくは映像が選択したソースと一致しない。	入力ケーブルが正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブルを正しく接続してください。
チャンネルから出力される音声が正しくない。	スピーカーが正しく接続されていない。	接続図を参照して、スピーカーを正しいチャンネルに接続してください。
センターチャンネル・スピーカーから音声が出力されない。	スピーカーが正しく接続されていない。	接続図を参照して、スピーカーを正しいチャンネルに接続してください。
	サラウンドモードにSTEREOが選択されている。	サラウンドモードにSTEREOが選択されていると、センタースピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。
	SPEAKERS SIZEメニューでCenter = Noneが選択されている。	CenterをSmallかLargeに設定してください。
サラウンドスピーカーから音声が出力されない。	スピーカーが正しく接続されていない。	接続図を参照して、パワーアンプおよびスピーカを正しいチャンネルに接続してください。
	サラウンドモードにSTEREOが選択されている。	サラウンドモードにSTEREOが選択されていると、サラウンドスピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。
	SPEAKERS SIZEメニューでSurround = Noneが選択されている。	SurroundをSmallかLargeに設定してください。
サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない。	スピーカーが正しく接続されていない。	接続図を参照して、パワーアンプおよびスピーカを正しいチャンネルに接続してください。
	サラウンドモードがEX/ESモードになっていない。	サラウンドモードをEX/ESに設定してください。
	SPEAKER SIZEメニューでSurround back = NoneまたはZone SPKRが選択されている。	Surround backを1chか2chに設定してください。
EX/ESモードが選択できない。	SPEAKER SIZEメニューでSurround back = NONE、またはZSP Aが選択されている。	Surround backを1chか2chに設定してください。
	入力信号に互換性がない。	5.1chソースを使用してください。
Neo:6モードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS入力信号、PCM入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。
CSⅡモードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS入力信号、PCM入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。
SUBWOOFER OUTへの出力が出ない。	SPEAKER SIZEメニューでSubwoofer = Noが選択されている。	Subwoofer = Yesを選択してください。
DTSエンコードされたCDやレーザーディスクの再生中にノイズが発生する。	アナログ入力が選択されている。	確実にデジタル接続を実行し、デジタル入力を選択した上で再生してください。
特定のチャンネルで出力が行われない。	そのチャンネルに録音が存在しない。	ソース側のエンコードされたチャンネルを確認してください。
AMやFMが受信できない。	アンテナの接続が不完全。	屋内のAMアンテナとFMアンテナを、AMアンテナ端子とFMアンテナ端子に正しく接続してください。
AM受信中にノイズが聞こえる。	受信が他の電界の影響を受けている。	AM室内アンテナの設置場所変えてください。
FM受信中にノイズが聞こえる。	放送局からの電波が微弱。	FM屋外アンテナを設置してください。
リモコンによる制御ができない。	電池が切れている。	電池をすべて新しいものに取り替えてください。
	リモコンのモードが違う。	リモコンを制御する機器のモードに切り替えてください。
	本機とリモコン間の距離が遠過ぎる。	本機に近づき、操作範囲内で操作してください。
	本機とリモコンの間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。
AAC信号が再生できない	デジタルチューナーのデジタル出力設定が誤っている。	デジタルチューナーの取扱説明書を参照してください。
トランスからうなり（ノイズ）が出る。	家庭内の電源事情により、多少目立つことがあります。	電熱器、コタツなどの使用を止めてみてください。
入力信号がないときに、シャーというノイズ（残留ノイズ）が出る。	サラウンド用のDSPを搭載しておりますので、多少目立つことがあります。	2chソースをお聞きのときノイズが気になる場合は、S（Source）-Directモードでお聞きください。
DVDプレーヤーでCD再生時に、トラックスキップなどを行うと、曲の頭が少し欠けて再生される。	DVDプレーヤーによってはトラックスキップ時にデジタル信号が途切れるものがあります。サラウンドシステムを適切に合わせるための判別時間が必要なため、少しだけ曲の頭が途切れる場合があります。	この様なDVDプレーヤーを接続する場合、アナログ接続して頂くと問題なく再生することができます。
音楽再生時、音像が定位しない。	スピーカーの極性が正しく接続されていない。	スピーカーの極性を確認してください。

HDMI接続

症　状	原　因	対処法
HDMI接続で画面が映らない。	接続しているモニター、プロジェクターがHDCPに対応していない。	HDCPに対応したモニターを接続してください。
	TV 側のHDMI入力設定が有効になっていない。	TV の取り扱い説明書を参照の上、HDMI入力を有効になるよう設定してください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 出力設定が有効になっていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI出力を有効になるよう設定してください。
	本機のHDMI 入力設定が正しく設定されていない。	27ページを参照の上、Setup 画面にてHDMI入力設定を行ってください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI出力用のVideo解像度設定がTV側の仕様と合致しない。	双方の機器の取り扱い説明書を参照の上、合致する解像度設定をしてください。
	規格外のHDMIケーブルで接続している。	より安定した動作や、画質劣化などの防止のため、5 m以下のケーブルの使用を推奨いたします。
	本機の電源が切られている。（本機がスタンバイ状態ではHDMI接続は有効になりません）	本機の電源を入れてください。
	HDMI搭載機器間の接続認証がされない	本機、あるいはTV、ソース機器の電源を入れ直してください。
HDMI接続で映像が映るまで時間がかかる。	HDMI 搭載機器間の接続認証をおこなっている。	接続される機器によっては認証に時間がかかる場合があります､故障ではありません。
HDMI接続で音声が再生されない。	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI音声出力設定が有効になっていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI 音声出力を有効になるよう設定してください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI音声設定にて信号フォーマットの設定が本機の対応信号に設定されていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI 音声出力設定を本機との接続に適切になるよう設定してください。
	HDMI AUDIO THROUGHモードになっている。	THROUGHモードの時は本機からは音がでません。ENABLEに設定してください。（38ページ参照）
HDMI接続でDVD - Audioの音声が再生されない。	DVDプレーヤーがHDMI のCPPM対応していないため、Audio 出力をしていない。	• CPPM対応のDVDオーディオプレーヤーを使用してください。 • DVDプレーヤーのPCMダウンサンプリングをONに設定してください。 • アナログ接続でご使用ください。
HDMI接続でスーパーオーディオCDの音声が再生されない。	接続しているソース機器がスーパーオーディオCDの出力に対応していない。	• スーパーオーディオCD出力に対応した（HDMI：Version 1.2）機器を接続してください。 • アナログでご使用ください。
HDMI接続で、Dolby True HD､dts HDなどの音声が再生されない。	接続しているソース機器がこれらの音声モード出力に対応していないか､出力設定がされていない。	• Dolby True HD、dts HD出力に対応した（HDMI：Version 1.3a）機器を接続してください。 • ソース機器がこれらの音声モードを出力できるように出力設定をしてください。

USB操作

症　状	原　因	対処法
USBストレージを接続してもステータス表示が、“NO DEVICE”表示のままで認識しない。	• 接続不良などで、本機がUSBストレージを認識できない。	• USBストレージやUSB ケーブルが本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。 • USB ストレージを一旦本機から外し、再度接続してみてください。 • 本機の電源を入れなおし、再度接続してみてください。
USBストレージを接続するとステータス表示に“UNKNOWN DEVICE”が表示される。	• 本機が認識できないデバイスを接続している。 • USB ハブ経由で接続している。	• USBマスストレージクラスに対応したUSBデバイスであっても、本機で再生できないものがあります。（故障では有りません） • USBハブを経由した接続はできません。
USBストレージを接続するとステータス表示に“UNKNOWN FILE SYSTEM”が表示される。	• USBストレージのフォーマットが、FAT16またはFAT32以外のフォーマットになっている。	• フォーマットをFAT16または FAT32に設定し、ファイルを記録してください。
USBストレージを接続するとステータス表示に“OVER CURRENT”が表示される。	• 本機のUSB端子の過電流保護が働いた。	• 本機のUSB端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。 接続したUSBストレージを取り外し、本機の電源を入れなおしてください。
USBストレージを接続するとステータス表示に“NO AUDIO FILE” が表示される。	• USBストレージに再生できるファイルが記録されていない。	• 対応しているファイルをUSB ストレージに記録してください。
USBストレージのファイルを再生するとステータス表示に“CAN’ T PLAY”が表示される。	• 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしている。 • ファイルが破損している。または、拡張子とファイルの構造が異なっている。	• 本機は著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。 • ファイルを確認してください。
USBストレージに記録したファイルが表示されない。	• USBストレージが複数のパーティションに分かれている。 • フォルダ数が700、ファイル数が65535を超えている。	• 複数のパーティションに分かれている場合は、第1パーティション以外は表示されません。 • フォルダ数が700、ファイル数が65535以下でご使用ください。

ご注意

スタンバイ・インジケーターがゆっくり点滅(1秒間に2回)するときがあります。このときは本機の電源をオフにして電源コードを抜いて下記の確認事項を確認してください。

- 本機と接続したスピーカーケーブルが+側と-側を逆に接続していないか。
- 本機と接続したスピーカーケーブルがショートしていないか。(本機側、スピーカー側共に確認してください。)
- 本機の性能を上回る大音量で再生していないか。
- 本機をラックなどに入れてご使用になっている場合、本機の内部に熱がこもり火災の原因となる場合があります。本機内部の温度上昇を防ぐため、本機の上面、背面および両側面と壁や他のAV機器などとは十分離して設置してください。

上記項目を確認の上、電源コードを接続し、リモコンを使って電源を入れ直してください。

そして、音量を下げてから再生を行い、本機のスピーカー接続や再生状態に異常がないことを確認してください。

もし再び同じ症状が発生したときは、最寄りのサービスセンターへ修理を依頼してください。

まれに本機がスタンバイ状態になり、スタンバイ・インジケーターが早い点滅(1秒間に8回)するときがあります。このときは速やかに本機の電源コードを外して、最寄りのサービスセンターへ修理を依頼してください。

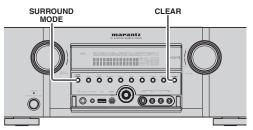
異常動作のときは

本機表示部に異常な表示や誤動作表示などをしている場合、すぐに主電源を切ってください。
再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。
その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

メモリバックアップについて

本機の主電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには（リセット）

「故障かな？と思ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は、本機のリセットを試してみてください。
但しリセット行うと、セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定の情報が消去されますことをご了承ください。

1. **電源が入っていることを確認します。**
2. **本機の*SURROUND MODE*ボタンを押しながら、*CLEAR*ボタンを3秒以上押します。**
   本機は一度スタンバイ状態になった後、再度POWER－ON状態となり、各種設定された内容が初期化され、工場出荷時の状態に戻ります。

その他

サラウンドモード

本機には多くのサラウンドモードが搭載されています。これは再生するソースの内容に応じて、多様な音声効果を再現するためです。
利用可能なサラウンドモードは、入力信号とスピーカーの設定に応じて制限される場合があります。

使用するサラウンドモードと入力信号について

サラウンドモードは本機のサラウンドモード切り替えボタンか、リモコンを使って選択します。また、再生される音声は、選択したサラウンドモードと入力信号との関係に応じて変化します。
関係は次の表のとおりです。

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
AUTO	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	DolbyDigital +	○	-	-	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	DolbyTrueHD	○	-	-	-	○	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	-	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	○	-	-	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	○	○	○	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	-	-	-	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	○	○	-	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	SA-CD (Stereo)	○	-	-	-	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	○	-	-	-	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	○	ANALOG	-
	7.1ch input	Multi Ch	○	○	○	○	○	ANALOG	-
SOURCE DIRECT PURE DIRECT	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	DolbyDigital +	○	-	-	-	-	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	DolbyTrueHD	○	-	-	-	-	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	-	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	○	-	-	-	-	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	○	○	○	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	-	-	-	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	○	○	-	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	SA-CD (Stereo)	○	-	-	-	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	○	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	-	ANALOG	-
	7.1ch input	Multi Ch	○	○	○	○	○	ANALOG	-

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
EX/ES	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital + +EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD +EX	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1)	DTS-HD + NEO6	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	AAC (5.1)	AAC + Dolby EX	○	○	○	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi-PCM	Multi Ch-PCM + Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, SW
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DSD	L, C, R, SL, SR, SW
DOLBY (PLIIx movie) (PLIIx music) (PLIIx game)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	-	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1 + PLIIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Dolby Digital Plus + PLIIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD + PLIIx	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	-	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC + PLIIx	○	○	○	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + PLIIx	○	○	○	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + PLIIx	○	○	○	○	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	ANALOG	-
DTS (Neo:6 Cinema) (Neo:6 Music)	DTS-ES	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	○	○	○	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby D (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Neo:6	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby TrueHD (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	DD TrueHD	L, R
	AAC (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	SA-CD (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Neo:6	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Neo:6	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Neo:6	○	○	○	○	○	ANALOG	-
CSII (Cinema /Music / Mono)	Dolby D (2ch)	CSII	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	CSII	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	AAC (2ch)	CSII	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	SA-CD (2ch)	CSII	○	○	○	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	CSII	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	CSII	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	CSII	○	○	○	○	○	ANALOG	-
NEURAL- THX	Dolby D (2ch)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	AAC (2ch)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	SA-CD (2ch)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	NEURAL THX	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	NEURAL THX	○	○	○	○	○	ANALOG	-
STEREO	Dolby Surr.EX	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (6.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (7.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-ES	Stereo	○	-	-	-	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Stereo	○	-	-	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
STEREO	AAC (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	PCM 96kHz	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	HDCD	Stereo	○	-	-	-	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	○	ANALOG	-
Dolby Virtual Speaker	Dolby Surr.EX	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R, S
	DTS-ES	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	Virtual	○	-	-	-	-	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Virtual	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	ANALOG	-
Multi Ch. Movie Music	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	(○)	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	(○)	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	(○)	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	(○)	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	(○)	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Multi Channel Stereo	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	○	(○)	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	○	(○)	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	(○)	○	-	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	PCM	L, R
(○): Movie mode only.	HDCD	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	ANALOG	-
Dolby H.P	Dolby Surr.EX	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (6.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (7.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	DD TrueHD	L, R
	DTS-ES	Dolby H.P	○	-	-	-	-	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby H.P	○	-	-	-	-	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	Stereo	○	-	-	-	-	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	AAC (5.1ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Dolby H.P	○	-	-	-	-	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM	Dolby H.P	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	Dolby H.P	○	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	ANALOG	Dolby H.P	○	-	-	-	-	ANALOG	L, R

ご注意

- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD信号を再生中は対応した再生モードとSTEREO以外のSURROUND MODEを選択することはできません。

  また、STEREO以外のSURROUND MODEが選択されていても、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD信号を再生した場合はそのSURROUND MODEは無効となり、対応した再生モードの処理になります。

略語

L/R: フロント左／右スピーカー
C: センタースピーカー
SL/SR: サラウンド左／右スピーカー
SBL/SBR: サラウンドバック左／右スピーカー
SubW: サブウーファー
EX: エクステンション

AUTO

このモードでは、ドルビーデジタル、ドルビーTrueHD、ドルビーデジタルプラス、ドルビーデジタルEX、ドルビーサラウンド、DTS、DTS-HD、DTS-ES、AAC、PCM、96kPCMなどの入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
入力信号がPCM信号の場合はステレオ再生を行います。ドルビーデジタルやDTS、AACの場合はそれぞれのチャンネル数に応じた再生を行います。

SOURCE DIRECT（ソースダイレクト）

このモードでは、スピーカー設定などによる周波数フィルターやディレイ、トーンコントロールなどの付加処理をバイパスし、入力信号を最短処理にて出力します。また、アナログ信号入力時にはデジタル部の処理を停止して、高周波クロックなどの影響を最小限にします。

ご注意

- スピーカーサイズは Front L/R = LARGE、Center = LARGE、Surround L/R = LARGE、Subwoofer = YES に自動的に設定されます。
- トーンコントロール、イコライザーその他の追加の処理は停止します。

PURE DIRECT（ピュア ダイレクト）

このモードはソースダイレクトモードの動作に加え、ビデオ端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI）への出力を停止し、表示部も消灯して更にノイズ源を低減させます。

EX/ES

このモードでは、Dolby Digital EXおよびDTS-ESエンコードされた入力ソースに対して、6.1ch サラウンドが提供されます。
アナログ入力を選択したときは、このモードは利用できません。

Dolby Digital EX

このモードでは、映画館で再生されるDolby Digital Surround EX テクノロジーでエンコードされた映画のサウンドトラックは、プログラムのミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。
サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルにより、現在利用可能なフロント左、フロントセンター、フロント右、サラウンド右、サラウンド左、サブウーファーチャンネルに加えて、リスナーの背後に音声が配置されます。
この追加のチャンネルによって、より繊細な後方音声イメージをリスナーに与えることができ、それによってこれまでにない奥行きや広がりのある音像がもたらされます。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、Dolby Digital EX は利用できません。

DTS-ES（Discrete 6.1, Matrix 6.1）

このモードでは、DTS 5.1ch 形式にサラウンドセンターチャンネル音声を追加して音像定位を改善し、6.1ch 再生時の音像移動をより自然なものにします。
本機には DTS-ES デコーダーが組み込まれており、DVD などの DTS-ES Discrete エンコードと DTS-ES Matrix エンコードのソースを処理することができます。
DTS-ES Discrete 6.1 の特徴は、サラウンドバックチャンネルを含むすべてのチャンネルの独立したデジタル録音と、より質の高いオーディオ再生です。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、DTS-ES は利用できません。

Dolby MODE

（Dolby Digital、Pro Logic Ⅱx MOVIE、Pro Logic Ⅱx MUSIC、Pro Logic Ⅱx GAME）

このモードは、Dolby Digital と Dolby Surround でエンコードされた入力ソースに使用します。

DOLBY DIGITAL

このモードは、Dolby Digital でエンコードされた入力ソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた 5.1ch Dolby Digital ソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFE チャンネルからの音声が得られます。このモードでは Dolby Digital EX のオーディオはデコードできません。

Dolby Pro Logic Ⅱx には次の5つのモードがあります。

Pro Logic Ⅱx MOVIE

このモードでは、Dolby Surround エンコードされたステレオ映画のサウンドトラックから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx MUSIC

このモードではCD、テープ、FM、テレビ、ステレオビデオなど従来型の（アナログもしくはデジタルの）ステレオソースから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx GAME

このモードでは、サラウンド低域をシステムのサブウーファーに割り振ることによって、強い低域サラウンド効果を再現します。

5.1ch ＋ Pro Logic Ⅱx Movie

このモードでは、映画サウンドトラックの5.1ch ソースから、7.1ch のサラウンド音声が得られます。

5.1ch ＋ Pro Logic Ⅱx Music

このモードでは、5.1ch のサウンドトラック・ソースから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

ご注意

- SPEAKER SETUP メニューで SURR. B を "NONE" に設定したときは、Pro Logic Ⅱ x モードは Pro Logic Ⅱ モードとしてデコードします。（33ページ参照）
- Pro Logic Ⅱx モードは Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式でエンコードされた、2ch 入力信号に対して利用できます。

dts

dts, Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードはDVD、CDのような DTS エンコードされたソースの視聴用です。Neo:6 は 2ch ソースの視聴用です。

dts

このモードは dts マルチチャンネルエンコードされたソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた5.1ch dts ソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFE チャンネルからの音声が得られます。
このモードでは DTS-ESでのデコードは利用できません。
またアナログ入力を選択したときは、DTS モードは利用できません。

Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードでは高精度デジタルマトリックステクノロジーを使用して、2ch 信号を6ch 信号にデコードします。
DTS Neo:6 デコーダーには、チャンネルの周波数特性ばかりでなくチャンネルセパレーションにおいてもほぼディスクリートであるという特性があります。
再生する信号に応じて、DTS Neo:6 は映画再生用に最適化された Neo:6 Cinema モードか、音楽再生用に最適化された Neo:6 Music モードのいずれかを使用します。

ご注意

- Neo:6 モードは、Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式にエンコードされた2ch 入力信号の場合に利用できます。

CIRCLE SURROUND Ⅱ（CSⅡ-CINEMA、CSⅡ-MUSIC、CSⅡ-MONO）

Circle Surround は、エンコードなしの素材とマルチチャンネルエンコードされた素材を、マルチチャンネルサラウンド再生できるように設計されています。
放送、ビデオテープ、ステレオレコード音楽を含む、すべての音楽と映画の再生において、下位互換性による6.1チャンネルまでのサラウンド性能がリスナーに提供されます。
ソースに応じて CSⅡ-Cinema モード、CSⅡ-Music モード、CSⅡ-Mono モードのいずれかを選択できます。

ご注意

- CS Ⅱ モードは Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式でエンコードされた 2ch 入力信号に対して利用できます。

STEREO

このモードでは、すべてのサラウンド処理が省略されます。
ステレオソースで、PCM オーディオやアナログステレオが入力されたときは、左チャンネルと右チャンネルが通常の再生を行います。
Dolby Digital と DTS ソースの場合は、5.1ch が 2ch ステレオに変換されます。96 kHz の PCM ソースは、ステレオモードで再生できます。

Dolby Virtual Speaker

ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズにより承認された技術であり、マルチチャンネルドルビーデジタルソースを２本のスピーカーから出力し、バーチャル化されたサラウンド音声体験を作り出します。さらにドルビーバーチャルスピーカーはドルビープロロジックやドルビープロロジックⅡにより作り出されたサラウンド音響効果をシミュレートします。ドルビーバーチャルスピーカーは元のマルチチャンネルオーディオ情報をすべて保持してリスナーにスピーカーに囲まれているかのような感覚を提供します。

MULTI CH（MOVIE, MUSIC）

このモードは、2chソースからより広く、より奥行きがあり、より自然な音場を作成する場合に使用します。

そのような音場は、左チャンネル信号を左フロントスピーカーと左サラウンドスピーカーの両方に、右チャンネル信号を右フロントスピーカーと右サラウンドスピーカーの両方に振り分けることによって実現されます。さらにセンターチャンネルでは、右チャンネルと左チャンネルを融合した音声が再生されます。

Neural Surround

Neural Surroundは音楽再生のために開発された最新のサラウンド技術です。音響心理学に基づいた周波数領域処理を行うことにより、優れたチャンネルセパレーションと定位を実現し、より精細なサウンドステージを再現します。

MPEG-2 AAC

BSデジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2chステレオ音声に加え、5.1chサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。

ご注意

DTSについて

- DTS信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。DTS-CDやDTS-LDを再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されていることがあります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用ください。
  上記ノイズ出力の理由により、本機でDTS-CDやDTS-LDを再生中は、デジタル、アナログ入力の切り替え動作などを禁止している場合があります。一度プレーヤー側をSTOP状態にしてから行ってください。
- お手持ちのプレーヤーによっては、DTS再生をすると短いノイズが発生する場合があります。これは動作不良ではありません。
- DTSレーザーディスクやDTS CDの信号がほかのサラウンドモードで再生されている間は、Main MenuのInput SetupやA/Dボタンを使って、デジタル入力からアナログ入力へ切り替えることはできません。
- DTS エンコードされたソフトウェアをゾーンで聴くことはできません。
- VCR OUT、TAPE OUT、CD/CDR OUT端子からは、アナログ音声信号だけが出力されます。これらの端子を使用して DTS 対応の CD や LD から録音しないでください。DTS エンコードされた信号は、ノイズとして録音されてしまいます。

Dolby Digital Surround EXについて

- Dolby Digital Surround EX エンコードされたソフトウェアを6.1チャンネルで再生するときは、EX/ES モードに設定してください。
- Dolby Digital Surround EX エンコードされたソースの中には、識別信号が含まれないものがあります。この場合は手動で EX/ES モードを設定してください。

96 kHz/192 kHz PCM オーディオについて

- DVDビデオ／オーディオディスクの場合のように、PCM 信号をサンプリング周波数96/192 kHzで再生するときは、AUTO モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモード、ステレオモードを使用できます。
- お手持ちのDVDプレーヤーによっては、デジタル出力が制限されることがあります。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
- DVDディスクの中にはコピープロテクト機能を持つものがあります。このようなディスクを使用したときは、96 kHzの PCM 信号は DVDプレーヤーから出力されません。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

HDCDについて

- HDCD はデジタル入力の場合にのみ有効です。
- お手持ちのCDプレーヤーによっては、プレーヤーを本機にデジタル接続しても特定の HDCD ソース信号を再生できない場合があります。

サウンドについて

Neural-THX Surroundは楽器やボーカル、残響などマスキングされてしまいがちな音のディティールを再現し、今までのCDやデジタルメディアプレイヤーなどの通常のステレオ信号やサラウンド処理された信号では得ることのできなかった素晴らしい体験をリスナーに届けます。Neural-THX Surroundはサラウンドをさらなる高いレベルに引き上げる技術です。

“DTS” “DTS-HDマスターオーディオ”および“DTS-HDハイレゾリューションオーディオ”は、Digital Theater System, Inc.の登録商標または商標です。

•DTS-HDマスターオーディオ

DTS-HDマスターオーディオは、プロフェッショナルスタジオで作られるマスター音源を、その品質のまま、データの損失なしにリスナーまで届けることのできる技術です。DTS-HDマスターオーディオは、96 KHz/24 bitでは7.1チャンネル、192kHz/24bitでは6チャンネル音声をオリジナル音源のデータを欠損させることなく伝送することを可能にしています。DTS-HDマスターオーディオは、音楽や映画の音声の作り手であるアーティストの意図したとおりの音声を受け手に届けるための貴重な技術であるといえましょう。

•DTS-HDハイレゾリューションオーディオ

DTS-HDハイレゾリューション・オーディオは、最大7.1チャンネルまでの音声をほぼオリジナルと区別できないハイクォリティで伝送することが可能なフォーマットです。DTS-HDハイレゾリューション・オーディオは96 KHz/24 bitの7.1チャンネルの音声を伝送可能にしています。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、およびダブルD記号および“AAC”ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

•ドルビー True HD

ドルビーTrueHDは、次世代光ディスクメディアに採用されているロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。ドルビーTrueHDはスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現します。HD映像と組み合わせることにより、ドルビーTrueHDはこれまで想像できなかったほどハイクオリティなホームシアター体験を提供します。96 kHz/24 bitでは最大8チャンネル、192kHz/24bitでは最大6チャンネルの音声の記録が可能です。

•ドルビーデジタルプラス

ドルビーデジタルを高音質・高機能に進化させたドルビーデジタルプラスは、HDクオリティのデジタルTV放送や光ディスクメディア、オンラインコンテンツなどのA/Vエンタテインメントにさらにリッチなサラウンドサウンドを提供するための柔軟性と効率性を備えています。ドルビーデジタルプラスの優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大7.1チャンネルの高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

AAC（Advanced Audio Coding）

BSデジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2CHステレオ音声に加え、5.1CHサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

5848391	5,291,557	5,451,954
5,357,594	5 752 225	5,394,473
5,633,981	5 297 236	4,914,701
5,579,430	08/678,666	98/03037
98/03036	5,227,788	5,285,498
5,781,888	08/039,478	08/211,547
08/894,844	5,299,238	5,299,239
5,490,170	5,264,846	5,268,685
5,548,574	5,717,821	08/937,950
08/576,495	08/392,756	

5 400 433	5,222,189
5,583,962	5,274,740
5,235,671	07/640,550
97/02875	97/02874
5,481,614	5,592,584
5,703,999	08/557,046
5,299,240	5,197,087
5,375,189	5,581,654
05-183,988	08/506,729

Circle Surround II、SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。
Circle Surround II 技術は、SRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

HDCD®, HDCD®, High Definition Compatible Digital®およびMicrosoft®は、米国内や他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。HDCDシステムはマイクロソフト社からのライセンスに基づき製造されています。この製品は下記の1つ以上の特許によって保護されています。
米 国 内：5,479,168、5,638,074、5,640,161、5,808,574、5,838,274、5,854,600、5,864,311、5,872,531。
オーストラリア国内：669114。
その他の特許は出願中。

HDMI

"HDMI" "HDMI" および "High-Definition Multimedia Interface" はHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

• HDMIについて

HDMIとは従来のDVI（Digital Visual Interface）規格をさらに発展させた新しい規格です。映像信号に加えてオーディオ信号をデジタルで伝送する機能が追加されています。音声／映像用に複数のケーブルが必要だったものがHDMIケーブル1本で接続ができます。本機のHDMI入出力端子はVer.1.3aに対応しています。
※HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

著作権保護について

本機はHDCP（High-band width Digital Content Protection）に対応しています。HDCPはデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション（著作権保護）技術です。デジタル映像コンテンツの保護を目的にしており、本機と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。HDCPに対応しているテレビ／モニターなどと接続してください。また接続する機器の取扱説明書をご確認のうえご使用ください。

性能の優れたスピーカーを導入しても、一般的なリスニングルームには、その音質を劣化させるような幾つかの要因があります。音質を劣化させる要因のひとつは、スピーカーからのオーディオ出力と、部屋の壁、床、天井といった大きな平面との相互作用です。入念なスピーカー配置および音響処理を行った場合でも、部屋の音響特性によって発生する重大な問題があります。たとえば、スピーカーの近くの壁等の表面からの反射や、室内の大きな平行面の間に発生する定在波などです。ホームシアター環境では、複数リスナーのリスニングポイントが存在するため、状況はさらに複雑です。各リスナーのリスニングポイントにおいて生じる音質への、部屋の音響特性による影響は大きく異なります。その結果、室内において、それぞれのリスナーごとに異なる度合いでシアター体験の劣化が生じます。
特に250 Hz以下の周波数域では、隣り合った2つの座席で10 dBもの音量の違いを呈する場合もあります。この問題に対する解決策は、各スピーカーが部屋の音響特性とどのように相互作用するのかを精密に測定した後で、音響特性の補正を行うことです。部屋の音響特性によって生じる、スピーカーの周波数特性の変動の程度は座席ごとに大きく異なりますので、リスニングルームの複数箇所で音質を測定することが重要です。この複数箇所での測定は、リスナーが1人だけであっても必要です。これは、1ポイントだけの測定結果では、リスニングルームの音響特性上の問題を正確に捉えることができず、多くの場合、結果として全体のパフォーマンスを損ねる場合があるためです。Audyssey MultEQは、大きなリスニングエリア内の複数のリスナーを対象に、最適なリスニング環境を提供することを目的とした技術であり、複数のリスニングポイントで収集された各スピーカーからのテストデータを総合的に分析し、部屋の音響特性を最小化するための補正を行って、音響心理学で知られる人間の聴覚の周波数分解能と一致させます。
さらに、MultEQによる補正は、周波数領域と時間領域に関して適用され、部屋の音響特性の従来のイコライゼーション方式では発生する場合があった、不鮮明さや過剰な共鳴といったアーチファクトを除去します。
広いリスニングエリア内での周波数特性の問題の補正に加えて、Audyssey MultEQでは、完全自動化されたサウンドシステムのセットアップが提供されます。これにより、アンプに接続されたスピーカーの数と、それらがサテライトスピーカーまたはサブウーファーであるかどうかが自動認識されます。少なくとも1つのサブウーファーが接続されている場合、Audyssey MultEQでは、各サテライトスピーカーとサブウーファー間の最適なクロスオーバー周波数が決定されます。スピーカーの極性が自動的にチェックされ、他のスピーカーに対して逆位相に接続されたスピーカーがある場合には警告されます。メインリスニングポイントから各スピーカーまでの距離が測定され、各スピーカーからサウンドが聴こえてくるタイミングが合うようにディレイが調整されます。そして最終的には、各スピーカーの再生音量が測定され、すべて同じレベルになるように音量トリムが調整されます。

Audyssey MultEQは、Audysseyラボラトリーズ社からのライセンスに基づき製造されています。米国および外国特許出願中です。MultEQはAudysseyラボラトリーズ社の登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

Windows およびWindows Media Audio は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

iTunes は、米国Apple Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

仕様・外観寸法図

FMチューナー部

周波数範囲 ....76.0 — 90.0 MHz
実用感度...........................IHF 1.8 μV/16.4 dBf
S/N 比 .... モノラル／ステレオ 75/70 dB
歪み................ モノラル／ステレオ 0.2/0.3 %
ステレオセパレーション............. 1 kHz 45 dB
実効選択度 .... ± 300 kHz 60dB
イメージ妨害比...........................83 MHz 50dB
チューナー出力レベル
....................1kHz, ± 75 kHz Dev 800mV

AMチューナー部

周波数範囲 ....531 — 1602 kHz
実用感度..................................Loop 400 μV/m
S/N 比 ....50 dB
歪み..........................400Hz, 30% Mod. 0.5%
実効選択度 .... ± 18 kHz 70dB

オーディオ部

出力（20 Hz – 20 kHz/THD=0.08%）
フロント L/R...........................8 Ω 100 W/Ch
センター....................................8 Ω 100 W/Ch
サラウンド L/R........................8 Ω 100 W/Ch
サラウンドバック L/R ....8 Ω 100 W/Ch

フロント L/R...........................6 Ω 125 W/Ch
センター....................................6 Ω 125 W/Ch
サラウンド L/R........................6 Ω 125 W/Ch
サラウンドバック L/R ....6 Ω 125 W/Ch

入力感度／インピーダンス ...180 mV/47 k Ω
S/N 比（アナログ入力／ピュアダイレクト）
.... 105 dB
周波数特性
（アナログ入力／ピュアダイレクト）
........................8 Hz – 100 kHz（± 3 dB）
（デジタル入力／ 96 kHz PCM）
...........................8 Hz – 45 kHz（± 3 dB）

ビデオ部

信号方式..NTSC
入力・出力インピーダンス.............................. 75 Ω
入出力レベル..1 Vp-p
S/N 比 ....60 dB
周波数特性（ビデオ、S- ビデオ）
.............................5 Hz — 8 MHz（— 1dB）
周波数特性（コンポーネント Video）
.... 5 Hz — 80 MHz（— 3dB）

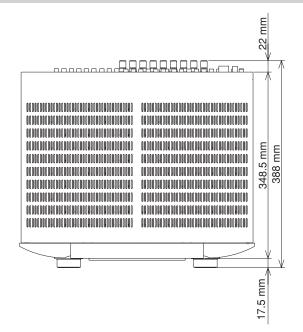
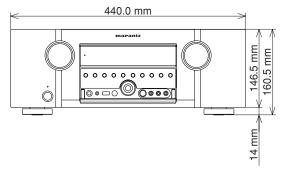
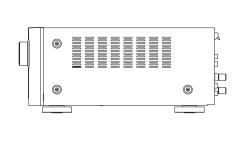
HDMI

バージョン .... 1.3a［入力］
.... 1.3a［出力］

付属品

リモコン（RC003SR）...1
単4形乾電池...2
マイク..1
AM ループアンテナ..1
FM アンテナ...1
電源コード 1
取扱説明書 1
保証書..1

総合

電源電圧.................................AC 100 V 50/60 Hz
消費電力（電気用品安全法による）................600 W
スタンバイ消費電力
（ノーマル）..0.7 W
（エコノミー）..0.4 W
重量 .... 13.2 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お手入れ

- セットが汚れた時は柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を５〜６倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。

2. 本体の保証期間はお買い上げ日より１年間です。お買い上げ販売店又は弊社営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」致します。

3. 保証期間経過後の修理について。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低８ 年間保有しています。

5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または取扱説明書の裏面に記載のお客様相談センターに遠慮なくご相談ください。

6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度“困ったときは”をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社営業所、サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）品 名　AVサラウンドレシーバー
2）品 番　SR6003
3）シリアルナンバー（製造番号）
3）お買上げ日　年　月　日
4）故障の状況（できるだけ具体的に）
5）ご住所
6）お名前
7）電話番号

セットアップコード

テレビ

ソースボタン名：TV

メーカー	コード
Acer	1141
Admiral	1002, 1009, 1089
Aiko	1059
Aiwa	1117, 1118
Akai	1001
Amtron	1023
Anam	1113
Anam National	1023, 1069, 1092
AOC	1003, 1024, 1049, 1127
Audiovox	1023
Bell & Howell	1009, 1025
Benq	1104, 1142
Broksonic	1003, 1097, 1098, 1113
Celebrity	1001
Citizen	1003, 1013, 1023, 1026, 1059, 1063
Colortyme	1003, 1043
Contec	1113
Contec/Cony	1023, 1045, 1047
Craig	1020, 1022, 1023, 1113
Crown	1023, 1067
Curtis Mathes	1003, 1013, 1025, 1026, 1062, 1103, 1110
Daewoo	1003, 1013, 1024, 1035, 1036, 1059, 1084, 1101
Daytron	1003, 1013, 1016
Dimensia	1103, 1110
Dumont	1003, 1010, 1153
Electroband	1001
Electrohome	1001, 1003, 1069, 1133
Emerson	1003, 1013, 1015, 1020, 1021, 1022, 1023, 1025, 1038, 1044, 1045, 1048, 1055, 1061, 1094, 1096, 1099, 1101, 1113
Envision	1003
Fisher	1025, 1051, 1091, 1160
Fujitsu	1038, 1124, 1125, 1155
Funai	1023, 1038, 1113
Gateway	1150
GE	1003, 1018, 1022, 1046, 1054, 1069, 1085, 1103, 1110, 1113, 1133, 1136, 1153
Goldstar	1003, 1013, 1024, 1030, 1045, 1080, 1100, 1112, 1154
Hallmark	1003
Hisense	1116
Hitachi	1003, 1012, 1031, 1032, 1037, 1041, 1045, 1047, 1065, 1068, 1082, 1088, 1094, 1139, 1140, 1145, 1159
Infinity	1067
Janeil	1134
JBL	1067
JC Penney	1003, 1013, 1018, 1019, 1024, 1026, 1046, 1047, 1054, 1063, 1083, 1085, 1100, 1103, 1110, 1112, 1133, 1154
Jensen	1003
JVC	1028, 1029, 1045, 1047, 1050, 1060, 1065
Kawasho	1001, 1003
Kenwood	1003
Kloss Novabeam	1023, 1056, 1057, 1134
KTV	1013, 1023, 1033, 1034, 1073, 1099, 1113
LG	1024, 1030
M.Wards	1002, 1009, 1038
Magnavox	1003, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1081, 1106
Marantz	1003, 1031, 1067, 1122
Mitsubishi	1003, 1024, 1051, 1115, 1122, 1133
Motorola	1014, 1069
NEC	1003, 1012, 1024, 1043, 1069
NET-TV	1137, 1150
Orion	1020, 1096
Panasonic	1017, 1067, 1069, 1095, 1111
Philips	1003, 1011, 1045, 1052, 1054, 1056, 1057, 1058, 1063, 1067, 1069, 1106
Pioneer	1003, 1018, 1037, 1070, 1071, 1094, 1145, 1147, 1149
Plasmsync	1135
Portland	1003, 1013, 1024, 1059
Price Club	1026
Prism	1018
Proscan	1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1085, 1103, 1110
Proton	1003, 1045
Quasar	1010, 1069, 1073, 1111, 1153
Radio Shack	1003, 1013, 1015, 1023, 1024, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110, 1113
RCA	1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1014, 1024, 1049, 1069, 1075, 1079, 1085, 1087, 1088, 1093, 1094, 1101, 1103, 1110, 1113, 1153
Realistic	1013, 1015, 1023, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110
Runco	1010, 1153
Sampo	1150
Samsung	1003, 1013, 1024, 1026, 1040, 1045, 1062, 1078, 1083, 1090, 1100, 11051114, 1120, 1121, 1146, 1148, 1157
Sansui	1119
Sanyo	1003, 1025, 1051, 1072, 1077, 1091, 1156, 1157, 1158
Sharp	1003, 1013, 1014, 1015, 1045, 1055, 1064, 1066, 1076, 1089, 1123
Signature	1009
Sony	1001, 1102, 1108
Soundesign	1003, 1023, 1038, 1063, 1113
Starlite	1023
Supre-Macy	1134
Sylvania	1003, 1039, 1042, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1089, 1151
Symphonic	1023, 1039, 1044
Tandy	1014
Tatung	1069
Technics	1018
Techwood	1003, 1018
Teknika	1003, 1009, 1013, 1023, 1024, 1026, 1038, 1045, 1047, 1059, 1063, 1111, 1113
Telecaption	1074
Toshiba	1003, 1019, 1025, 1026, 1042, 1074, 1098, 1107, 1111, 1135, 1136
Totevision	1013
Universal	1046, 1054
Video Concepts	1113
Viewsonic	1006, 1022, 1109, 1128, 1129, 1130, 1131, 1138, 1143, 1145, 1150
Wards	1003, 1009, 1015, 1024, 1038, 1044, 1046, 1052, 1054, 1056, 1057, 1067, 1086, 1103, 1110
White Westinghouse	1001, 1101
Yamaha	1003, 1024
Zenith	1003, 1009, 1010, 1132, 1144, 1153

CD プレーヤー

ソースボタン名：CD

メーカー	コード
AIWA	3001, 3002, 3003
AKAI	3004, 3005, 3006
AUDIO	3007
AUDIO LABS	3008
CALIFORNIA	3008
CARVER	3010, 3011, 3009
CASIO	3012, 3020
CURTIS	3020, 3012
DENON	3013
EMERSON	3014
FISHER	3011, 3015, 3016, 3017, 3018
GE	3019
GENEXXA	3014, 3021, 3020
HARMON	3022, 3023, 3051
HITACHI	3020
INKEL	3024
JC PENNEY	3012, 3020, 3025
JVC	3026, 3027
KARDON	3022, 3051, 3023
KENWOOD	3028, 3029, 3030, 3031, 3032, 3033
KRELL	3010
LUXMAN	3035, 3036, 3037, 3038
LX I	3012, 3020, 3014
MAGNAVOX	3010, 3039, 3040
MARANTZ	3010, 3041, 3042, 3043
MATHES	3012, 3020
MCS	3012, 3020
MGA	3023
MISSION	3010
MITSUBISHI	3023, 3044
NAD	3034, 3045
NAKAMICHI	3046, 3047, 3048
NEC MCS	3025
NIKKO	3007, 3016
ONKYO	3049, 3050, 3051, 3052, 3055, 3102, 3103

OPTIMUS 3011, 3014, 3020, 3028, 3053, 3054, 3056, 3057, 3058, 3059
PANASONIC 3008, 3060, 3061
PHILIPS 3009, 3010, 3010, 3040
PIONEER 3020, 3021, 3062, 3063, 3064
QUASAR 3008
RCA 3011, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
REALISTIC 3011, 3014, 3020, 3042, 3054, 3057
ROTEL 3010
RS ORIGINAL 3070
SAE 3010, 3083
SAMSUNG 3071
SANSUI 3014, 3068, 3072, 3073
SANYO 3011, 3018, 3074, 3075, 3076
SCOTT 3014
SEARS 3012, 3014, 3020, 3028, 3042
SHARP 3028, 3042, 3077
SHERWOOD 3042, 3056, 3070, 3078, 3024
SHURE 3025
SONY 3039, 3079, 3080, 3081, 3082, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101
SYLVANIA 3010
SYMPHONIC 3083
TEAC 3016, 3042, 3057, 3083, 3084, 3085, 3086
TECHNICA 3007, 3008, 3061, 3087, 3088
THETA DIGITAL 3040
TOSHIBA 3045
VICTOR 3026
YAMAHA 3007, 3089, 3090, 3091, 3092
ZENITH 3016, 3093, 3094, 3095, 3096

DVD プレーヤー

ソースボタン名 : DVD

Aiwa 2036, 2037
Apex 2012, 2017, 2018, 2019, 2021, 2034
BOSE 2038, 2039, 2063
Denon 2047, 2048
Funai 2049
GE 2009, 2020, 2029, 2033
Harman Kardon 2061
Hitachi 2008, 2012, 2031
JVC 2006, 2010, 2040, 2041, 2042, 2043
Kenwood 2053, 2054
Koss 2058
Magnavox 2007, 2011, 2023, 2025
Marantz 2025
Marantz (Blu-ray) 2064
Mitsubishi 2011, 2015
Onkyo 2062
Oritron 2009, 2030
Panasonic 2003, 2015, 2016, 2055
Philips 2007, 2011, 2058
Pioneer 2002, 2014, 2056
Proscan 2009, 2020, 2032
RCA 2005, 2009, 2020, 2035, 2057
Sampo 2041
Samsung 2008, 2012, 2022, 2024, 2027
Sanyo 2050, 2052
Sharp 2044, 2045
Sherwood 2051
Sony 2001, 2013, 2059
Toshiba 2004, 2008, 2026, 2028
Yamaha 2046, 2060
Zenith 2010

衛生放送チューナー

ソースボタン名 : DSS

Alphastar 4027
Amstrad 4046, 4047, 4050
Atsky 4048
B Sky B 4021, 4045, 4046
Chaparral 4039
DIRECTV 4001, 4016, 4044
DISH Network 4030
Drake 4026
Echostar 4007, 4017, 4018, 4019, 4020, 4062, 4063, 4064
Eurosky 4047, 4056
Express Vu 4017
Foxtel 4051
Freesat 4056
Fujitsu 4025
GE 4002, 4008, 4009
General Instruments 4036, 4037
Gradiente 4044, 4057
Hitachi 4001, 4015
Hughes 4001, 4016
Humax 4049, 4050, 4051, 4052, 4053
Janeil 4025
JVC 4017
Mitsubishi 4001
Nokia 4058, 4059, 4060, 4061
Optima 4048
Panasonic 4004, 4010
Philips 4031, 4035, 4044, 4057
Proscan 4002, 4008, 4009, 4011
Radio Shack 4036, 4037
RCA 4002, 4008, 4009, 4029
Realistic 4040
Rural Cable 4036
Samsung 4022, 4027, 4042, 4043, 4050, 4054, 4055
Schneider 4041, 4043
SKY 4044, 4045, 4057
Skyplus 4048
Skysat 4041, 4047, 4056
Sony 4003, 4012, 4014, 4065, 4066, 4067
Star Choice 4032
Star Trak 4024
STS 4038
SuperDish 4028
Teac 4049
Thomson 4046, 4056
Toshiba 4001, 4034
Uniden 4005, 4006, 4013
Universum 4056